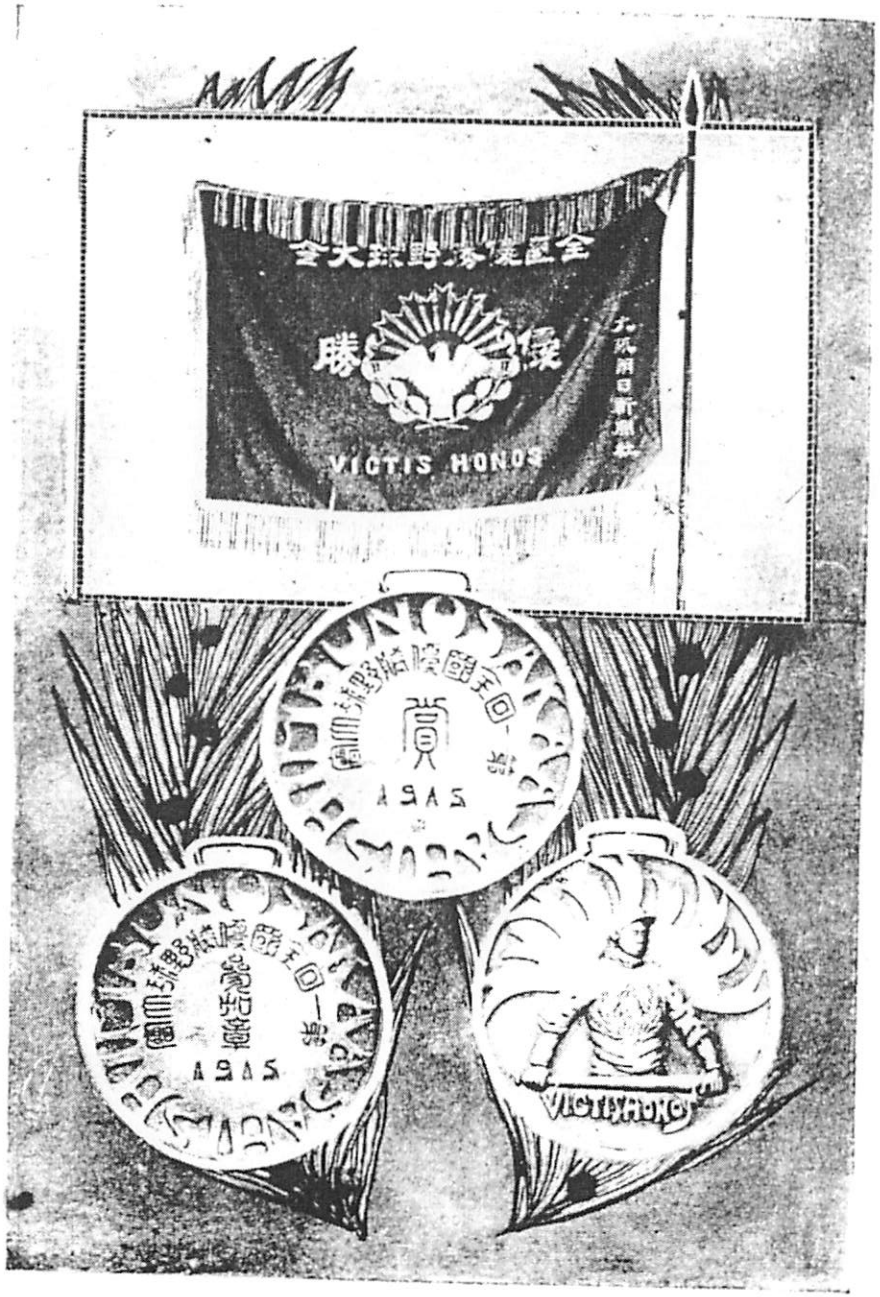
大正四年十月發行

第一回

全國野球大會記錄

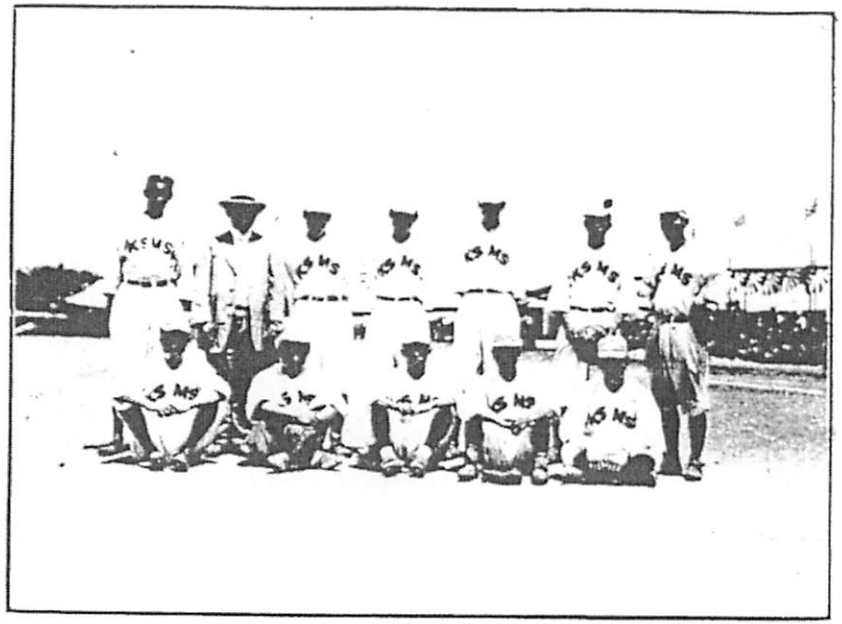
主催　大阪朝日新聞社

非賣

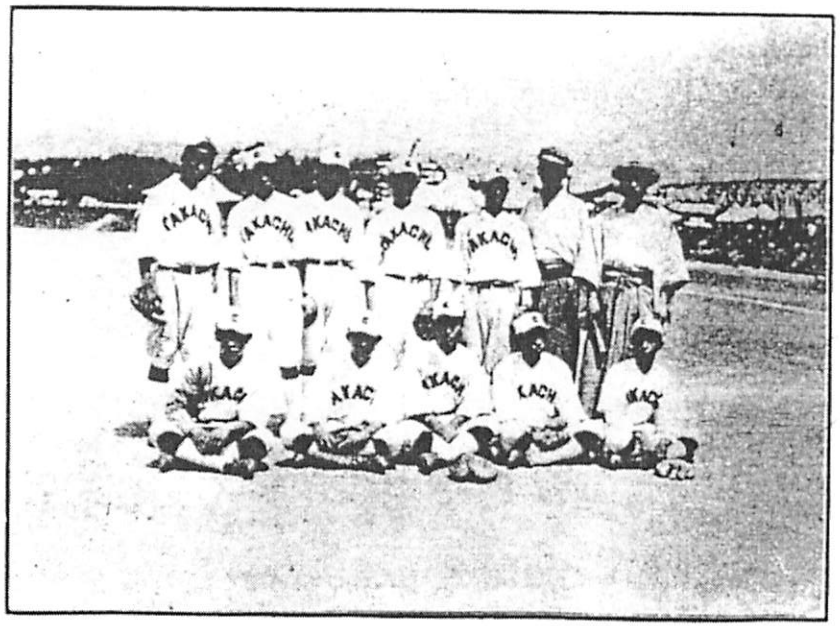


旗勝優會大球野勝優國全（上）
章勝優ミ章加參（下）

京都第二中學校



參加選手の勇姿（一）

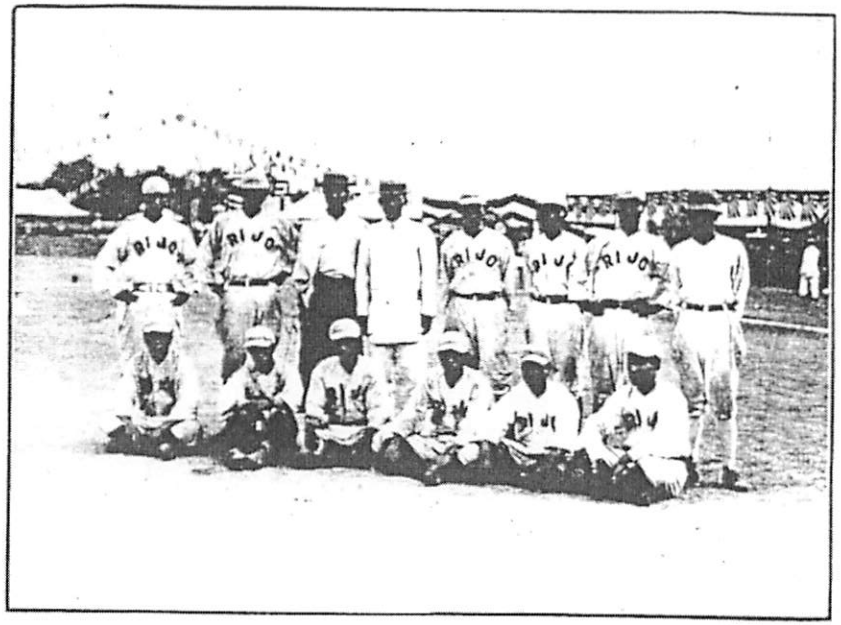


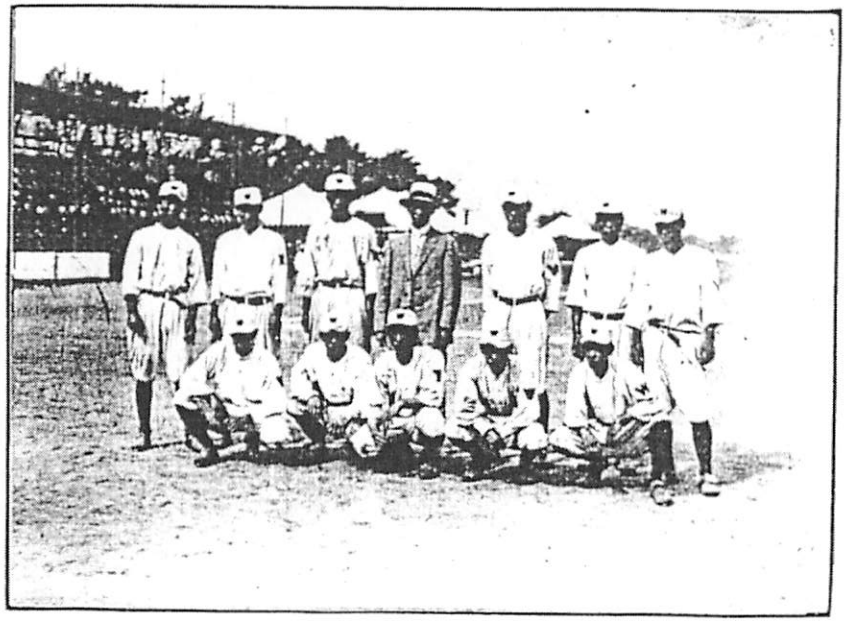
高松中學校

氏郎三寅木荒 士博學醫長總學大都京 長判審學名（上）
氏雄松井福 士博學理 長判審副（右下）
氏助之寅岡平 長判審副（左下）

參加選手の勇姿（二）

廣島中學校

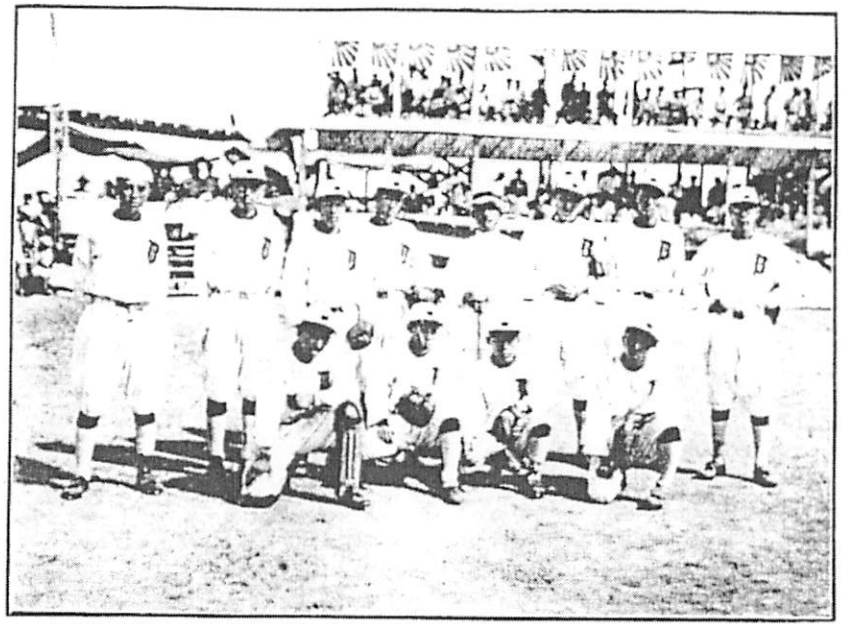


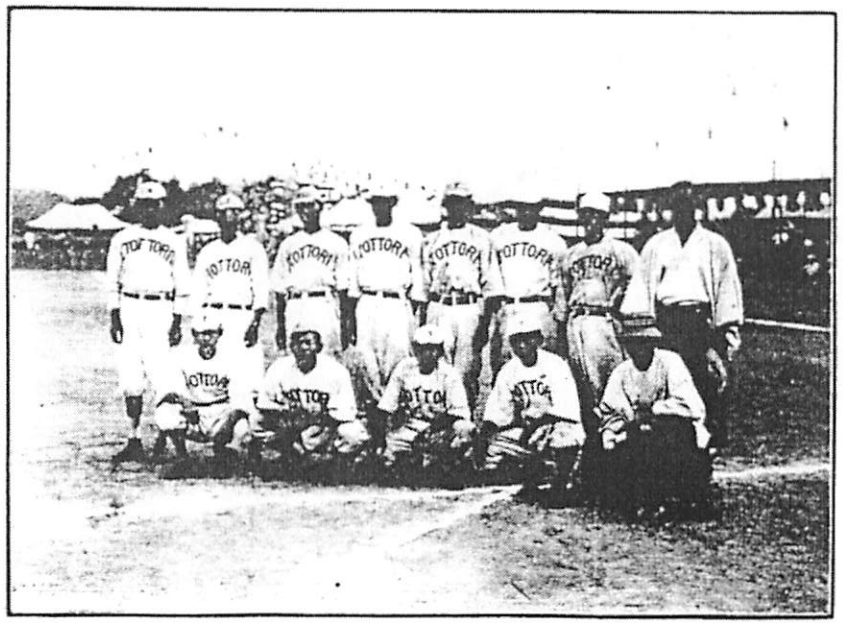


和歌山中學校

參加選手の勇姿（三）

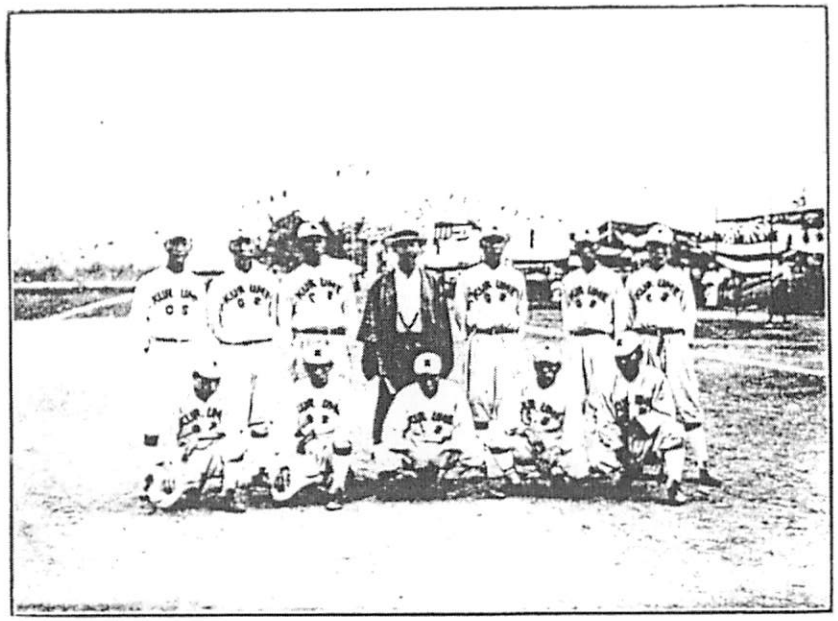
早稲田實業學校

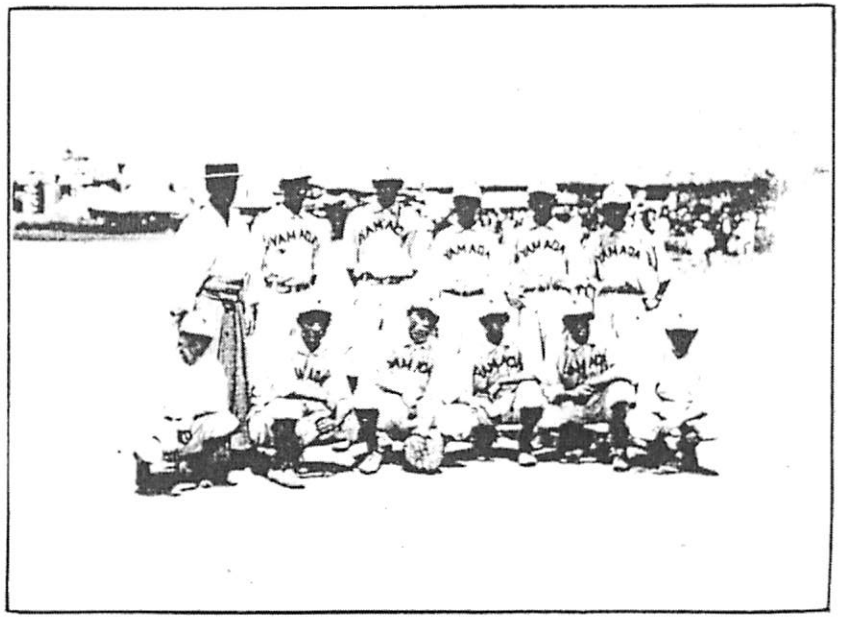




鳥取中學校

久留米商業學校

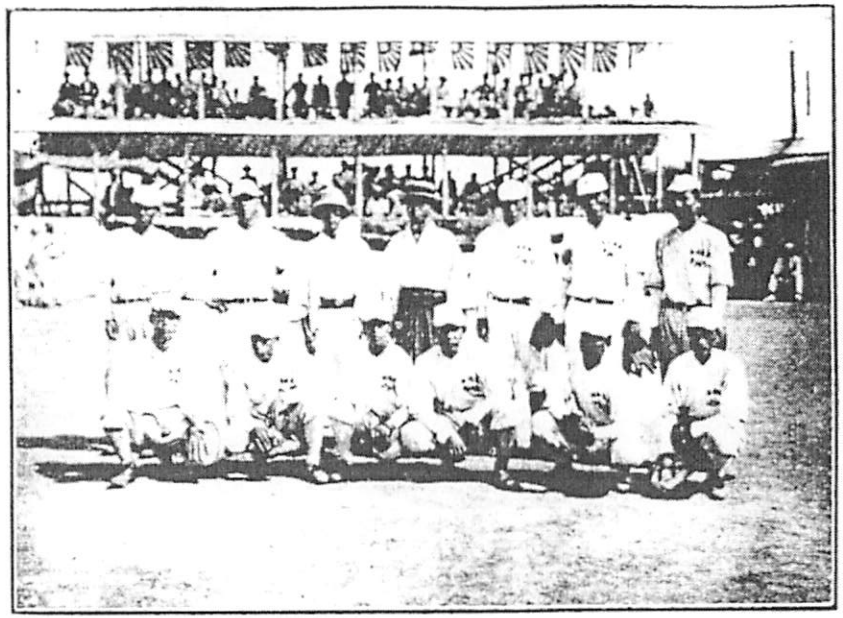


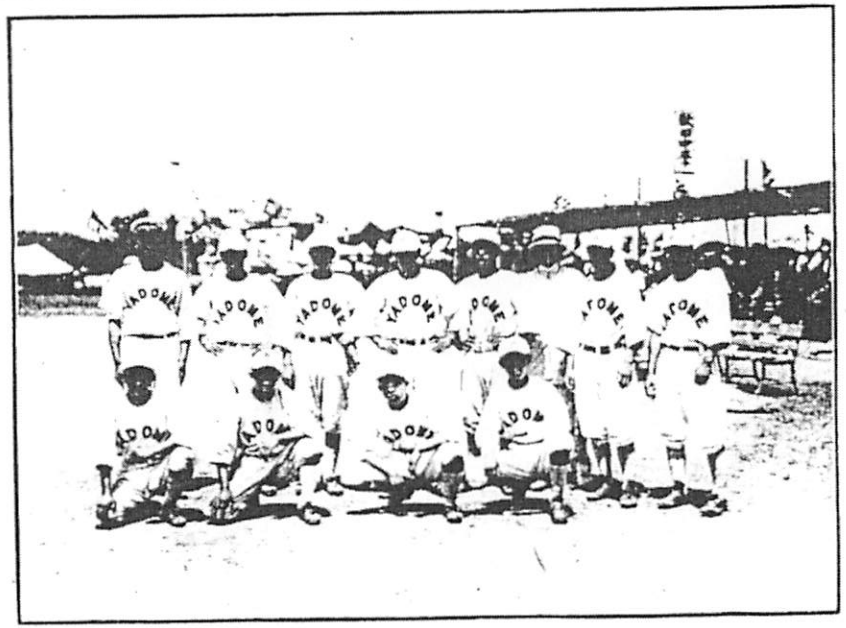


山田中學校

參加選手の勇姿（四）

第二神戸中學校

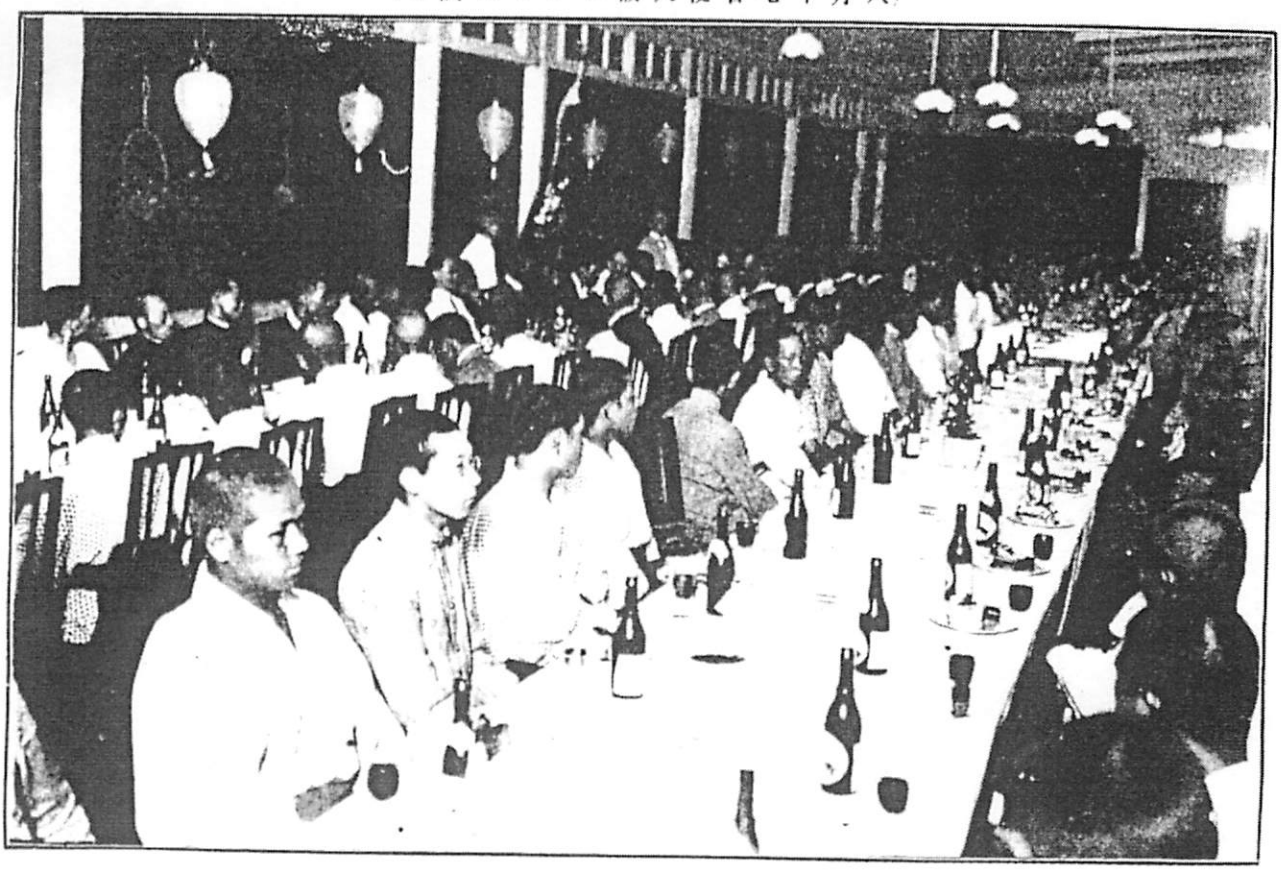


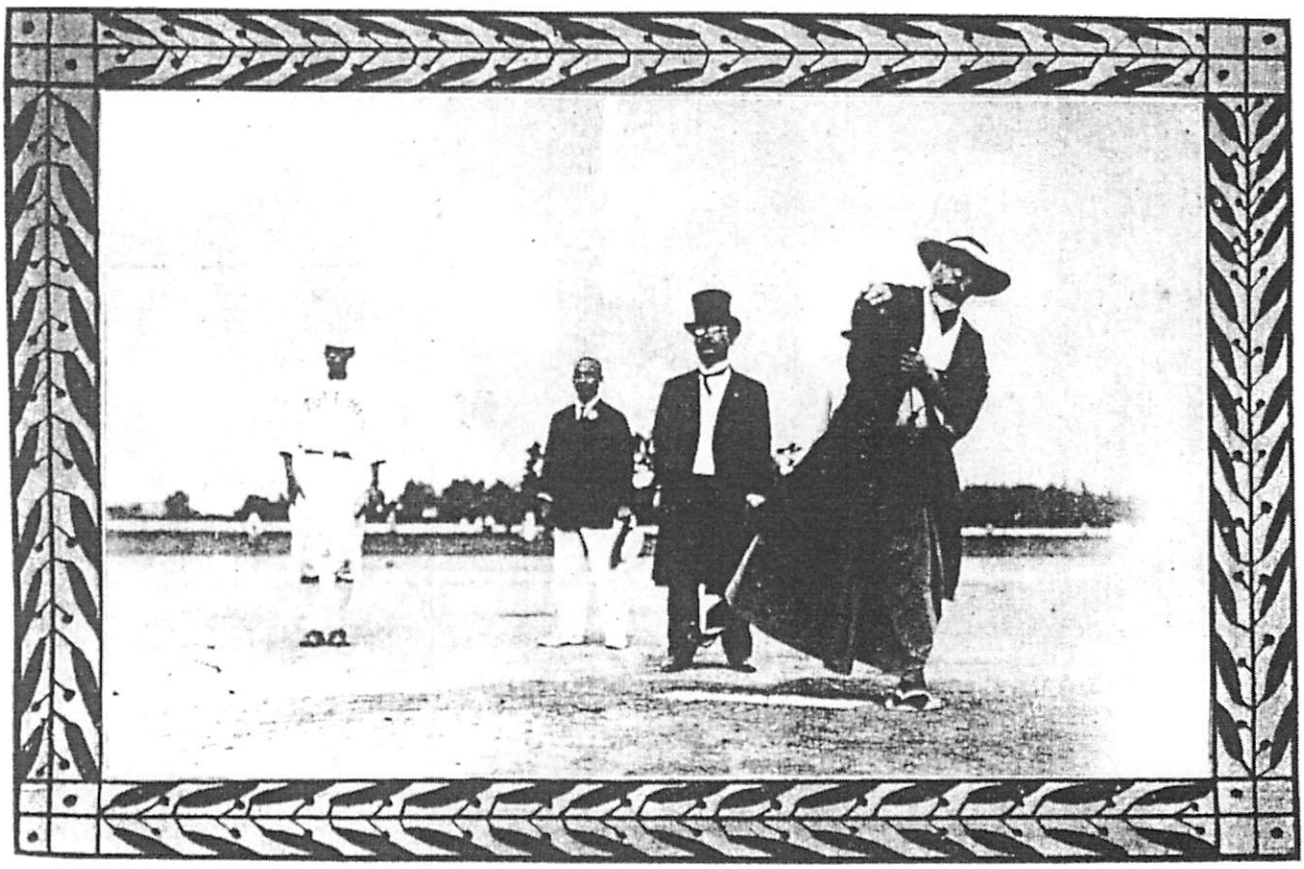


秋田中學校

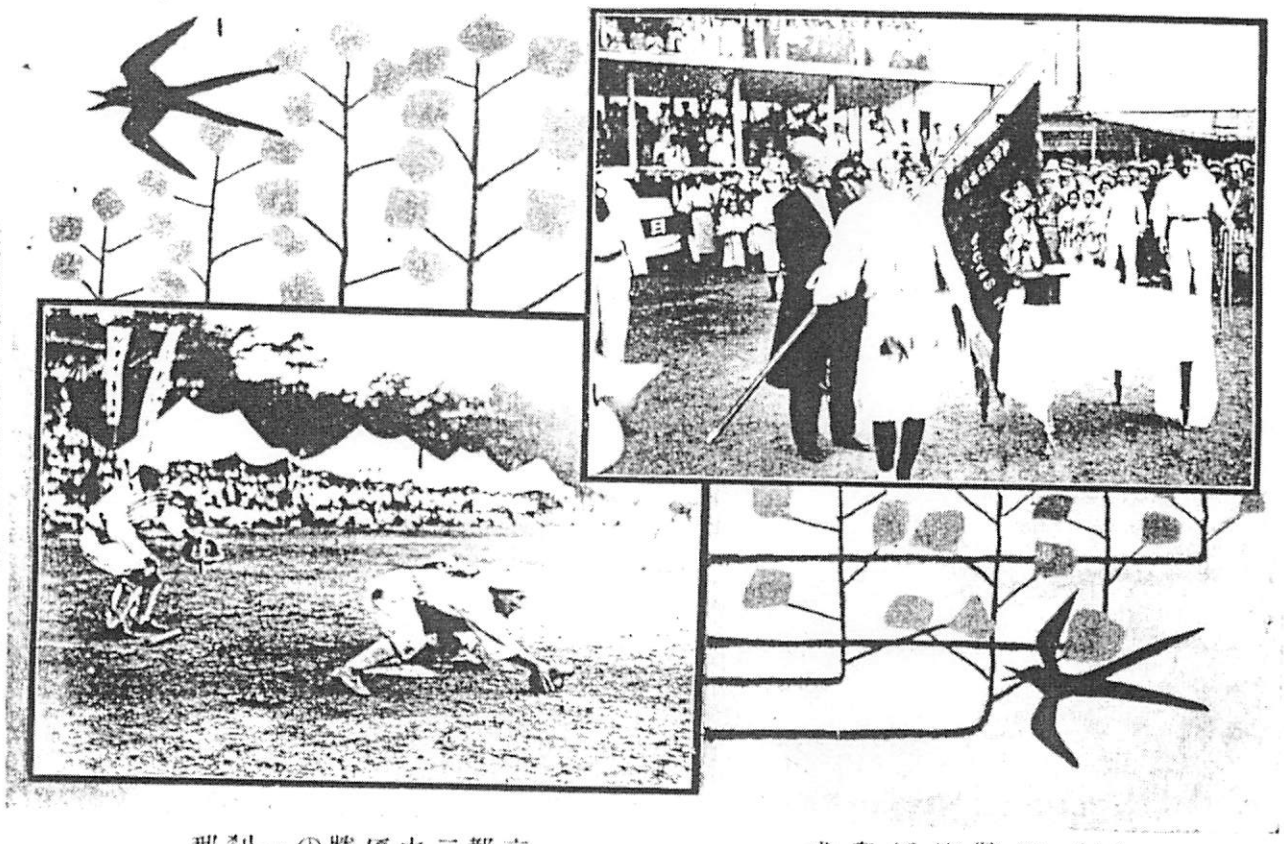
參加選手の勇姿（五）

參加選手大茶話會
（八月十七日夜大阪ホテルにて）





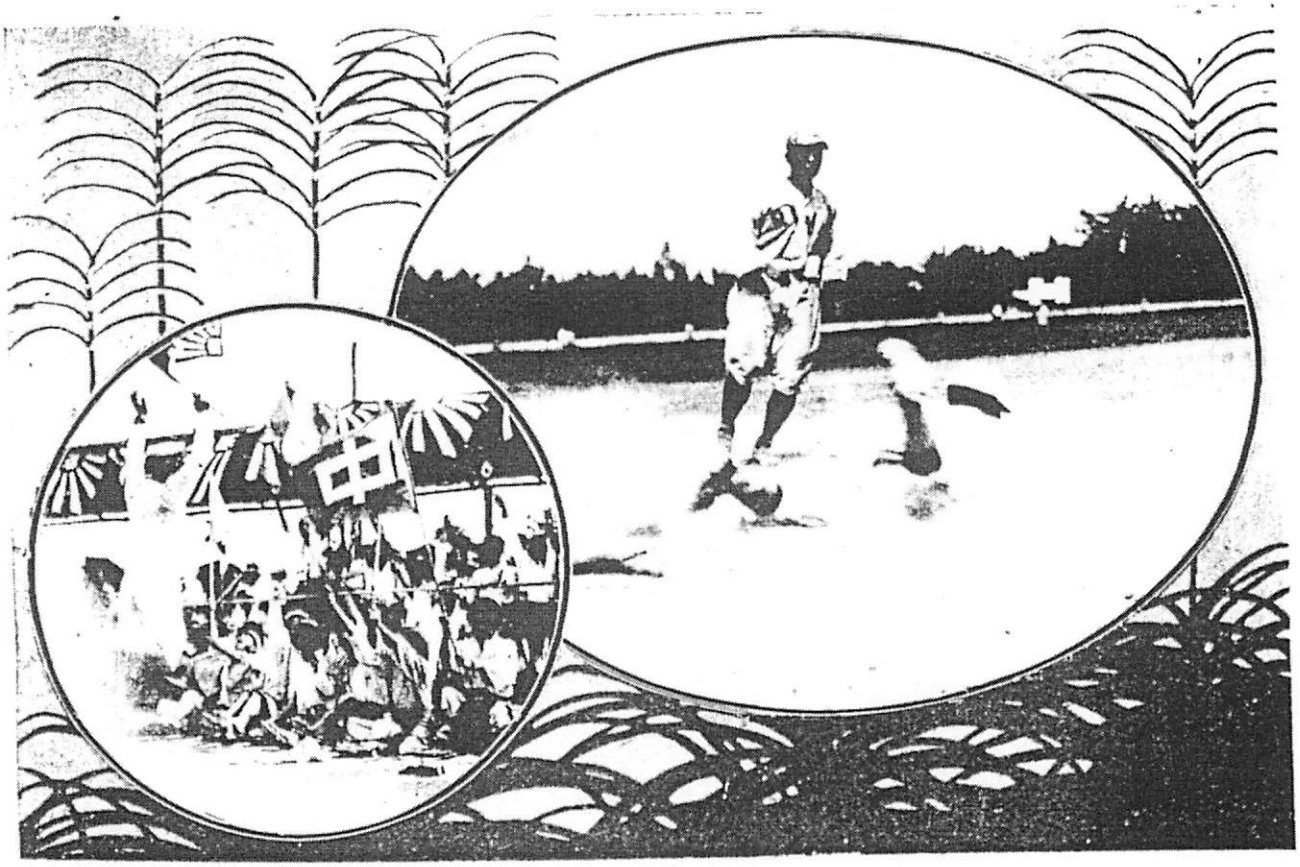
村山木社長の始球式
長判審副岡平（左）　長判審木荒（央中）



（授くるは荒木京大總長、受くるは仲京都二中主將）

秋田中學の一塁手信太本塁に投ぜしも遅る、一瞬時、京二中の大塲美事に辷り込む）

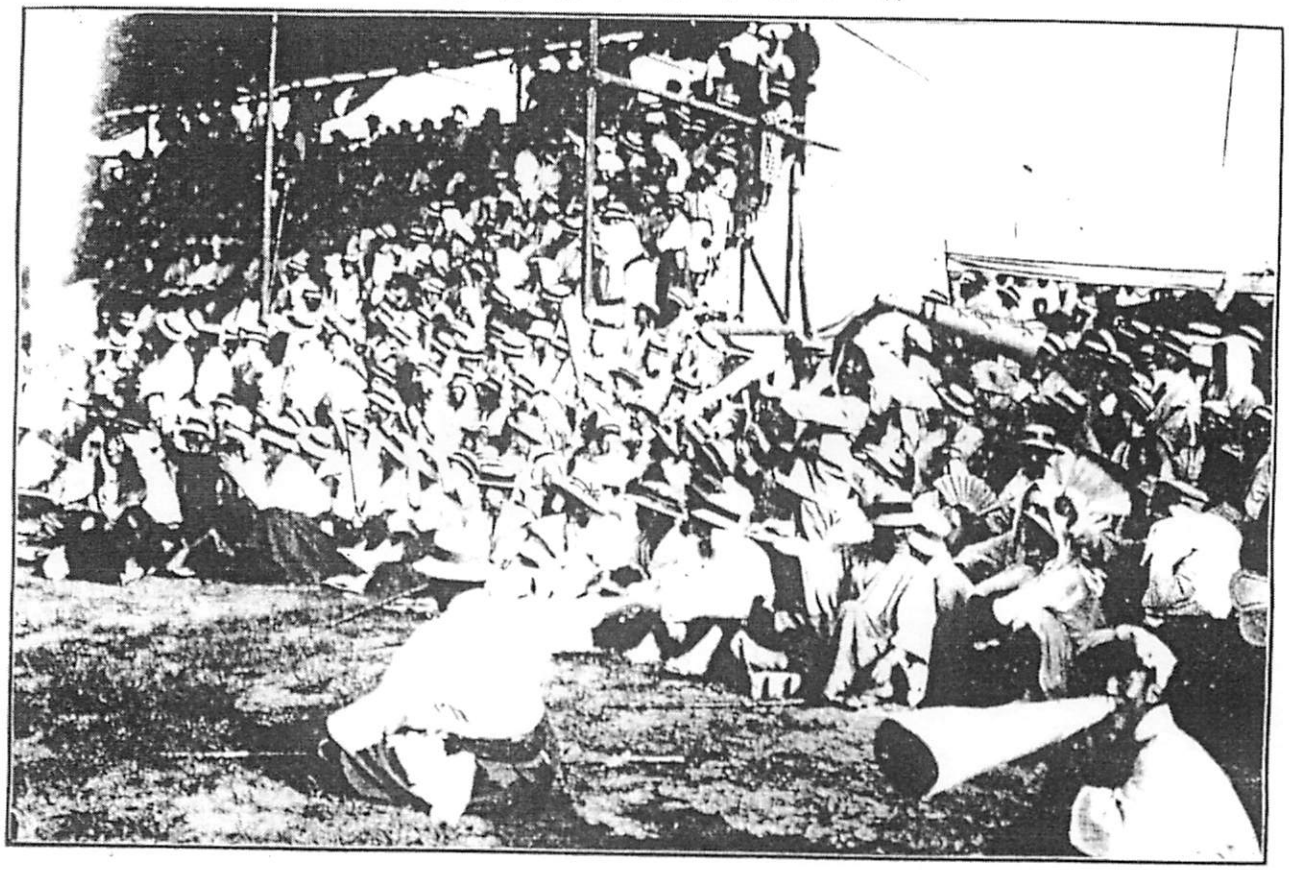
（上）優勝旗授與式　　京都二中優勝の一刹那



鳥取中學對廣島中學

（上）鳥中の鹿田三塁に辷り込む　（下）廣島の應援團中村中の木塁打に歡呼す

神戸二中對早稻田實業



熱狂せる觀衆　（應援隊は神戸二中）

京都二中對高松中學

（上）開校選手試合前の挨拶　（下）京二中の綾木莞爾として生還す

（上）集れる各地方の優勝旗　（中央は大陸勝旗）

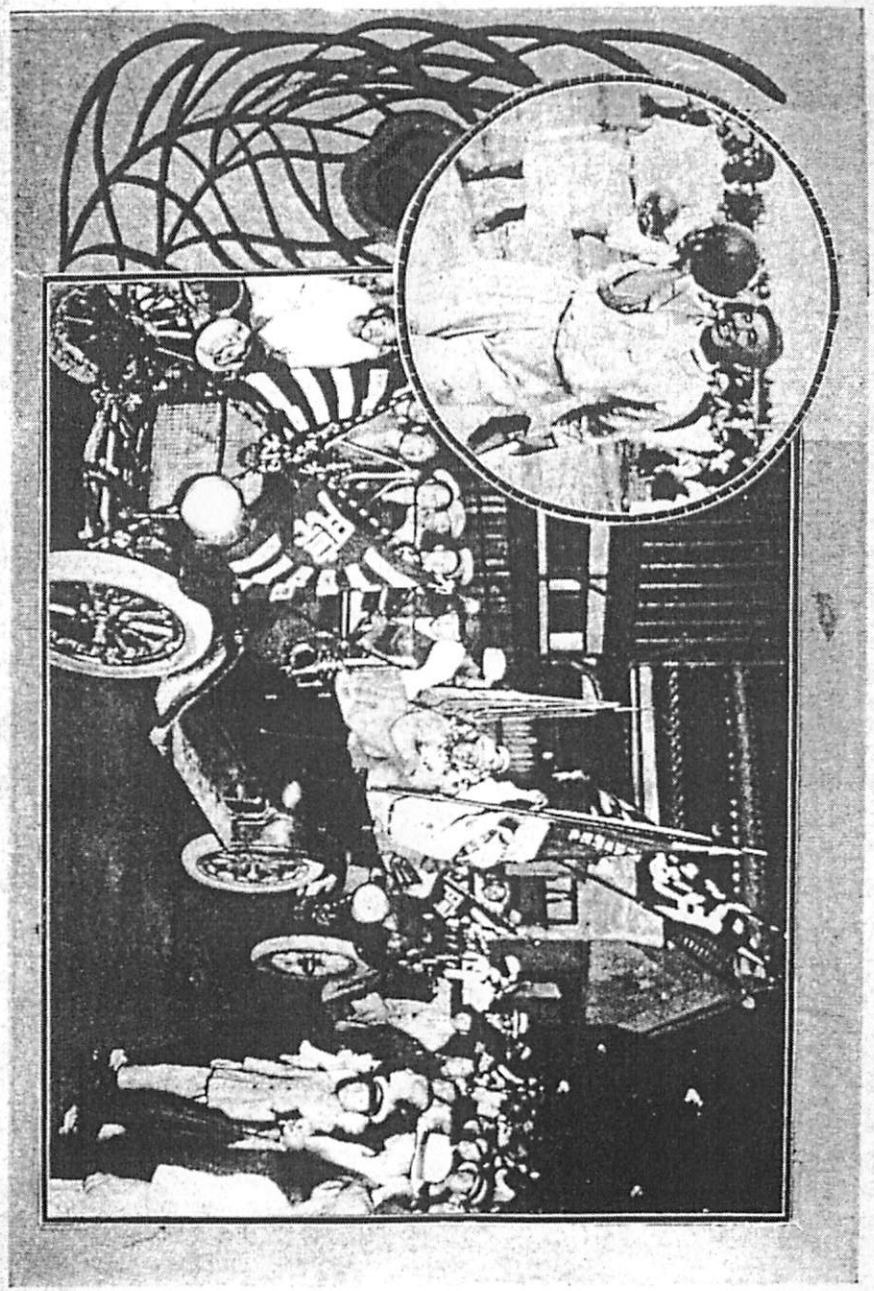
（下右）山田中學對秋田中學（秋中の羽石三塁打を飛ばして走る）

（下左）和歌山中學對鳥取中學（和中の永岡本塁に辷込んで刺さる）

（下）秋田中學對早稲田實業（試合後兩軍主將の握手）

（上）和歌山中學對京都二中（京中の森田三、本塁間に夾殺さる）

會場に詰掛くる群衆



手選勝優の上車働自
長判部副岡平たつ勝に合試自紅の員委は熱な相し嘱（上）

努力すべき過渡期

大正四年七月一日、我が大阪朝日新聞社は八月中旬を期し第一回全國中等學校優勝野球大會を主催すべきことを發表したり、野球技の我國に來りて未だ幾何ならざるに早くも其の驚くべき隆盛發達を觀、今や已に其の國技たらんとするに至る、思ふに我が角力のそれに於けるが如く野球技も亦我があらゆる階級に亙つて多少とも殆んど理解されざるなし、殊に青少年學生間に於ける運動としての野球に至つては運動即ち野球、野球即ち運動たらんとする大勢にして尠くも野球が現時我が運動界の權威たり中心たる事實は何人といへども異論なかるべく、其の本場たる米國人をして『未來ある世界第二の野球國』と推稱せしめたる所以のもの、强ち彼等のお世辭のみにはあらざるなり、然れども仔細に我が野球界の現狀に見んか、斯界の頂上は依然早慶明の三大學に留めを刺し、而して未だ其の標高線を登破する者なく、幸に其處に意氣の横溢せるものありといへども其の技、其の精神、遺憾ながら尙未だ混沌の域を脱せず、言はゞ我が野球界は當に努力を要すべきの過渡時代に逢着しつゝあるなり、而も球界聊か事無く泰平に馴れて沈滯の氣分漸く兆さんとす、今日に於て之が進歩と改良を圖らざれば復遂に救ふ能はざるに至るなきかを恐る、而して之が對策たるや、一に以て眞摯にして大なる刺戟を提供するに若くはなし是れ我社が蹶然起ちて此第一回全國優勝野球大會を擧行したる所以なりとす

日本式野球の振興

早慶明及各專門學校のチームは我國に於ける代表的選手なり、然れども若し我が野球界に幾多の潑剌たる中學チームのあるなからんか、彼等は如何にしてか其命脈を保ち得べきか、幸にして凋落の影を留めざるは偏に意氣横溢せる中學チームの賜物にして我が野球界の核心又實に茲にあるを證す即ち中學チームの盛衰は延いて我が野球界の盛衰にして中學チームの任やまた重しといはざるべからず、されど翻つて中學チームの現狀を見るに由來其の活躍し來りし範圍は一見甚だ廣大なるが如くにして實は却つて甚だ狹小なりき、即ち試合競技は從來各地方に開催されたる野球大會に出場す

るを以て最こし中には毎年一二校の相手を求むるに苦むものさへあり、稀には所謂遠征こ稱する武者修行を試るものもあれど、これまた全國校數の上より見れば極めて僅少の範圍を出でず、多くは其のチームの黄金時代に於ける花火の如き一時的活躍のみ、斯くの如き有樣なるを以て各中等學校の野球兒は各其の地方に於ける野球大會に出で、之が優勝者たらん事を以て最後の目的こなし一般好球家も亦之を以て最上の滿足こ爲さゝるを得ざりき、この時に當り未だ嘗て相見たる事すらなき全國各地より各其の代表チームを選拔し之を大阪

全國十地方代表校

全國の中等學校チームを悉く一場に會せしめん事は是れ言ふべくして到底行ひ得べき處にあらず、說を爲す者あり、一地方より數校宛を集めんかこ、然れども之も亦其事自體に於て容易ならざるのみならず、其目的に向つて果して十分なる効果を擧け得べきかに疑あり、又興味の點により之を見るも徒らに數多きのみにして內容の貧弱なるは識者の採らざる所なるを以て、我社は全國各地方に於ける府縣聯合野球大會の本年度の優勝校を其の地方各校の代表者こ認め、之に本大會の參加權を附與し、特に選手十一名及び監督者一名に對し其の

の一場に會して其の烈々火の如き技を戰はしめ以て光榮ある全國の選手權を爭はしめんこす、滿天下の好球兒をして思はず歡喜の聲を揚げしめ「野球界の革命到れり」こ絕叫せしめたるも亦故なきにあらず、未だ其の詳報を發表せざるに先ち早くも彼等をして熱狂せしむる丈けの力ありたるを察すべし、是れ從來此種の計畫は一種の空想事に過ぎざるが如く思惟されつゝありし結果なるが、我社が幾多の困難を排し敢てこの大會を決行するに至りしは一に眞面目なる武士道的野球技の振興發達に貢獻せんこする微衷に外ならざるなり

遠近に係らず往復の汽車電車又は汽船賃を負擔するの議を決し、中等學校の現狀にありて最も不滿足なりこせらるゝ經濟上の補助を提供し以て其の參加を容易ならしむるの擧に出でたり、而して我社は又一方に於て地方大會の存在せざりし地方に對しては特に本社各地通信部主催又は後援の野球大會を行はしめ遂に左の全國十地方大會を決行するに本大會參加團體こして認定したり

一 東北野球大會　本年は特に秋田市に於て希望校のみ豫選試合を行ふ

二 東京都下野球大會　武俠世界社主催、今春擧行

三 東海野球大會　聯合主催、三重縣富田中學校庭に於て擧行

四 京津野球大會　本社京都通信部主催、京都第三高等學校庭に於て擧行

五 關西野球大會　美津濃主催、豐中グラウンドに於て擧行し特に大阪府、奈良、和歌山二縣の代表校を選定す

六 兵庫縣野球大會　本社神戸通信部主催、神戸關西學院校庭に於て擧行

七 山陽野球大會　本社廣島通信部主催、廣島高等師範學校庭に於て擧行

八 山陰野球大會　本年は鳥取島根兩縣に於て各縣共同豫選試合を行ひ更に代表者を選定す

九 四國野球大會　高松體育會主催、高松市商業學校庭に於て擧行

十 九州野球大會　拔天倶樂部主催、福岡市東公園福岡商業學校庭に於て擧行

選手悉く集まる

本社が其の地方を代表せる大會こ認めたる前記十地方大會中夏期休暇前已に代表校即ち優勝者の確定し居たるものは去る四月擧行されたる東京都下野球大會のみにして早稻田實業學校は其優勝者こして獨り大會參加の光榮を誇りつゝありしが漸く夏季休暇に入るや我社京都通信部主催の第一回京津野球大會は先づ花々しく火蓋を切り、同大會の未だ終了するを待ずして東北臨時大會の擧行せらるゝあり、早くも秋田縣立秋田中學校其の優勝權を獲、次で京都滋賀を代表せる京津大會は京都府立第二中學校をその優勝者に擧げたり、之に引續き九州大會に於ては久留米市立久留米商業學校優勝し、兵庫縣大會、四國大會、山陽大會、鳥取島根兩縣大會、關西野球大會、東海野球大會、山陰決勝戰等八月に入りてよりは殆ど一日の空日なく相連續し或は二三大會の日を同じうして擧行さるゝなど各地方大會は宛ら沸くが如き光景を呈し、何れも空前の盛況を傳へざるはなく、殊に其最後を飾れる優勝決戰の如き何れもクロスゲームの見事なるレコードを遺さゞるはなかりき、斯くて休暇前に

は僅に早稲田實業の一校のみなりし全國十地方の代表校は八月十五日豐中グラウンドに於ける山陰兩校の決戰を最終として全部確定し、秋田中學、早稲田實業の如きは此時已に來阪の途にあり、其他各校も亦相次いで其の郷里を發し八月十六日夜の

周到なる大會規定

この間に於て本社は大會に關する諸般の規定其他を逐次發表せるが本社は試合を行ふに當り嚴正公平にして些の遺漏ならしめん事を期し左の知名の諸氏を選び委囑するに大會委員たる事を以てしたるに何れも其の快諾を得或は烈日下のグラウンドに立ち或は審判臺にありて其の任務を盡されたるは本社の感謝措く能はざる所なり

▲大會綱領

一、本大會は野球技の本領を發揮するを以て目的とす
一、本大會は全國中等學校野球界の優勝權を決定す
一、本大會は年一回本社別に定むる所に依りて參加校を選定し阪地に於て優勝試合を行ふ
一、本大會の參加校は本社に於て認めたる地方野球大會の最優勝校に限る
一、第一回大會は大正四年八月十八日より向ふ五日間大阪市外豐中グランドに於て挙行す
一、本大會の最優勝校に對しては本社特定の優勝旗を授與す
一、優勝旗は優勝旗受領校に於いて次回大會まで保管の責に任ず
一、本大會參加校の選手十一名に對しては參加記念章を呈す
一、最優勝校選手十一名に對しては本社特定の優勝賞牌を呈す

▲試合規則

一、審判は最終とす
一、審判は審判長、副審判長及び審判員若干名を以て之を行ふ
一、試合番組は抽籤を以て決す
一、抽籤の結果相手方なきチームを勝者と看做す
　但一度び抽籤に依りて勝者となりたる者は次回に於て抽籤勝者たることを得ず相手方の選擇に依り不戰勝者となりたる場合亦之に準ず
一、審判員に於て不正行爲ありと認めたるチームは之を除外す

久留米商業を殿りとして參加校十校、選手一百十名悉く大阪に集まり各梅田停車場附近に宿舍を取り直に豐中グラウンドに至りて猛烈なる練習を開始したり

一、試合豫定時刻は厳行す
　但前回の試合終了せざる時は次回に移らず
一、出場選手は必ずユニホーム着用の上試合開始豫定時刻より少くとも三十分前に來場すべし
一、プレヤース・ベンチに着席するものは選手十一名に限る
一、試合用球は荒目縫試合用二號ボールとし全部本社に於て之を提供す
一、ウインニングボールは之を勝者に與ふ
一、試合用球以外の器具は各自持參すべし

▲審判規定

一審判は總て最近のリーグ・レギュレーションに準據し特に定めたる條項及びグラウンド・ルールに據つて判決を下す
一競技開始前に於て當該正審判員は試合兩組に對し注意條項を說明す
一審判に疑義の生たる時は審判長之を決す
一審判員は四人とす
一直接審判の用語は總て英語を用ふ

▲試合日時割

第一回　第一日（十八日）　午前八時開始
第二回　正午開始
第三回　午後三時開始
第二日（十九日）
第一回　午前九時開始
第二回　午後一時開始
之にて第一次豫選を終る
第一日（二十日）
第一回　午前九時開始
第二回　午後一時開始
之にて第二次豫選（一勝者試合）終る
第四日（二十一日）
第一回　午後二時開始
之にて第三次豫選（二勝者試合）終る
第五日（二十二日）
優勝試合　午後一時開始

▲大會委員（いろは順）

名譽委員

審判長　京都帝國大學總長　荒木寅三郎
副審判長　京都高等工藝學校教授理學博士　福井松雄
同　日本製樽會社取締役　平岡寅之助

委員

七高學生　井上市太郎
舊早大選手　大井實
京大學生　大久保純彥
神戸高商學生　岡本榮二郎
三高選手　折田有愼

舊早大選手　河野安道志
同志社大學選手　吉田久雄
京大學生　高山義三
早大出身　高瀬發
舊三高選手法學士　都築彌四郎
舊慶大選手　奈良崎健三
舊三高選手工學士　町田耕三郎
舊早大選手　松田捨吉
同　増田稻三郎
三高選手　小林精一郎
京大學生　小西作太郎
舊慶大選手　佐々木勝麿
大阪高醫選手　菊名寛一
關西學院高等科選手　三木政太郎
東大學生　平賀五郎

▲參加選手氏名

秋田中學校

監督　小室教諭　遊撃　小山田推一
投手　長崎廣　左翼　羽石統一
捕手　渡部純司　中堅　丹市郎
一塁　信太貞　右翼　野口眞吉
二塁　齋藤長治　補欠　土井繁治
三塁　鈴木桑治　同　高橋巍

高松中學校

監督　松原教諭　投手　大西禎夫
捕手　加納慶德　左翼　木村博
一塁　中村仁　中堅　高橋直道
二塁　岸田胖　右翼　懸川喜六
三塁　高橋仁　補欠　下津薫
遊撃　岩瀬喬　同　作花精一

廣島中學校

監督　宇佐美教諭　遊撃　廣藤省三
投手　岸安三　左翼　菅安三
捕手　田邊謙三　中堅　増岡増造
一塁　中村隆元　右翼　植村照夫
二塁　小田大助　補欠　山縣清
三塁　倉本俊雄　同　林田壽

京都第二中學校

監督　加藤教諭　遊撃　綾木保次郎
投手　藤田元　左翼　内藤源次郎
捕手　山田惣次郎　中堅　仲啓吉
一塁　西川五三郎　右翼　野上實
二塁　津田良三　補欠　岡井明義
三塁　大場義八郎

早稲田實業學校

監督　鈴木幹事　遊撃　石井順一
投手　白井林太郎　左翼　石崎俊彌
捕手　岡田源三郎　中堅　中澤隆昌
一塁　平田正義　右翼　霜島敬司
二塁　三川一雄　補欠　須田隆三
三塁　宮川勉　同　小池榮

和歌山中學校

監督　中本教諭　遊撃　西村秀行
投手　戸田省三　左翼　小笠原道生
捕手　矢部和夫　中堅　奥山彌太郎
一塁　永岡一　右翼　小川豊
二塁　小川錦水　補欠　谷口忠夫
三塁　中筋武久　同　丸山豊秋

鳥取中學校

監督　名原教諭　遊撃　竹岡貞
投手　鹿田一郎　左翼　上田登之助
捕手　松田重勇賛　中堅　中澤卯吉
一塁　松木啓治　右翼　小谷榮治
二塁　岩田健治　補欠　伊谷芳藏
三塁　田村豊　同　中村延孝

山田中學校

監督　西澤教諭　捕手　菊川武雄
投手　西川孝二　一塁　置鹽周
二塁　熊森重信　中堅　田中隆三
三塁　前納良平　右翼　菊川茂
遊撃　澤山松緑　補欠　谷口胖
左翼　堤周成　同　藤井喜助

久留米商業學校

監督　島津教諭　遊撃　片岡雅彦
投手　城崎才次郎　左翼　本間義雄
捕手　田中一郎　中堅　今里喜次郎
一塁　森崎一郎　右翼　内藤直義
二塁　佐藤清助　補欠　秋山安藏
三塁　藤吉直藏　同　金原義平

第二神戸中學校

監督　岩佐教諭　遊撃　田中勘吾
投手　今村幡象　左翼　兒島一士
捕手　陸好安夫　中堅　橋本一男
一塁　村田雄二　右翼　藤原英夫
二塁　箸藏史樓　補欠　岸本亂夫
三塁　上村隆之助　同　松夫亥一

參加選手茶話會

本社は遠々來れるの勞を犒ひ且つ選手相互の親睦を増進せしめんがため大會の前夜即ち十七日午後七時より大阪ホテルに於て參加選手大茶話會を開催せり、來り會する者參加十校の選手並に監督者百二十名を初めとし平岡、福井兩副審判長以下大會委員諸氏本社員等總計約二百名、ホテルの北側堂島川に面せるバルコニーに二列の長卓を並べ中央には金繡燦たる今次大會の優勝旗を飾り正七時一同着席したるが其の席順には態と學校或は地方に依る區分を設けず努めて各學校の選手相互間に懇談の機會を作る樣豫め彼此錯雜せる席次を定め置きたれば一校僅に十一名の選手も會場内到る處に分布して此處には東北秋田の選手と九州久留米の健兒秋を連ねて着席すれば彼處には山陽廣島の健剛東海

山田の勇者と肱を接して奇遇を語る、其の他四國、山陰、關東、近畿の各選手或は併び或は相對し藹々たる大團欒の和氣は先づ堂島川の涼風に通ふ、着席終ると同時に藤澤本社員司會者として簡單に開會の辭を述べつゝいて鳥居本社渉外部長は大會主催者たる本社を代表して「今夜此處に會せられたる諸君は既に夫々其の地方の大會に於て優勝の名譽を博し更に全國の覇權を爭はんが爲に遙々遠隔の地より參集せられし勇者の集團なり、而して我が社は往昔スパルタの國民が勇士を戰陣に送る前夜特に美酒佳肴の繁を避け極めて簡素なる別宴を張り以て其の征途を祝福するを道とせしと同樣の意味に基き此の簡朴なる茶菓を以て諸君を迎へ併せて明日以後の試合に於ける武運を祝福せんとするものなり」と一場の挨拶を述べ次に平岡副審判長は起ちて大要左の如き卓上演說をなしたり

既に鳥居氏も述べられたる如く諸君は各其の一地方を代表して責任ある戰場に臨まれんとするものなり從つて明日の試合を前にせる諸君の心中恐らくは穩かならざるものの有る可し然しながら勝敗は目的の全部に非ず一歩を退いて冷靜に且つ男子的に野球本來の意義と自他の位置とを考察すれば自から洒然たるもの無かる可からず、而して今回主催者が此の大會を創始するに至りし根本の意義を忘れず凡ゆる場合に德義を基本として善戰し自ら我國に於る野球競技の模範となり以て斯道興隆の道を開くの覺悟あらん事を切望す、吾々大會の委員に在りても特に此の點に留意し、現に今回制定せし試合前の禮式の如き野球の本場たる米國を初め諸外國一として斯る禮式に依りし例を聞かざれども德義を重んずる勇者の試合には必ず附隨すべき禮儀なりと信じて制定せし次第なり其の他凡ての試合規則も現在行はれつゝある處の者は元來米國のプロフエツシヨナル・チームに適應せしむるが如く作られたるものなれば、直に取つて以て第一國情を異にし競技場の設備を異にし且試合の性質並に技倆をも異にする我國の野球試合に適用するに不當なりと信じたるが故に各種の事情と場合を斟酌して特に協定せる點尠からず勿論それが爲に諸君が數十日間の苦慮を經て練磨せられたる技倆と各地方の大會に優勝せられたる名譽とに對しては寸毫も禍を及ぼさゞるやう留意せしものなれど何分僅々十數人の委員が十一時間の協議によつて決せし事なれば不備の點については幾重にも御諒察を乞はざる可からず次に吾人も曾ては屢經驗せし事なるが勝つて驕らず敗るゝも悲觀せず勝敗の如何は別問題として常に堂々たる勇者の態度を失はざらん事を心掛け且試合上の事につきても區々たる感情或は理論一方に偏せず飽まで德義と常識を以て臨み折角の大會をして無意義に終らしむる如き事無からん事を切望す

右終つて福井副審判長より「予の云はんと欲する處は平岡氏の所說に盡きたれば再び贅せず、唯諸君は諸君平素の用意と多年養はれたる各自の校風とにより正々堂々の戰ひを行はれん事を望む」と希望し、それより大會の主催地たる大阪及び奈良和歌山一府二縣の代表校たる和歌山中學選手の監督者中本教諭一同を代表して謝辭を述べ、ついで河野審判委員より過日の委員會に於て協定せし「疑義に關する審判規定」十一箇條につき詳細に說明する處あり愈選手の歡談に移りしが互に明日よりは渾身の智力と體力を傾倒して烈日のもとに奮戰猛鬪すべき敵味方同士の會合なるにも拘らず恰も十年歡語の友の如く胸襟を披いて且つ語り且つ笑ふ、眞に古武士の感懷も斯くやと偲ばれて欣羨措く能はざるものあり、斯て互に十二分の交歡を盡したる後一同大阪朝日新聞の萬歲を三唱し各隣席の敵味方と固き握手を交へつゝ來る可き競技場裡の再會を約して散會したるは折柄窓下の波に對岸の燈影冷ゆる午後九時なりき

輝く參加記念章

本社は今回大會に參加した一百十名の選手に對し本社が特に調製した參加記念章を贈ることにしたが何れも大喜びで大會の前日即ち八月十七日午後順次受取りに來た、そして其の晩の大阪ホテルの歡迎會にはもう帶の間やポケットの陰に誇らかに輝いて居つた、面白いのは腕時計を持つて居るために折角の記念章を附ける事が出來ないので、到頭其時計を無理矢理に帶の間へ捻ぢ込んで記念章をブラ下げて居たのなども見付けられた事だ

開始から終了まで

好球家は勿論、滿天下の齊しく待ちに待ちたる第一回全國優勝野球大會は大正四年八月十八日を以て大阪箕面電車沿線なる豐中グラウンドに於て花花しく開始されたり、前夜の雨雲拭へるが如く、日暑けれども夏日絕好の野球日和なり、六千坪のグラウンドの周圍は大部分天幕張り又は簀屋根を施し一般觀覽者の便宜を計りたるが、果して第一日以來我國運動界空前の壯擧を觀んとして參集するもの日々萬を以て數へたり、第一日は十八日午前八時鳥取中學對廣島中學の試合を以て大會の火蓋を切りしが、試合前審判長京都大學總長醫學博士荒木寅三郎、副審判長京都高等工藝學校教授理學博士福井松雄、日本製樽株式會社取締役平岡寅之助及び本社社長村山龍平の四氏は徐ろにダイヤモンドに出で軈て雪の如きニューボールは荒木審判長の手より村山社長の手に渡され續いて村山氏は

プレートに立つて我が野球界のために意味深き第一球を見事に投じ

△嚴肅なる始球式

を行ひたり、斯くて壯快なる試合は連日繰返へされ第四日目（二十一日）に至る、此日午後の試合は第三次豫選試合たる京都二中對和歌山中學の對戰にして一對一の大接戰の儘最後の九回に移りしが偶々大雨沛然として到り到底試合を續行する能はず、已むなく野球規則に從ひドローンゲームを宣し、翌二十二日午後一時より再び戰ひを行はしめ遂に京都二中の勝利に歸するに及んで茲に最後の優勝決戰を行ふの日を迎へたり、連日の戰績を見るに一として美事なる試合にあらざるなく、或は關西を脊負つて立つべしと噂されたる神戸二中の善戰、關東の覇者たる早稻田實業の膽を寒からしめたるあり、東北の雄秋田中學の早實を屠りたるあり、新進氣鋭の鳥取中學が奮戰して近畿の重鎭たる和歌山中學に迫り最後に至るまで敵を危地に窘窮するあり、又和歌山中學が一日の餘裕もなく連日健闘を續けて遺憾なき健闘を示せるあり、而して最後の優勝試合に至つては其の

△壯觀言語に絶し

吾人寧ろ筆を投ずるの優れるものあるを思ふ、只管に猛打を以て一舉に敵を擊破せんとするものは關東を代表せる秋田中學なり而して之に對して鶴翼の陣を張つて關西の重任を負ひ立つものは京都二中なり、第一回大會は茲に期せずして關東勝つか將た關西勝つかの絶大なる興味ある問題を現し來る、果せるかな試合は兩々祕術を盡くして戰ひ最後の九回を終るも一對一の成績にて勝敗決せず遂にエキストラ・インニング・ゲームとなり、十回、十一回、十二回尚未だ決せず、滿場の觀衆醉にるが如く其光景眞に凄愴を極む、斯くて第十三回戰に入るや先攻の秋田軍依然として得ざりしに反し京二中軍の奇襲美事に功を奏し遂に一點を贏ち越し大試合は

△京都二中の勝利

を以て茲に其幕を鎖しぬ、得意なる京二中軍よ、是れより京都府立第二中學校選手は勇壯なる軍樂隊の奏樂裡に荒木審判長より光榮ある大優勝旗を授與され、別に村山本社長より寄贈の腕時計、記念辭書其他の賞品を受け（秋田中學も亦特賞を受く）茲に甚大の希望を以て迎へられし第一回全國優勝野球大會は些の滯りなく而も多大の成功を以て萬歲聲裡に目出度終了を告ぐるを得たり

同じ三つの美談

今度の大會やそれから各地方の大會には實に我が野球史に傳ふべき美談が頗る多かつた其中でもこの同じ三つの美談は觀て居る者をして其床しさに思はずホロリとさせた、第一は丁度八月七日の午後である、兵庫縣野球大會の最後の優勝戰に於て關西學院が九分九厘まで勝つて居ながら九回の裏の土壇際で神戸二中に敗られた、選手は皆聲を揚げて泣いて居たが敗軍の主將賴廣君は靜かに勝誇つた敵陣へ行つて「何うか兵庫縣のために豐中で奮闘して吳れ給へ」といつた。次ぎには八月十五日、遙々山陰から出て來て豐中の決戰に空しく敗れた杵築中學の主將千家君が丁度關西の賴廣君と同樣敵に向つて「今までは敵だつたが之からは味方だ、どうぞ殘つて善戰して吳れ」と餞けした事を擧げねばならぬ。殘る今一つはさしもの全國大會の優勝戰が終つて今しも京都二中が光榮ある優勝旗を受けつゝある時雙眼に涙の露を光らせた秋田中學の選手が盛に拍手をして居たのみならず、敗軍を繼めて引き揚げるに當つて更に健氣にも「京都二中萬歲」を連呼した、何たる悲壯な光景であらう。

試合の經過

第一日（十八日）

第一回　鳥取中學對廣島中學（鳥取中學勝）
第二回　京都二中對高松中學（京都二中勝）
第三回　早稲田實業對神戸二中（早稲田實業勝）

第二日（十九日）

第一回　和歌山中學對久留米商業（和歌山中學勝）
第二回　秋田中學對山田中學（秋田中學勝）

第三日（二十日）

第一回　和歌山中學對鳥取中學（和歌山中學勝）
第二回　秋田中學對早稲田實業（秋田中學勝）

第四日（二十一日）

京都二中對和歌山中學（一對一）（無勝負）

第五日（二十二日）

京都二中對和歌山中學（再戰）（京都二中勝）

第六日（二十三日）

京都二中對秋田中學（京都二中勝）

鳥取中學（十四A）
廣島中學（七）
鳥取中學（一）

和歌山中學（十五）
久留米商業（二）
和歌山中學（七）

和歌山中學（五）

京都二中（十五）
高松中學（零）
（抽籤勝）—京都二中（九A）

京都二中（二A）

早稲田實業（二）
神戸二中（零）
早稲田實業（一）

（抽籤勝）—秋田中學（一）

秋田中學（九）
山田中學（一）
秋田中學（三A）

全國の優勝旗集まる

本社では今回の大會期間中參加校が各自に持つて居る優勝旗を預つて會場の一定場所に陳列したが集まるもの東京、東海、京津、關西、兵庫、山陽、四國の七流で眞中に全國大會の大優勝旗を立て、ズラリと一列に並べた、其の立派さといつたらなかつたが、各選手の視線が期せずして此處に集まるのも無理がない

第一日

八月十八日午前七時二十分大會劈頭の戰士鳥取中學、同三十分廣島中學亦其雄姿を現はし約二十分間宛シートノックを行ひたる後八時二十五分荒木審判長、福井、平岡兩副審判長立會の上、兩軍選手ボックスを挾んで相對し大會規定の禮を行ひ續いて村山本社長荒木審判長より球を受け取りて始球式を擧げ同三十分廣島中學の先攻にて拍手聲裡に試合を開始す

廣島中學對鳥取中學

（十四A對七鳥取勝）

■第一回　廣島先頭の打者小田一壘に小飛球を呈し壘手の失に生き捕手の逸球によりて二壘に進み第二打者廣藤三振せしも續く林田遊撃を襲ひ鳥取の遊撃手竹岡狼狽して一壘に暴投するに及び小田生還して光榮ある最初の一點を得、林田亦中村の犧牲球と捕手の失にて本壘に突入し二點を算す、田部三振▲鳥取の上田四球に出でしも竹岡の投手ゴロに二壘にフォースアウトさる、竹岡二壘を盗み岩田の遊撃ゴロに三壘を奪はんとして刺され早くも二死となりしが第四打者鹿田四球を利し共に盗壘して岩田は三壘に鹿田は二壘に據り田村の遊撃ゴロ敵の遊撃手を過らせて岩田生還し先づ一點を恢復し而も尚二、三壘に走者機を狙ふ、偶々松田左翼に三壘打を飛ばし鹿田、田村相踵いで生還、忽ち一點を先んじて意氣漸く軒昂たり、松木三壘ゴロに死して第二回戰に入る此回廣島の捕手田部傷つきしため増岡是に代り補欠植村右翼に就く（廣島二點、鳥取三點）

■第二回　廣島の植村死球に出でしも倉本の三壘ゴロにフォースアウトされ菅三壘飛球に殪れ岸三振して止む▲鳥取の小谷、中村續いて四球に出で盗壘して二壘と三壘に據り捕手の逸球により小谷生還更に一點を加ふ竹岡フアウルに死し岩田三振して終る（廣島零、鳥取一點）

■第三回　廣島の小田内野に安打し廣藤三壘ゴロに生き捕手の失にて二、三壘に進みしも小田離壘して三壘に刺され後續の林田、中村三振して好機を逸す▲鳥取代り鹿田一壘直球に、田村フアウルに、松田亦一壘飛球に凡死して得る點なし（廣島零、鳥取零）

■第四回　廣島の増岡二壘越の安打に出でしも植村の投手ゴロにフォースアウトされ倉本三振、菅四球、岸三振し依然として二點の負越しなり▲鳥取亦振はず松木、小谷三振し四球に出でし中村二壘に暴進して空し（廣島零、鳥取零）

■第五回　廣島の小田遊撃ゴロに生き更に遊撃手の失によりて二壘を得後續打者廣藤三振せしも林田ノツトアウトとなり一壘に疾走せるに鳥取の捕手松田が一壘へ投ぜる球走者の頭部に觸れて壘後に轉々せる間に小田長驅生還して一點を加へ中村亦四球を利し走者一、二壘にあり而も尚一死なりしが増岡三振し植村遊撃ゴロに死して續かず▲鳥取の上田遊撃ゴロに死し竹岡四球に出でしも二壘に盗壘を企てて成らず岩田四球、鹿田三振にて第六回に移る（廣島一點鳥取零）

■第六回　廣島の倉本三壘線側を強ゴロにて抜き一擧二壘を奪ひ菅の三振ノツトアウトにて三壘に立ちしも迂濶に離壘して刺され岸は投手ゴロに小田は遊撃ゴロに死し又復好機を逸す▲鳥取の田村左翼に二壘打し松田亦二壘後に安打して田村を生還せしめ松木の二壘ゴロに松田も亦生還、二點を加へて六點を算す（廣島零、鳥取二點）

■第七回　廣島の廣藤は右翼飛球に林田は三振に中村は一壘ゴロに悉く凡死して得點無し▲鳥取の岩田四球に出で鹿田の三壘ゴロにフォースアウトされしも鹿田田村の左翼二壘打に送られて三壘に立ち打者松田にサインしてランエンドヒツトの擧に出で一度は計畫離離して三壘と本壘の間に

挾まれしも巧みに危機を脱するや二たび同一の謀に出で、成功し一點を加へて七點となる（廣島零、鳥取一點）

■第八回　戰は漸く酣に餘す處のインニングは僅に二回のみ而も尚未だ廣島のラツキーは廻り來らず増岡は遊撃ゴロに死し四球に出でし植村は二壘に刺され倉本又三振して止む▲鳥取、劈頭の小谷三振せしも中村四球に、上田左翼安打に、竹岡死球に出で、一死滿壘となる、偶々岩田遊撃オーバーのタイムリーヒツトを飛ばして中村、上田本壘に長驅し續く鹿田四球を利し田村の左翼安打に竹岡生還、尚滿壘優勢を持續して機を狙ふ折柄松田の猛打遠く右翼手の頭上を抜く三壘打となりて岩田、鹿田、田村相踵いで本壘に入り松木又遊撃に犧牲球を呈して松田を生還せしめ一擧七點を奪取して累計實に十四點を算し勝敗の數既に歴然たり、小谷再び三振して此回を終る（廣島零、鳥取七點）

■第九回　廣島の菅三振し岸四球に出でしも小田の遊撃ゴロにフォースアウトされて二死となりしが廣島の士氣尚衰へず勝敗の決は最終の五分間にありと決死の勇を鼓して起ち折柄一壘にありし小田は忽ちに三壘を盗み更に一壘手の失に乘じて一點を得、續く廣藤死球に出で林田亦左翼に二壘打して二壘に據り中村中堅の後方に痛快なる本壘打を飛ばして廣藤林田の後を追ひつゝ悠々と生還し四點を奪ひ總計七點を數へて意氣益旺盛なるものありしも如何せん敵は既に十四點を算して味方の得點漸く其の半に達したるのみ而も二死なり増岡遊撃ゴロに死するに及び茲に十四プラスA對七の大スコーアを殘し鳥取中學第一勝戰の榮譽を擔ふ時に午前十一時（球審小林、壘審井上、高山、陪審菊名）

廣島中學

																打	安打	三振	四死球
田	藤	田	村	岡	村	本										敷	打	振	球
小	廣	林	中	増	植	倉	菅	岸								三十四	五	十四（鹿田）	六（鹿田）
4	6	8	3	2	9	5	7	1											
パッスボール					増岡1														
本壘打					中村														
二壘打					林田、倉本														

																犧牲球	盗壘	殘壘	失策
田	岡	田	村	田	木	谷	村									二	一	二	二
上	竹	岩	鹿	田	松	松	小	中								七	四	七	一
7	6	4	1	5	2	3	9	8											
パッスボール																			
三壘打					松田5														
					松田														
二壘打					松田2 田村														

鳥取中學

																犧牲球	盗壘	殘壘	失策
田	岡	田	村	田	木	谷	村									二	一	二	二
上	竹	岩	鹿	田	松	松	小	中								七	四	七	一
7	6	4	1	5	2	3	9	8											
パッスボール																			
三壘打					松田5														
					松田														
二壘打					松田2 田村														

																四死球	三振	安打	打敷
田	岡	田	村	田	木	谷	村									十三（岸）	八（岸）	八	三十一
上	竹	岩	鹿	田	松	松	小	中											
7	6	4	1	5	2	3	9	8											
パッスボール																			
三壘打					松田5														
					松田														
二壘打					松田2 田村														

概評

試合前に於ては鳥取中學よりも遙に優勢なるが如く傳へられし廣島中學の斯くも一敗地に塗れたるは何人も意外とする處なる可し而して廣島の敗因として數ふ可きもの、内主なるもの六あり▲即ち第一は廣島最初より鳥取を呑んでかかり稍や油斷の氣味ありしに反し鳥取は互に相警めて慎重なる戰鬪法を執り敵をして乘ずるの機會を少からしめし事第二は鳥取方の打擊にタイムリーヒツト多く其の捉へたる機會を毎次有効ならしめし事第三は廣島の投手に四球多かりし事第四は廣島の走者屢々壘上に刺殺されて折角の機會を逸せし事第五は鳥取の投手巧みに捻りて廣島は打擊を封

ぜられし觀ありし事第六は第一回戰に於て廣島方第一の健鬪家たる田部捕手が負傷せし爲全軍の士氣を沮喪せしめし事なるが就中第六の原因は廣島方にとり最大の打擊なりしが如し▲其の他兩軍共尙緊らざる處ありて暴投、逸球等の數非常に多く鳥取も今一層の勇奮を俟つに非ざれば今後の强敵に對し萬全を期し難かる可し

京都二中對高松中學

（十五對零京二中勝）

引き續き第二回目試合の鬪士たる京都二中選手及び高松中學選手入場、豫定のシートノック並に禮式を終り午後零時二十分京都二中の先攻にて開始す

■第一回　京二中先頭の打者仲、山田三振し大塲二壘に飛球を揚げて凡死し▲高松亦高橋(仁)、木村三振、岩瀨中堅飛球に死して兩軍得點無し（京二中零、高松零）

■第二回　京二中の藤田四球に出で盜壘を重ねて三壘に立ちしも後續の津田、綾木三振し西川フアウルを一壘手に獲られて無爲に終る▲高松の大西三壘にゴロを呈し壘手の失に生きしも加納の二壘ゴロにフオースアウトとなり中村、岸田三振して止む（京二中零、高松零）

■第三回　京二中の內藤二壘ゴロに殪れしも野上四球に出で、二壘を盜み仲一二壘間に强ゴロを飛ばすや高松の岸田疾驅好捕せしも其の刹那體を前にノメらし顚倒せる隙に野上素早く生還し仲二壘を陷る、山田遊擊オーバーの安打を飛ばして仲も亦生還したれど大塲は二壘ゴロに藤田は三振に凡死して代る▲高松二點を先ぜられて憤慨措く能はず大なる期待を以て代り攻めしが懸川は一壘のゴロに死し高橋(直)高橋(仁)は大物を打たんと焦りて却つて三振を喫す（京二中二點、高松零）

■第四回　京二中津田三振の後綾木右翼安打に出で、西川、內藤四球を利して滿壘となりし時捕手の逸球を得て綾木生還一點を加へたれど野上のバンド西川を本壘に殺し仲再び三振す▲高松の木村遊擊に、岩瀨三壘にゴロを送りて死し大西三振して依然得る處無し（京二中一點、高松零）

■第五回　京二中の山田投手ゴロに死し大塲遊擊の失に生きて敵の失と盜壘に三壘を得しが藤田又慾張りて三振し津田投手ゴロに殪れて無爲に終る▲高松の加納三振、中村二壘ゴロに、岸田又三振に凡死して第六回戰に入る

■第六回　京二中の綾木は二壘に西川は右翼に安打して出で內藤と野上の犧牲球に送られて綾木本壘に入り四點を算す仲フアウルに死す▲高松の懸川內野に小飛球を揚げしに京二中の藤田、大塲、綾木互に讓り合ひて懸川を一壘に生かしたるも高橋(直)三振し高橋(仁)の三壘ゴロに懸川二壘にフオースアウトされ次いで高橋(仁)も亦離壘して一壘に刺さる（京二中一點、高松零）

■第七回　京二中の山田バンドに出で投手の失によりて二壘を得更に三壘を盜み大塲フアウルに死せしも藤田又投手飛球の失に生き二壘を盜み津田遊擊の左を拔く安打に出で山田、藤田生還し又二點を加ふ綾木、西川三振す▲高松の木村左翼に安打して出でしが岩瀨三振し大西フアウルに殪れ加納の左翼安打に木村二壘を得しも更に三壘を盜まんと暴進して刺され點を成すに至らず（京二中二點、高松零）

■第八回　京二中の內藤三振せし後野上投手直球の失に生きて二壘を盜み仲の中堅安打を得るや一氣に本壘を拔かんと企て、成らず本壘に刺されしも山田三壘ゴロの失に生きて仲を生還せしめ次で山田の盜壘を制せんとして高松の捕手加納の二壘に投ぜしボールを遊擊岩瀨、中堅高橋(直)共に隧道潜りに後逸せし爲め山田又安々と生還して更に一點を加へ大塲中堅に安打せしが後續藤田又慾性もなく三振して止む▲高松の中村、岸田三振せし後懸川、高橋(直)四球に出でしも高橋(仁)三振を喫して得る處無し（京二中二點、高松零）

■第九回　高松方漸く疲勞して失策を頻出するに乘じ京二中好打して最終のインニングを飾りたり先づ津田、綾木左翼と右翼に安打し西川四球を利して無死滿壘となりし時高松の捕手逸球して津田、綾木生還し內藤巧みにバンドを弄して生き野上三振ノットアウトに出で、再び滿壘となるや仲二壘の右を拔く三壘打を飛ばして壘上の三走者悉く生還而も尙無死、山田の中堅飛球又野手を過らせて仲を入壘せしめ大塲遊擊直球の失に生き山田三壘を陷れ藤田が遊擊に飛球を揚げて大塲と共に併殺せられつゝある間に生還し一擧七點を加へて累計十五點を算せしが津田三振して漸く守備に付く▲高松死力を盡して奮戰せしも及ばず木村は遊擊ゴロに死し岩瀨は二壘ゴロに殪れ大西三振して遂に一點をも恢復する能はず十五對零のスコーアにて四國の勇者も茲に敢なき最後を遂ぐるに至れり、時に午後二時三十分（球審松田、塁審吉田、三木、陪審岡本）

高松中學

		打數	安打	三振	四球	犧牲球	盜壘	殘塁	失策	得點
5	橋村	二十九	二	十五(藤田)	二(藤田)	零	四	十五	零	
7	高瀨									
6	木西									
1	岩納									
2	大村									
3	加田									
4	中川									
9	岸橋									
8	懸高									

京都二中

		打數	安打	三振	四球	犧牲球	盜壘	殘塁	失策	得點
8	仲田	四十二	十	四(大西)	五(大西)	三	十一	八	三	十五
2	山塲									
5	大田									
1	藤田									
4	津木									
6	綾川									
3	西上									
7	內藤									
9	野上									

概評

京都二中は豫て近畿地方第一流の强チームとして一方に雄を稱する者なり而して此の强敵を向ふに廻はし遠來の健兒高松軍が如何なる點まで善戰す可きかゝ興味の存する處なりしが初め數回高松方全軍の士氣旺盛を極め殊に投手大西の活動目覺しく流石の京二中をして顏色無からしめしも回の進むにつれて惡球漸く續出し守備混亂を極めしに反し京二中の投手藤田の怪腕愈よ冴ゑて高松軍の打擊を封じ去りたり▲然しながら斯くの如き大スコーアなりしに拘らず最後まで意氣沮喪せずベストを盡して奮鬪せし高松軍の意氣は大に多とすべし須く捲土重來の謀を廻らすべきなり

早稲田實業對神戸二中

（二對零 早實勝）

今次の大會中書入れの好試合にて其の勝敗は軈て關東關西兩勢力の消長を卜するにも足る可く數萬の觀衆何れも雙手に汗して迎へ兩軍の應援隊亦兩側のスタンドに陣を張つて聲を惜まず聲援す、試合は午後三時二十分早實の先攻を以つて初まる

▣第一回　早實の第一打者岡田右翼飛球に死し三川三振し二死の後臼井右翼に安打して出でしが石崎三振して二壘を踏むに至らず▲神二中の田中投手ゴロに死し陸好四球を利して出でしも兒島左翼に飛球を呈して憤死し今村の遊撃ゴロ又陸好を二壘に殺して空しく終る（早實零、神二中零）

▣第二回　早實の霜鳥二壘飛球に死せし後石井は四球に中澤は死球に出で平田の犧牲球に送られて二壘と三壘に據り後續の打者宮川多大の期待を持つてボックスに立しも投手に直球を呈し今村片手に好捕して危機を脱す▲神二中上村一壘の壘側を拔く安打に出でしも盜壘を企て、二壘に刺され箸藏、藤原遊撃と二壘に凡打して止む（早實零、神二中零）

▣第三回　早實の打順元に踏り一番打者岡田再びボックスに現はれしが遊撃に小飛球を呈して死し三川四球を利して二壘を盜みしも臼井バンドに殪れ石崎三振して立往生に終る▲神二中の橋本、村田二壘ゴロ田中投手ゴロに死し依然兩軍とも得點なし（早實零、神二中零）

▣第四回　早實の霜鳥ゴロにて遊撃を襲ひ一壘手の失に生きしが石井の二壘直球に併殺を喫し中澤又二壘ゴロに死す▲神二中の陸好遊撃飛球に死し兒島同じ遊撃にゴロを送り遊撃の捺投により二壘に立ちしが今村の大飛球左翼手の好捕する處となり上村二壘ゴロに凡死して尚ランをなすに至らず（早實零、神二中零）

▣第五回　早實の平田三振せし後宮川四球に出で、二壘を盜み岡田の三壘ゴロを三壘手上村ハンブルして宮川三壘に據り岡田一壘に生くるや三川のバンドに宮川本壘に突進して刺されしも岡田は其の隙に乘じ三壘を占めて後續の好打を待つ、臼井遊撃の右を拔く安打に出で、岡田生還、貴重なる一點を得、尚石崎四球を利して滿壘となりしが霜鳥更に大飛球を左翼に呈し野手兒島巧に捉へて二中代り攻む▲神二中亦好機に際會し箸藏は遊撃ゴロに生き藤原も絶好のバンドに生き更に二壘手の逸球を得て三壘と二壘に立ち而も無死なりしが天運尚二中に幸ひせず打順極めて悪く橋本村田の二者三振し田中の遊撃飛球に大事去る（早實一點、神二中零）

▣第六回　早實の石井二壘後に安打して出で中澤の犧牲球と平田の中堅安打に送られて三壘を得宮川のバンドを待つて生還又一點を加へ平田は尚三壘にありて本壘を狙ひしが岡田ファウルに死し三川遊撃ゴロに斃れて止む▲神二中の陸好、兒島、今村悉く投手ゴロに死す（早實一點、神二中零）

▣第七回　早實の臼井右翼飛球に死し石崎三振し霜鳥三壘直球に死して得點無し▲神二中の上村遊撃に、箸藏三壘に、藤原二壘に何れもゴロを送りて悉く一壘に刺さる（早實零、神二中零）

▣第八回　早實の石井右翼飛球に、中澤は三振に、平田は二壘ゴロに凡死して得る處無し▲神二中の橋本、村田三振し

田中亦投手ゴロに死し兩軍依然として二對零の形勢を持續し試合は白熱的緊張を以てラストインニングに入る

▣第九回　兩軍の打順大に良く互に深く期する處あるものの如くなりしが早實の宮川二壘ゴロに死し岡田右翼に飛球を飛ばし右翼手と中堅手と衝突して雙方とも獲ずためにに一壘に生き二壘を盜みしが三川の中堅飛球に併殺されて止む▲神二中、應援隊必死の聲援に送られて攻撃に立ちしが陸好三壘ゴロに死し兒島左翼飛球に殪れし後好漢今村三壘ゴロに生きて一壘を得しも後續上村投手ゴロに死して關西第一の雄を以て四隣を睥睨せし神戸二中は惜しくも關東健兒の爲めに二對零の敗戰を餘儀なくせしめられたり、時に午後五時二十分、第一日の試合を終る（球審都築、壘審町田、小西、陪審折田）

概評

兩軍の技倆眞に相伯仲し當に大會中第一流の好ゲームたるを失はず▲雙方の選手箇々の技倆を比較するに早實の臼井投手は豫て中學チーム不相應の投手とまで稱せられし名投手にして殆ど間然する處無く神戸二中の投手今村亦中等學校中稀に見る好投手にして殊に第二回と四回に猛烈なる敵軍の肉迫を受けながら一點をも與へず巧に喰ひ止めたる沈着振りは大に賞す可く又早實の輕快無比なる石井遊撃手に對する神戸二中の堅實なる田中遊撃手は實に一對の好コントラストにて是れ亦優劣を見ず▲唯捕手の技倆に於て早實岡田の強肩が常に二壘を監視し絶にて敵走者の覬覦を許さざるに反し神戸二中の陸好が容易に二壘の盜奪を許し惹いて同軍の守備に混亂を生ぜしめたると二中軍が第五回目に於て折角のチャンスに遭遇しながら打順不良の爲め空しく此の好機を逸してランを作る能はざりしとは二中敗戰の最大原因なる可し▲其の他早實の中堅中澤と神戸の左翼藤原とが共にファインプレーを演じて一軍の危機を救ひよくプレーヤーとしての任を完うせしは多とすべし

大會唯一の本壘打

今度の大會は揃つて投手が優れて居たにも係らず中々皆んなよく打つた、けれども痛快なホームランヒットといふのは前後十回の試合を通じて唯の一本しかなかつた、この光榮

早稲田實業

打順	守備	打者	安打	三振	四球	犧牲打	盜塁	殘塁	失策	得點
2	捕	田川								
4	投	岡井								
1	一	三崎								
7	二	白鳥								
9	三	石井								
6	遊	霜澤								
8	中	石中								
3	右	平田								
5	左	宮川								
		打數	三	九	六	三	五	二	二	三十
		得點	四	二	六	三	五	二	二	四十

神戸二中

打順	守備	打者	安打	三振	四球	犧牲打	盜塁	殘塁	失策	得點
6	捕	中田								
2	投	好陸								
7	一	島兒								
5	二	村今								
4	三	村上								
9	遊	藏箸								
8	中	原藤								
3	右	本橋								
		田村								
		打數	二	零	四	零	五	四	零	三十一
		得點	四（白井）	零	一（白井）	零	五	四	零	五（今村）

あるヒットを飛ばしたのは第一日の第一回試合即ち島取中學對廣島中學戦に於ける廣島方の中村君で、中堅の頭上遠に打つた球は轟々として殆ど柵塀の際まで行つた、そして中村君は悠々と選つて大方ベンチへ來る位までの餘裕があつた

第一日

十九日は朝來暗雲低迷して蠒て一と雨來る可き空模樣なりしが幸に午前八時頃より雲切れ初め豫定の如く第二日の豫選試合を行ひたり

和歌山中學對久留米商業

（十五對二和歌山勝）

午前八時兩校の選手入場小練習をなしたる後福井副審判長立會の上規定の禮式を行ひ九時二十分和歌山の先攻にて試合を開始す

■第一回　和歌山の奥山、永岡四球に出で矢部の右翼安打に奥山生還、先づ一點を奪ひ、戸田のバンドに永岡本壘に突進して刺されしも中筋又遊撃の右を拔く二壘打に出で、矢部と戸田を生還せしめ一擧三點を數へて此日の幸先を喜ぶ▲久留米の打撃又大に振ひ劈頭の打者片岡先づ二壘後に安打し城崎三振せしも今里右翼に安打し佐藤又右翼に好打して片岡を入れ一點を奪還す（和歌山三點、久留米一點）

■第二回　和歌山の小川(錦)四球に出でしも後續三振と凡打に斃れて得點無し▲久留米も亦秋山が二壘ゴロの失に生きて漸く一壘を得しのみ三者凡打して終る（和歌山零、久留米零）

■第三回　久留米の投手城崎の肩漸く整ひ和歌山の打者永岡、矢部、戸田悉く三振に葬り去らる▲久留米の打順元に歸り大に期する處ありしが片岡、今里は投手ゴロに城崎は遊撃飛球に刺されて得る處無し（和歌山零、久留米零）

■第四回　和歌山の中筋二壘の失に生き次で二壘を盜み小笠原の犧牲球に送られて三壘に據りしも後續の小川(錦)投手飛球に死し小川(豐)三振して點を得るに至らず▲久留米の田中三振し佐藤、本間共に遊撃にゴロを呈して退く（和歌山零、久留米零）

■第五回　和歌山の西村一死の後遊撃にゴロを送りて一壘手の失に生き永岡、矢部四球に出で、一死滿壘の好機に臨みしが戸田一壘に飛球を揚げ中筋三振して止む▲久留米振はず内藤三振し秋山遊撃飛球に死し森崎亦三振し依然として敵に二點を輸す（和歌山零、久留米零）

■第六回　和歌山一死の後小川(錦)投手飛球の失に生き小川(豐)又三振せしも奥山は四球に西村は左翼安打に出で、再び滿壘となり永岡四球を得て押し出しの一點を得續く矢部の遊撃ゴロを久留米の遊撃手片岡ハンブルして奥山を生還せしめ和歌山は計五點となる▲久留米の片岡遊撃の失に生き城崎の遊撃ゴロにフォースアウトとなりしも今里又遊撃を襲ひ其の失に生きて城崎を二壘に送り次で田中の三壘

ゴロを壘手が後逸せし隙に城崎生還して一點を加ふ（和歌山二點、久留米一點）

■第七回　和歌山二死の後小川(錦)遊撃後に安打し小川(豐)四球を利して一、二壘に據りしも奥山二壘に直球を獲られて得る處無し▲久留米の内藤三壘ゴロの失に生きて秋山の遊撃ゴロにフォースアウトされ、次いで秋山盜壘を企て、二壘に刺され森崎亦三壘線側を拔く安打に出でながら二壘に暴進して刺さる（和歌山零、久留米零）

■第八回　和歌山のラッキーは廻り來れり、西村先づ左翼に安打し永岡、矢部四球に出で無死滿壘となり戸田バンドに生きて西村を入れ中筋三振せしも小笠原の好バンドは又自ら生きて永岡を生還せしめ矢部は捕手の三壘に投ぜし球を三壘手の逸せる隙に乘じて生還し續く小川(錦)の中堅安打に戸田、小笠原本壘に入り小川(豐)又中堅に安打して小川(錦)を入壘せしめ奥山の三壘飛球を投手城崎が逸するに及んで小川(豐)も亦生還打順一巡して再び西村に歸る、而も尚一死にて西村の三壘直球は又もや壘手を過らせて小川を入れ永岡三振せしも矢部は遊撃にゴロを送りて一壘の失に生き戸田は右翼に安打して西村を再び本壘に送り久留米の守備は極度に混亂して殆ど底止する處を知らざる有樣なりしが中筋の二壘ゴロに出でんとするを一壘に刺殺して漸く喰ひ止む和中一擧九點を得たり▲久留米の片岡三振し城崎左翼に二壘打して出で今里の遊撃ゴロに送られて三壘に立ちしが不注意にも離壘して刺殺され田中の投手直球は今里を併殺して得點無し（和歌山九點、久留米零）

■第九回　和歌山の小笠原二壘ゴロに出で小川(錦)小川(豐)四球を利して又無死滿壘となり奥山直球に一壘を過らせて出づるに及び小川(錦)生還一點を加へしが小川(豐)本壘を得んとして刺され西村は遊撃飛球に永岡は右翼飛球に死して最後の守備に就く▲久留米必死となりて攻め立てしも及ばず佐藤と内藤が壘手の失によりて漸く一二壘に據りしのみ本間は三振し秋山、森崎は投手ゴロに斃れて得點なく遂に十五對二の大差にて遠來の久留米選手は和歌山中學のために一蹴し去らる、時に正午（球審菊名、壘審折田、岡本、陪審井上）

和歌山中學

		打數	安打	三振	四死球	犧牲球	盜壘	殘壘	失策	得點
8	山村	四	十	三						十五
6	岡部	十三	三	十(城崎)						
3	田筋	十	十(城崎)							
2	奥笠原(錦)	四								
1	西川(豐)	十五								
5	永川(錦)	八								
7	矢川(豐)	三								
4	戸中	十五								
9	小	七								

久留米商業

		打數	安打	三振	四死球	犧牲球	盜壘	殘壘	失策	得點
6	岡崎	三十六								
1	里中	七								
8	藤	六(戸田)								
2	藤間	零(戸田)								
4	藤山	零								
7	崎	零								
9	二壘打	十五								
5	城崎	七								
3	森	二								

試合の結果のみを見る時は兩軍の差非常に大きく久留米は

概評

手も無く慘敗せるが如くなるも其實久留米としては技倆相應の善戰をなせるものにして第八回目に至り敵軍の好打と味方の連失に混亂又混亂を極め遂に一擧九點の生還者を敵に得せしめたるは試合馴れざる久留米としては是非も無き事にて強ちプレーヤーをのみ責むべきに非ず▲殊に久留米の投手城崎は豫想以上の技倆を發揮し第四五回目までは流石の和歌山軍をして攻めあぐましめよく一軍を統率して最後まで健闘せし意氣は壯とす可く二壘手佐藤の活躍振りも亦目覺しきものありしが捕手田中頗る敏活を欠き管に二壘の盜壘者を制し得ざりしのみならず試合中其の前後左右に打ち揚げられたるフアルボールの中少くも六七箇は優に捕手の手中に收め得らる可かりしボールなるにも拘らず毎次逸球して全軍の士氣を鼓舞する能はざりしは久留米軍の一大欠點にして此の試合の勝敗にも重大の關係を有したりが如し▲其の他選手個人としては特に目に立つ者なく何れも位置相應の活動を試みたるが其の戰鬪法は未だ原始的一騎打勝負の域を脫せず凡ての動作セオリーに叶はざる點多々ありたり▲從つて最初より四五回目まで比較的打擊の振ひしインニングに於ては大に敵を窘窮せしめ勝敗の數をさへ疑はしむるものありしが和歌山の投手戸田が其の戰鬪法を變更すると共に打擊を封ぜられて以來更に攻擊振はず遂に此の大敗を招くに至りしは遺憾なりと云ふ可し▲和歌山は最初あまりにボールを擇み過ぎたるため却つて三振を多く喫したる觀あり、それに反し味方の球は頻々として敵打者の好打する處となり一時非常の苦戰に陷りしも中途より攻守共に其の戰鬪法を革め漸く本來の技倆を發揮するを得たり、盜壘其の他走壘法に於ても久留米に比し一日の長あり凡ての動作もよくセオリーに叶ひたるを見る

秋田中學對山田中學

（九對一　秋田勝）

第一次豫選試合の最終戰なり、午後一時十五分秋田の先攻にて開始す

▣第一回　秋田の渡邊四球に出で、二壘を盜み長崎の犧牲球にて三壘に進み山田の投手西川が刺さんとして三壘に投ぜし球を壘手前納の逸せし隙に生還一點を占め鈴木は投手ゴロの失に生きしも二壘を盜まんとして刺殺され山田代る▲山田の菊川(武)三振し置鹽捕手の打擊妨害に遇ひ一壘を得たれども離壘して刺され西川亦三振して得點なし（秋田一點、山田零）

▣第二回　秋田の信太遊擊飛球に凡死し羽石、丹三振す▲山田の澤山二壘ゴロに死し堤三振、前納遊擊ゴロに生きしも田中三振して止む（秋田零、山田零）

▣第三回　秋田の野口死球に出で齋藤の犧牲球にて二壘に進みし時渡邊中堅越の二壘打を飛ばして野口生還し次で遊擊の失により渡邊三壘に至り長崎の右翼大飛球犧牲球となりて渡邊も亦生還更に一點を加ふ鈴木三振す▲山田の菊川(茂)鷹森、菊川(武)悉く三振（秋田二點、山田零）

▣第四回　秋田の小山田四球に、信太二壘後に安打して出で羽石の中堅飛球を田中故意に落して小山田を三壘に殺せしも一死滿壘となり野口死球に出で、信太本壘に入り齋藤の遊擊安打によつて羽石、丹も亦生還、野口盜壘を企て、三壘に暴進して刺され齋藤も離壘して一壘に刺さる▲秋田の投手長崎の健腕愈々冴ゆ山田の置鹽、西川又三振に葬られ澤山二壘越の好打に出で、一呼二壘を拔きしも堤二壘ゴロに死して空しく立往生に終る（秋田三點、山田零）

▣第五回　秋田の渡邊左翼安打に出で長崎三振せしも鈴木又左翼安打に出で、三壘と二壘に立ち四たび山田の危機至りしが小山田内野に飛球を揚げ信太三振して點を成さず▲山田の前納はフアウルに田中は一壘ゴロに死せし後菊川(茂)初めて四球を利せしも後續鷹森三振して依然得る處無し（秋田零、山田零）

▣第六回　秋田一死の後丹中堅に三壘打を飛ばして出でしも野口の投手ゴロに本壘に殺され齋藤投手ゴロにて一壘の失に生きしが渡邊の遊擊ゴロにフォースアウトさる▲山田の打順大に良く多大の期待を以て攻擊に立ち菊川(武)が投手ゴロに死せし後置鹽死球に出で、二壘を盜み西川三振して二死となりしも澤山の二壘の右を拔く安打に置鹽長驅本壘に殺到して一點を恢復し先づ零敗の汚辱を免る（秋田零、山田一點）

▣第七回　秋田一死の後鈴木三壘の失に生き小山田の左翼安打により三壘を得、信太の二壘ゴロを壘手の逸せし隙に鈴木、小山田生還二點を加へて八點を算す、信太盜壘を企てて二壘に殺され羽石三振す▲山田の田中三壘ゴロに菊川(茂)フアウルに退き鷹森三たび三振を喫す（秋田二點、山田零）

▣第八回　秋田の丹三振し野口遊擊に、齋藤投手に凡打して空し▲山田の菊川(武)置鹽、西川何れも二壘にゴロを呈し徒らに敵二壘手齋藤の名を成さしめて止む（秋田零、山田零）

▣第九回　秋田の渡邊二壘ゴロの失に生き長崎の投手ゴロにフォースアウトされしも鈴木中堅ゴロの安打に出で此時山田の捕手菊川長崎の盜壘を制せんとして三壘に投ぜし球を三壘手前納逸して長崎生還又一點を加ふ小山田、信太三振す▲山田の澤山三壘ゴロに死し堤二壘の右を拔くゴロの安打に出でしが離壘して一壘に刺され前納投手ゴロに斃れて得る處無く午後三時三十分試合を終る、斯くて二箇年續けて東海の野に覇を稱せし山田は遠來の勇者秋田の爲めに九對一を以て破らる（球審小西、壘審吉田、三木、陪審高山）

秋田中學校

	打數	安打	犧牲球	三振	四球	死球	盜壘	殘壘	失策	得點
渡邊	三	二								一
崎	八	三								九
木	九	三								四
田	四	三								三
太	三	三								零
石	十	二								二
口	二	三								二
藤	三十六	二十九								十五

（長崎）
（西川）
（西川）

山田中學校

	打數	安打	犧牲球	三振	四球	死球	盜壘	殘壘	失策	得點
川	二	一								一
鹽	三	一								十
川	二	一								二
山	三	一								三
納	二	一								二
中	二	一								二
川（茂）	二	一								十五
森	二十九	二十								一
菊	二	一								一
置	二	一								一
西	二	一								一
澤	二	一								一
堤	二	一								一
前	二	一								一
田	二	一								一
菊川（武）	二	一								一
鷹	二	一								一
澤山	二十	一十								九

概評

是も其の實力の上より見て先づ順當の勝負と云ふを得べし

殊に秋田の投手長崎は中等學校チームとしては有數の好投手として大會前より驍名を馳せつゝありしが果して此の試合に於て其の眞價を發揮し火の如き熱球と巧妙なるコントロールによりて殆ど敵軍の打撃を封じ去りしと同時に此の猛投手の下に修練を經たる自餘の選手皆相應の打撃力を有し毎次山田の投手西川の球を打ち捲りて勝戰の基礎を作りたり▲然るに山田方は最初より意氣揚らず殊に秋田の投手長崎の球は主として速度一方の直球なれば今一層の工夫だに積まばマサカ十餘箇の三振を喫するまでには至らざりしなる可く其のうちに一二本の安打を飛ばして一と度チャンスに遭遇すれば忽ち大に一軍の士氣を振興し假令及ばざる迄も敵壘に肉迫し得たらんものを多く三振か凡打かに遭れて少しも機會を作る能はざりしは遺憾と云ふ可し▲然し主將澤山の活動振りは攻守共に水際立ち敵の遊撃手小山田に優る事數等ノ捕手菊川も亦敵捕手に比し稍優れりと思はるる點少からざりしが大厦の倒潰せんとするや一木一柱のよく支へ得可きものに非ず味方の失策と敵の好打は遂に此の大差を以て敗戰するの餘儀無きに至りたり▲其の他秋田は走壘に於ても山田に比し一日の長あり加ふるに奥羽六縣人會の聲援を負うて始終旺盛なる元氣を持續し殆ど敵をして乘ずるの機會無からしめしは特筆すべき事項なるべし

秋田土産「サア來い」

遙に雲山三百里を西下して最後の決戰に至るまで奮戰した秋田中學の元氣と技倆は尠かちぬ強い印象を殘したが、其の中で世界一品だと激稱されたのは如何にも日本的な「サア來い」といふ懸聲であつた・十校そゝぐれに隨分いろんな懸聲をして居たがこの位有効で又喝采を博したのはない、關西の某校長は自分の學校でも是非アレを貰つて使ひたいとまで品物でも頂戴するやうな調子で感心して居た、本社員が戲談半分に秋田の選手に其旨を通ずると「サア〳〵何時でも差上げますから遠慮なく何うかお使ひ下さい」

第三日

二十日は前夜の驟雨尚名殘を止めて豫定の時刻に開始するを得ず審判委員協議の上約一時間を遲らしグラウンドの乾くを待ちて第二次豫選試合即ち一勝戰を開始す・・

和歌山中學對鳥取中學

（七對一　和歌山勝）

一は大會最初の試合に於て廣島中學に勝ち一は第二日の試合に西海の勇者久留米商業を十五對二の大差にて粉碎せし

一勝同志なり、午前十時十分和歌山の先攻を以て初まる

■第一回　和歌山中學先頭の打者奥山、西村共に投手ゴロに斃れ永岡三振して得點無し▲鳥取の上田三壘にゴロを送りて壘手の失に生き竹岡亦遊撃ゴロに生きて二壘と一壘に據りしが第三打者岩田遊撃にゴロを呈し上田と竹岡を三壘と二壘に併殺し鹿田三振して最初の好機を逸す（和歌山零、鳥取零）

■第二回　和歌山の矢部二壘飛球に死し戸田三振、二死の後中筋一壘ゴロに出で、二壘を盗みしも後續小笠原三振して得る處無し▲鳥取の田村遊撃三壘間を抜くグラウンダーの安打に出で投手の牽制球を一壘手の逸せし隙に二壘を奪ひしも松田の投手ゴロは田村を二三壘間に挾殺せしめ松田疾驅して其の暇に二壘を得しが松木三振し中澤遊撃に凡打して止む（和歌山零、鳥取零）

■第三回　和歌山の小川（錦）投手ゴロに、小川（豊）三振に、奥山一壘飛球に悉く凡死す▲鳥取亦中村は二壘直球に死し上田三振、竹岡投手ゴロに斃れて依然零對零の形勢を持續す（和歌山零、鳥取零）

■第四回　和歌山の西村三壘ゴロに死せし後永岡の痛打遠く右翼の頭上に飛びアハヤ安打と思はしめしが鳥取の右翼手を承はる小冠者中村好捕して危機を救ひ矢部二壘ゴロに死して守備に就く▲鳥取の岩田、鹿田共に凡打に斃れし後田村の遊撃ゴロを遊撃手ハンブルして一壘に生かせしも續く松田を投手ゴロに葬りて乘ずるの機會無からしめ、試合漸く緊張し來り觀衆の手に汗を握らしめつゝ第五回戰に入る（和歌山零、鳥取零）

■第五回　和歌山の戸田、中筋、小笠原又二壘と投手に凡打して悉く一壘に斃る▲鳥取の松木一壘ゴロに死せしも中澤三壘ゴロの失に生きて二壘を盗み、續く中村三振せしも上田の二壘越の安打に送られて三壘に進み本壘を窺ひしが上田輕擧盗壘を企て、一二壘間に挾殺され尚點を成すに至らず（和歌山零、鳥取零）

■第六回　和歌山の小川（錦）小川（豊）は二壘と遊撃のゴロに死し奥山三振して得る處無く▲鳥取代り攻むるや劈頭の竹岡三壘ゴロの失に生きて忽ち二壘の盗奪に成功し應援隊を熱狂せしめしが和歌山方互に相警めて守備を固くし後續の三者岩田、鹿田、田村を或は三壘ゴロに或は投手ゴロに葬り危機を脱す（和歌山零、鳥取零）

■第七回　鳥取の守備亦牢として抜けず和歌山の西村、永岡三振し矢部投手ゴロに死して得る處無し▲鳥取の松田又二壘ゴロに出で壘手の失を利して二壘に立ちしも走壘の修練淺き悲しさには忽ち敵捕手に謀られて二三壘間に挾殺され松木亦四球に出でしも盗壘に失敗して二壘に骨を埋め中澤三振して此のインニングも亦零對零の儘八回戰に移る（和歌山零、鳥取零）

■第八回　和歌山の戸田は遊撃ゴロに中筋はフアウルに小笠原は投手ゴロに斃れて尚ランを作る能はず▲鳥取代り攻めて中村の遊撃直球に死せし後上田又復三壘を過らせて出で竹岡の犧牲球に送られて二壘に據りし時岩田のゴロを遊撃手逸して左翼に轉々せしめ上田長驅本壘を衝いて茲に久しく持して動かざりし零對零のバランスを破り鳥取一點を先んじて意氣軒昂たり、岩田又遊撃の失に生き鹿田四球

に出でしも田村の二塁ゴロに鹿田二塁にフォースアウトされて止む（和歌山零、鳥取一點）

■第九回　和歌山のラッキーは漸く來れり先頭の打者小川（錦）の投手ゴロを鳥取の投手鹿田が一塁に高投して一塁三塁を得せしめしが鳥取方破綻の基にて小川（豐）四球を利し奥山のバンドは絶好のヒットエンドランとなりて小川（錦）を本塁に送ると共に自ら一塁に生き西村亦バンドに成功して無死滿塁となりしより鳥取方狼狽して守備混亂を極め後續の打者永岡、矢部、戸田、中筋、小笠原等何れも三塁上の走者とサインを交換してバンド又バンドに出づるを鳥取方少しも制する能はず漸く永岡を本塁に殺し得たるのみ、小川（豐）奥山、西村、矢部、戸田、中筋悉く生還して忽ち七點を唱へ而も尚一死にて走者三塁に在り混亂殆ど名狀す可からざるものありしが打順一巡して再びボックスに現はれたる小川（錦）を三振に屠り小川（豐）を二塁に凡打せしめて漸く喰ひ止む▲鳥取代り攻めしも敵に六點を先んぜられて意氣銷沈せるに反し和歌山は前回の大勝に氣を得て守備いよ〳〵緊り松田、松本は投手ゴロに死し中澤三塁ゴロに斃れて鳥取悲憤の涙を呑む、斯て和歌山は七對一にて再び勝ち第三次優勝戰に參加するの權利を獲得し午後零時十分試合を終る（球審松田、塁審井上、高山、陪審菊名）

和歌山中學

8	山村	捕
6	奥岡	投
6	西田	一
3	永部	二
2	矢田	三
1	戸田	遊
5	中筋	左
7	小笠原	中
4	小川（錦）	右
9	小川（豐）	右

打數	安打	三振打	四球	犧牲打	盜塁	殘塁	失策	得點
三十一	九	二（鹿田）	四	三	九	三	一	七

鳥取中學

7	田中	捕
6	岡田	投
4	田村	一
1	竹田	二
5	岩木	三
2	鹿澤	遊
3	田村	左
8	松中	中
9	松中	右

打數	安打	三振打	四球	犧牲打	盜塁	殘塁	失策	得點
三十二	二	五（戸田）	二（戸田）	零	一	七	五	一

概評

鳥取の投手鹿田は和歌山の戸田投手に勝る事數等、殊に其アウトコーナーは見事なる成功を收めてよく敵軍の打撃を封じ去り守備の堅實と相俟つて第八回の終りまでに和歌山方二塁を踏みし者僅かに一人を出したるのみ▲全軍又愼重の態度を持してよく守り、和歌山の投手戸田の投球を散々に打ち捲りて屢次チャンスを作りしも走塁の練習足らざる爲め毎次失策を演じて塁上に大死し且つ後續の打撃タイムリーヒットとなりし者殆どなく折角のチャンスを逸したるは惜しむ可し▲此れに反し和歌山は守備に欠陷ありプレーヤーの投球屢次正鵠を失して敵に好機を與へたり、されど捕手矢部の强肩よく一軍の要をなして之を補ひたるは賞す

可し▲鳥取方の敗因は第九回に鹿田投手が三塁線側に沿ふ小グラウンダーを取りて一塁に暴投し破綻の基を作りしが爲なるも此の時若し鳥取方が敵のホームインを制せんとするの擧に出でず何處にもあれアウトを取らんと力めしならば恐らく三四點にて喰ひ止め得たるならんと信ぜらる▲要するに鳥取の選手は技倆に於て多く和歌山に遜色なきも試合に馴れざるとヘッドウオークに欠如せる爲此の敗戰を招きしものにして今少し優良なるコーチャーを得、走塁とヘッドウオークの修練を積み居りしならんには決して今日の如く和歌山に破らるゝものに非ず好漢幸に自重して一層の勇奮を期し土を捲いて重來せよ

早稻田實業對秋田中學

（三A對一秋田勝）

此の試合に於ける勝者は抽籤勝者として指定されたるを以て、此一戰こそ最終の優勝戰に何れが關東を代表して關西方に肉薄するかを決す可き大關門たるなり、午後一時早實の先攻を以て初まる

■第一回　早實先頭の打者岡田二塁ゴロの失に生きて二塁を盜み三川のフアウルに死せし後臼井の犧牲球によりて三塁を得後續打者石崎が既にツーストライクとなりしを見るや一呼本塁を盜まんと投手のモーションを盜んで突擊を試み將に本塁に入らんとする一刹那捕手にタッチされて果さず▲秋田の渡部、長崎三振せし後鈴木中堅安打に出で投手の牽制球を一塁手の逸せし隙に三塁を得、小山田の投手ゴロを投手臼井がハンブルし次で一塁に高投するに及び鈴木生還して先づ一點を納め尚小山田は三塁に在りて本塁を窺ひしが信太三振して止む（早實零、秋田一點）

■第二回　早實の石崎と霜島は二塁と投手にゴロを送りて死したれど秋田の投手長崎四球二箇を連發して石井、中澤一塁と二塁に據り機を待ちしが平田二塁ゴロに斃れて得點無し▲秋田の丹三振し羽石は二塁ゴロに高橋はフアウルに死して三回戰に入る（早實零、秋田零）

■第三回　早實の宮川四球に出でしも輕擧一塁に刺され、岡田又四球を利して二、三塁を盜みしが臼井三塁に飛球を揚げて止む▲秋田の齋藤遊擊ゴロに出で遊擊手の惡投に一塁のパッスボールを得て二塁に進み渡部のバンドに三塁を得しが其の時球を摑みし早實の遊擊手齋藤はトリックにかけんとして三塁に暴投し塁手後逸して齋藤生還一點を加へ而も渡部は此時二塁に進み尚無死なりしにも拘らず輕擧三塁を盜まんとして刺され後續の長崎三振し鈴木投手ゴロに終して此回を終る（早實零、秋田一點）

■第四回　早實の石崎二塁飛球に凡死したる後霜島三塁の後方に安打して出で石井の犧牲球に送られて二塁に立ちしが中澤フアウルに死して依然一點をも得ず▲秋田の小山田三塁後に好打して出でしも信太の二塁ゴロにフォースアウトされ丹再び三振、羽石も亦三振して得る處無し（早實零、秋田零）

■第五回　早實の平田遊擊飛球に死せし後宮川三塁遊擊間を拔く安打に出で岡田四球を利し三川の犧牲球に送られて三、二塁に占據せし時臼井の快打遠く外野を襲うてアハヤ

安打と思はれし剃那秋田の中堅手羽石ランニングキャッチのファインプレーを演じて再び危機を脱ず▲秋田の高橋、齋藤投手と三塁に凡打し渡部三振す（早實零、秋田零）

■第六回　早實の石崎四球に出で霜島の犠牲球に一塁三塁を奪ひて機を待つ折しも石井一塁の後方に絶好のタイムリーヒットを飛ばして石崎悠々生還先一點を恢復し次で石井は二塁を盗み大に優勢を示せしが石井勢に乗じ更に三塁を盗まんとして刺され中澤は遊撃ゴロの失に生きしも平田遊撃飛球に斃れて尚敵に及ばざる事一點▲秋田の長崎は二塁ゴロに、鈴木は中堅飛球に小山田は三塁ゴロに凡死して得點無し（早實一點、秋田零）

■第七回　早實の宮川は三塁ゴロに死し岡田はフアウルを揚げ三川又三塁ゴロに斃れて止む▲秋田の信太二塁ゴロの失に生き丹、羽石の犠牲球に送られて三塁に據り三たび早實の危機到りしも高橋の三塁直球を三塁手宮川轉び乍ら好捕して點を成さしめず依然二對一の接追戦を以て第八回に移る（早實零、秋田零）

■第八回　早實の白井二塁を過らせて生きしも二塁の盗奪を企て、成らず石崎三振、霜島二塁ゴロに殺れて守備に就く▲秋田代り攻めて齋藤遊撃のゴロに死したる後渡部再び遊撃を襲うて生き長崎の二塁ゴロにフォースアウトされて早くも二死となりしが鈴木の左翼安打に長崎躍進、一呼三塁を奪ひ小山田の投手ゴロを白井逸するに及んで生還又一點を加へて三點となる次で丹中堅に飛球を揚げ愈々最後の九回戦に移る（早實零、秋田一點）

■第九回　早實勇奮して起ち石井の投手ゴロに死せし後中澤三塁を衝いて生き盗塁と平田の犠牲球により三塁に進んで後殺の好打を待ちしが宮川遊撃に飛球を揚げて萬事休す斯て午後三時廿分試合は三プラスA對一にて秋田中學の勝を以て終了し秋田は最優勝戦參加の權利を獲得す（球審都築、塁審吉田、岡本、陪審折田）

早稲田實業

2	田川	三塁	二	三	四	犠牲球	犠牲塁	盗塁	残塁	打数 二十九
4	井澤	遊撃	一	一	五	一	六	七	五	安打 三
1	島	捕手	五	一	一					三振 一（長崎）
7	霜	投手	零	零	零					四球 五（長崎）
9	石	一塁	八	五	八					犠牲球
6	中	右翼	一	一	一					犠牲塁
8	平	中堅	零	零	零					盗塁
3	宮	左翼	三	三	三					残塁
5	川	二塁	三	三	三					打数 三十一
					A					安打 五
										三振 八（白井）
										四球 一（白井）
										犠牲球
										犠牲塁
										盗塁
										残塁
										得失點 一
										得失策 五
										得失塁 三

秋田中學

2	渡部	遊撃	二	一	一					打数 二十九
1	長崎	捕手	五	一	一					安打 三
5	鈴木	二塁	一	一	一					三振 一（長崎）
6	小山田	投手	零	零	零					四球 五（長崎）
3	信太	一塁	八	五	八					犠牲球
7	丹	右翼	一	一	一					犠牲塁
8	羽石	中堅	零	零	零					盗塁
9	高橋	左翼	三	三	三					残塁
4	齋藤	捕手	三	三	三					打数 三十一
					A					安打 五
										三振 八（白井）
										四球 一（白井）
										犠牲球
										犠牲塁
										盗塁
										残塁
										得失點 一
										得失策 五
										得失塁 三

概評

兩軍の技倆攻守共に卓絶し中等學校チームとしては眞に稀有の強チームなる上兩者の勢力相伯仲し今次の大會中第一の好試合と云ふを妨げず而して試合前に於ける第三者の輿味は早軍のバッテリーの強味に對する秋田の打撃力が加何なる程度まで威力を發揮し又秋田の投手長崎の重味ある速球に對し早軍の打者が幾干のヒットを飛ばし得るかの二點に集注され居りしが如し▲果して試合は毎回活氣に充ち實

に緊張せる好ゲームなりしが早軍は初め稍敵を侮りてかゝり却つて一點を敵に先んぜられ少しく焦慮り氣味にて愛次失策をなし敵に好機を與へ悲いて全軍の敗因を招來するに至りたり▲秋田の弱點は投手の四球と二塁手齋藤の失策とにてそれが爲愛次危地に陥り大に苦戦せしも早軍の失策はそれ以上にて殊にタイムリー・エラー多く遂に此の敗戦を見るに至りしものなるが、就中秋田の一塁手信太が毎回よく守り絶にて失策無かりしに反し早軍の平田一塁手は稍緊り方足らず、又早軍の遊撃手石井は餘りに明敏に過ぎて却つて失策を續出せし傾きあり▲例へば第六回目に一死の時二塁に居りながら功を急りて三塁に犬死し後打者中澤の好打と敵遊撃の失策あるも尚點を入るゝの機會無きに至らしめし事及び第三回目に敵の走者を謀らんとして三塁に暴投し却つて敵に一點を得せしめし事等明敏に失して反對に過を多からしめたるは慎む可し▲投手の技倆は策謀多き白井の怪腕に對し火の如き長崎の熱球よく匹敵して殆と優劣を見ざりしが兩軍共に打撃刀旺盛なる爲め單に投手の腕一本に敵軍の打撃を封じ以て勝を制するの策に出づる能はず繰り返し云ふ如く秋田は唯敵のタイムリーエラー多かりしだけの相違にて最近全國を震駭せしめし此の強敵早稲田實業を撃破し最も光榮ある勝利を得たるもの、如し

第四日

二十一日午後二時より大會第四日の豫定を實施し最終の優勝戦參加チームを決定す可き第三次豫選試合を行ひたり

京都二中對和歌山中學

（無勝　頁）

一は第一日の試合に於て四國の強チーム高松中學を撃破し抽籤に依つて二勝者の權利を獲得せるもの、又一は久留米商業及び鳥取中學の棄權を一蹴せし餘勢を驅つて殺到せるもの、蓋し大會中有數の好ゲームたるを失はず試合は和歌山の先攻を以て初まる

■第一回　和歌山の第一打者奥山三振し、西村は遊撃ゴロに死し永岡はフアウルを一塁に揚げて得る處無し▲京二中の仲投手ゴロに死せし後山田四球に出でしも大場三塁にフアウルを得られて凡死し山田亦盗塁を企て、二塁に刺さる（和歌山零、京二中零）

■第二回　和歌山の矢部二塁ゴロの失に生き戸田の犠牲球に送られて二塁に立ち中筋の右翼飛球を野手の逸せし隙に本塁を陥れて先づ一點を獲得せしが中筋勢に乗じ一塁三塁に突進して刺され小笠原一塁ゴロに斃れて止む▲京二中の藤田二塁手の頭上を抜く痛打に出で、一呼三塁を陥れ投手の牽制球を三塁手の逸せし暇に生還して忽ちセームとなりしが津田は投手ゴロに死し綾木は遊撃に直球を早し西川の飛球亦敵中堅手の獲る處となりて第三回に入る（和歌山一點、京二中一點）

■第三回　和歌山の小川（錦）左翼飛球に死せし後小川（豊）三塁の失に生き奥山亦二塁を過らせて西村の犠牲球に二塁と三塁を獲しが永岡二塁ゴロに死して好機を逃す▲京二中の内藤投手ゴロに死し野上三振、仲中堅に飛球を揚げて得點無し（和歌山零、京二中零）

■第四回　和歌山の矢部四球に出で戸田の遊撃ゴロにフォースアウトされしも京二中の遊撃手綾木戸田を併殺せんとして一塁に暴投せし爲戸田二塁を得しが捕手の逸球に三塁

を抜かんとして却つて刺され中筋二壘ゴロに斃れて止む▲京二中の山田内野安打に出でしが輕擧一壘に刺され大塲は三壘ゴロに死し藤田又左翼安打に出でしも津田中堅に飛球を揚げて得點無し（和歌山零、京二中零）

■第五回　和歌山の小笠原投手直球に斃れし後小川(錦)四球に出で小川(豐)の遊撃ゴロにフォースアウトされしが京二中の綾木又小川(豐)を併殺せんとして再び一壘に高投し小川(豐)二壘に立ちしも奥山二壘ゴロに死して點を得る能はず▲京二中の綾木三振せし後西川遊撃ゴロに出で一壘のパッスボールを利して二壘に進み内藤の犧牲球を待つて三壘に據る、されど野上投手ゴロに斃れて得點無し（和歌山零、京二中零）

■第六回　和歌山の西村三壘ゴロに死し永岡は中堅に飛球を揚げ矢部投手ゴロに凡死して代る▲京二中の仲中堅飛球に死し山田三振大塲投手ゴロに斃れて依然一對一の形勢を持續す（和歌山零、京二中零）

■第七回　和歌山又戸田は三壘に中筋は投手に小笠原は一壘に凡打を呈して尚點を加ふるに至らず▲京二中の藤田四球に出で津田中堅に飛球を揚げて死せしも綾木は三壘にゴロを打ちて藤田を二壘に送ると共に自ら一壘に生きしが西川三振し内藤投手ゴロに斃れて又もや好機を逸す（和歌山零、京二中零）

■第八回　和歌山の小川(錦)二壘ゴロに斃れ小川(豐)三振せし後奥山遊撃ゴロに生きて二壘を盜みしも京軍愈々守りを固うし西村を中堅飛球に屠つて尚一點をも得せしめず▲京二中の野上遊撃ゴロに凡死し仲三振せし後山田三壘遊撃間にゴロを飛ばし和歌山の中筋、西村互に其のボールを搦まんとして衝突し山田を一壘に生かせしも續く大塲を左翼飛球に殺して最終戦に移る（和歌山零、京二中零）

■第九回　和歌山の永岡投手飛球に死し矢部二壘ゴロに生きて後續の戸田が二壘飛球に死せしを見るや勇奮一番二壘の盜奪を企で、見事に成功せしも中筋三振して止む、折柄暗雲低く空に蔓り雷鳴殷々として殺氣自ら塲に漲る▲京二中代り攻めて藤田フアウルに斃れし後津田投手にゴロを呈し一壘手の失に生きしが、此の時驟雨沛然として到り到底試合を續行する能はざるより止むを得ずドロンゲームを宣し二十二日更めて兩者の試合を行ふ事としたり、時に午後三時半

京都二中

		打數	安打	三振	四球	犧牲球	盜塁	殘塁	失策	得點
8	田	二	二	五	二	零	一	六	八	一
2	仲	十	一	(戸田)	(戸田)					
5	山	八								
1	大									
4	藤									
6	津									
3	綾									
7	西									
9	内									
	野									

三壘打　藤田

和歌山中學

		打數	安打	三振	四球	犧牲球	盜塁	殘塁	失策	得點
8	山	三十	三	零	四	犧牲球	盜塁	殘塁	失策	得點
6	村									
3	岡									
2	部									
1	田									
5	筋									
7	原									
4	笠川(錦)									
9	小川(豐)									
	小	三	一	一	二	五	三	一		
				(藤田)	(藤田)					

兩校長の口と心

大會の第四日目、請待席の金網の中で共々表情を變へる人が二人ある、一人は和歌山中學校長の野村さんで一人は京二中の校長中山さんだ、此の二人は互に仲好く膝を交へて亜んではゐるが、心の中はそんな暢氣なものではない、「京都は中々宜く打ちますなあ」と野村さんが仰有る、其の心の中は「アウトになればいゝ」又中山さんはお世辭よく「和歌山の守備は確固したものですなあ」と言ふものゝ「早く失策を爲ればいゝ」と思うて居るんだから可笑しい

第五日

京都二中對和歌山中學

（九A對五京都二中勝）

前日の試合に於て善戦九合、一對一の形勢を持して兩々相下らず遂に其儘ドローンゲームとなりし兩者の決戦なるだけに一層の興味を以て迎へられ午後一時八分前日同樣和歌山の先攻にて開戦す

■第一回　和歌山の奥山三振西村は遊撃に直球を呈して斃れ永岡亦三振す▲京二中劈頭の打者仲三壘を過らせて出で山田のバンドにフォースアウトされ三番打者藤田は三振して忽ち二死となりしも大塲の遊撃ゴロを和歌山の遊撃手西村後に逸し中堅手奥山も亦逸して遠く外野に轉々せしめたるを以て其間に山田長驅生還し大塲は二壘に據り先づ最初の一點を奪ひて士氣漸く昂る折しも綾木の三壘ゴロを和歌山の三壘手中筋逸して大塲を生還せしめ京軍早くも二點を唱ふ、津田二壘ゴロに死して第二回に入る（和歌山零、京二中二點）

■第二回　和歌山の矢部投手ゴロの失に生き捕手のパッスボールを利して一擧三壘を奪ひ續く戸田三振せしも中筋四球に出で、二壘を盜み先頭の矢部と供に二三壘に據りしに小笠原の快打絶好の右翼安打となりて矢部、中筋生還忽ちにして二點を恢復しセームとなる、次で小笠原は二壘の盜奪に失敗し小川(錦)は二壘後に安打して出でしも小川(豐)中堅に飛球を揚げて止む▲京二中の西川は投手に、内藤は遊撃に、野上は三壘に凡打して得點無し（和歌山二點、京二中零）

■第三回　和歌山の奥山二壘後に安打して出で西村の犧牲球に送られて二壘に進みしも永岡は中堅飛球に死し矢部亦

右翼に飛球を獲られて得る處無し▲京二中の仲遊撃越の二塁打に出で山田犠牲球により三塁に進み藤田遊撃直球の失に生きて仲を生還せしめ一點を加へ續く大塲は遊撃の安打に出で綾木亦バンドに生きて一死滿塁となり大に優勢を示せしも後打者津田と藤田との計畫せしヒットエンドランの謀離離せし爲藤田三塁と本塁の間に挟殺せられ津田三塁ゴロに死して四回に移る（和歌山零、京二中一點）

▣第四回　和歌山の戸田フアウルに死し中筋は投手ゴロに斃れ小笠原三振して得點無きに反し▲京二中の西川投手ゴロに死せし後内藤左翼に安打し野上亦三塁と遊撃の間を抜く二塁打に出で、内藤を生還せしめ次で仲の投手ゴロのために野上二三塁間に挟殺せられ山田の遊撃ゴロは再び仲を二三塁間に挟撃せしめたるも而も巧に走塁して仲三塁に突入し危地を脱するを得たり、されど後續藤田フアウルに死して終る（和歌山零、京二中一點）

▣第五回　和歌山の小川（錦）三振し小川（豐）投手ゴロに、奥山二塁ゴロに凡死して尚二點を敵に先んぜらる▲京二中勢に乘じて攻撃愈々猛烈を加へ先頭の打者大塲右翼に痛打して一呼三塁を抜き綾木の犠牲球に依りて生還又一點を加へて五點を算す、次で津田は遊撃ゴロに死し西川二塁に凡打して此の回を終る（和歌山零、京二中一點）

▣第六回　和歌山の西村四球を利し漸く機運に際會せしもの、如かりしが續く永岡三振し矢部の投手ゴロに西村併殺されて好機去る▲京二中の内藤四球に出で野上の内野安打によりて二塁に進み仲の遊撃ゴロは野上を二塁にフォースアウトせしめしも山田の遊撃ゴロに内藤を生還せしめ續く藤田も四球に出で、一塁を得しが二塁に暴進して刺殺さる斯くて京中は得點六點を唱へ、敵を凌ぐ事正に四點にして意氣天を衝くの概あり（和歌山零、京二中一點）

▣第七回　和歌山の戸田は右翼飛球に死し中筋は二塁に凡打し小笠原一塁ゴロに斃れて尚一點をも加ふる能はず▲京二中の大塲投手ゴロに死せし後綾木三塁ゴロの失に生き津田の中堅安打を待て長驅本塁を陷れ續く西川又復三塁の失に生きて一塁を得るや折柄三塁にありし津田と相呼應して二塁を盗み津田は本塁の盗奪に成功して通計八點となりしが内藤野上三振して止む（和歌山零、京二中二點）

▣第八回　和歌山小川（錦）三塁と遊撃の間をゴロに抜いて出で小川（豐）四球を利し奥山の遊撃ゴロは小川（豐）を二塁にフォースアウトせしめたるも西村三塁ゴロに生きて一死滿塁となり京軍の危機漸く到りし時、投手藤田、後續の打者永岡を三振に屠つて二死に漕ぎ着けしが續く矢部に四球を與へて點を加へしめ戸田の二塁ゴロを塁手後に逸して奥川西村相踵いで生還和歌山の得點通計五點となるされど中筋投手ゴロ斃れて尚三點を敵に輸す▲京二中の仲又もや三塁ゴロの失に生き一塁のパッスボールを利して二塁に進み山田、藤田の犠牲球に送られて生還又一點を加へ大塲三たび遊撃の後方に長打して一擧二塁を抜きしも綾木フアウルに死して愈々最後の九回戰に入る

▣第九回　和歌山の小笠原が投手ゴロに斃れし後小川（錦）四球に出でしも二塁に暴進して刺され小川（豐）又四球を利せしが奥山三振し遂に九對五にて京都二中の勝となり午後三時試合を終る（球審松田、塁審奈良崎、町田、陪審井上）

學中山歌和		中二都京	
山村	8	田田	8
岡部	6	塲木	6
田筋	3	田川	3
原笠	2	藤上	2
奥西	1	仲山	1
永矢	5	藤大	5
戸中	7	綾津	7
小小	4	津西	4
小小	9	内野	9
二塁打		仲、津田、野上	

	打數	安打	三振打	四球	犠牲球	盗塁	殘塁	失策	得點
和歌山	三十	四	三	四	一	一	四	一	五
京都	三十七	九	三（戸田）二（戸田）	二	一	二	八	二	九

概評

兩軍の打撃大に振ひ、大會開始以來始めての打撃戰を演じたり、本來の打撃力を比較する時は和中稍々京軍に劣る感あり現に二十一日の試合に於ては和中三十の打撃中遂に一本の安打をも出す能はざる有樣なりしに其の後和中の各打者が工夫を重ねたると京軍の投手藤田の肩が前日よりも稍弱り居りし爲め此の日の和中は盛好打して京軍を窘窮せしめたり▲されば此の日の試合に於ける勝敗の數は兩軍攻撃力の優劣に多く因由せず主として其の守備の優劣によつて分れたるもの、如く就中和中三塁手中筋の頻發せし失策と同軍外野手のタイムリーエラーとは一時京軍の走者をして無人の境を行くの概あらしめ惹いて最後迄恢復の餘地無き致命的大打撃を其の頭上に招來するに至りたり▲京軍の失策は比較的少かりしも第二回目に於ける山田捕手の不注意は見す〳〵二箇の點を敵方に與へて京軍苦戰の因をなせしが如し▲二十一日あれまでに善戰せし和中軍が再び戰うて九對五の敗戰を招くに至りしは大に同情す可きも技倆の上より云へば先づ順當の勝負にして寧ろ和中としては善戰せしものと云ふべし、幸に自重せよ

▲大會委員紅白試合

和歌山對京二中の試合後直ちにシートノックを開始し午後三時半白軍卽ち現役軍の先攻にて開戰せしが豫後備現役の區別こそあれ兩軍とも斯道の先輩のみを以て組織せるチームの事とて毎回鮮かなるフアインプレーを演じて漫ろに昔日の妙技を偲ばしむるものあり加ふるに、社員同人中より編成せる兩軍の應援隊は各々數百本の應援旗を觀覽席に配布し互に聲を嗄して聲援す、然るに兩軍投手の球勢頗る猛烈にして三振又三振第八回の表に至るまで互に一點をも入れしめず零對零のまゝ押し進みたるが第八回の裏に至り紅軍の松田氏死球に出で敵投手統制球の逸球を得て二塁に進み後續福井博士の二塁ゴロを白軍の二塁手小林氏が取つて一塁に惡投せし隙に松田氏長驅本塁を陷れて貴重なる一點を得白軍代つて最後の攻撃に立ち揉みに揉んで攻め立てしも及ばず遂に白軍はノーランに終り一A對零にて元老軍の勝、午後四時五十分試合を終る（球審神戸クリツケツト倶樂部エリオン、塁審今井）

親の光は七里光る

これも大會の五日目、京都二中の名投手藤田君の兩親がチヤンと選手席の背後で見てゐざつた、燒野の雉子夜の鶴と古い諺を引く迄も無く、子は可愛い、審判官の宣言ばかりに耳を傾け、ストライキと云へば笑ひボールと云へば悲觀する、諸待席の兩校長さんと相對して二對の晴雨計だつたがこれが又藤田君の鐵腕にいひ知れぬ力を與へたらしい、或人曰く「親の光りは七里光る」と

第六日

今次大會の選手權を決定すべき二十三日は愈よ來れり、夜來降雨ありてグラウンド濕れる爲め豫定の午後一時に開始する能はず、委員協議の上豫定より一時間延ばして午後二時より擧行する事に決し、兩軍選手シートノックを終り將に試合を開始せんとして又復小雨あり一時全く中止するの已むなきを氣遣はしめしが、幸にして程無く西北の一角より密雲切れ初め降雨全く歇みたるを以て更に一應の協議を重ねたる上最優勝戰を決行したり

最優勝戰

京都二中對秋田中學

秋田は去る二十日の試合に於て強敵早稻田實業を擊破せし以來二日間の休養を得て十二分の英氣を養ひ京都二中は前後二日に亘る和歌山中學との激戰に稍疲勞せる氣味あるも外ならぬ最優勝戰の事とて決死の勇を奮つて起ち滿場の拍手に迎へられつゝ午後二時四十分、秋田の先攻を以て試合を開始す

■第一回　秋田先頭の打者渡邊投手ゴロに死し長崎亦一壘にゴロを呈して斃れ鈴木三振を喫して得る處無し▲京二中の仲遊擊にゴロを送りて一壘に斃れ山田は一壘に飛球を揚げて凡死し藤田三振して止む（秋田零、京二中零）

■第二回　秋田の小山田三振、信太はフアウルを三壘に彼られて退き丹は二壘ゴロに斃れて守備に就く▲京二中の大場投手ゴロに凡死せし後綾木三壘ゴロの失に生き投手の牽制球を一壘手の逸せし隙に二壘を得しが輕擧離壘して刺され津田三振して最初の好機を逸す（秋田零、京二中零）

■第三回　秋田の羽石二壘ゴロに死し高橋投手ゴロに斃れて二死となりし後齋藤二壘にゴロを呈し二壘手後逸せしも右翼逸早く前進巧みに捉へて一壘に刺殺し去る▲京二中の西川三振し内藤は遊擊ゴロに斃れ野上亦三振して依然兩軍とも得る處無し（秋田零、京二中零）

■第四回　秋田の打順大に良く多大の期待を以て攻擊に立ちしが果して第一打者渡邊の三壘ゴロに凡死せし後長崎右翼に痛打して出で間も無く盜壘に成功して二壘に據り鈴木は三振小山田亦四球を利して一壘を得しが京軍の投手藤田少しも騷がず後續の打者信太を投手ゴロに殺して危地を脫す▲京二中亦打順元に歸りて大に良く先頭の打者仲遊擊の後方に安打して出で山田の犧牲球に送られて二壘を得藤田又二壘後に安打して二壘を盜み一死にして走者二三壘に據る絕好のチヤンスに際會せしが第三打者大場と仲との計畫せしヒットエンドランのサイン徹底せざりし爲め仲本壘に憤死し次で大場三振に葬られて再び好機を逸す（秋田零、京二中零）

■第五回　秋田の丹は二壘に羽石は遊擊に飛球を揚げて凡死し高橋も亦投手ゴロに斃れて尙一點をも入る、能はず▲京二中の好機三たび到り綾木三壘ゴロの失に生き津田三振し西川フアウルに死して忽ち二死となりしも内藤三壘越の好打に出で野上四球を利して滿壘となり而も後續打者は京軍の最先鋒を承る強打者仲にて滿場手に汗を握りしが仲の飛球敵右翼手の獲る處となりて遂に點を成す能はず、兩軍依然として零對零の形勢を持し緊張の度漸やく加はり來る（秋田零、京二中零）

■第六回　秋田の打擊頗る振はず前五回の戰ひを通じて未だ一本の安打を飛ばせしもの無く又一人の三壘を踏み得しもの無き有樣なるより憤激して攻擊に立ちしが齋藤、渡邊、長崎の三者悉く投手に貧弱なるゴロを呈して一壘に骨を埋む▲京二中又振はず山田三振に退き藤田は遊擊に大場は左翼に飛球を揚げて第七回戰に移る（秋田零、京二中零）

■第七回　秋田のラツキーセブンは來れり、先頭の鈴木、小山田三振に葬られし後信太の投手ゴロを京軍の投手藤田が一壘に悪投せし爲め一擧三壘に據り、後續の丹二壘越のタイムリーヒットを飛ばして信太生還貴重なる一點を得意氣頓に昂る、羽石二壘ゴロに斃れて止む▲京二中亦綾木三壘ゴロに死し津田遊擊飛球に死して二死となりし後西川右翼に安打し内藤又三壘遊擊間を拔く安打に出で二壘と一壘に據りしも野上三壘にゴロを呈し西川をフォースアウトして又もや好機を逸す（秋田一點、京二中零）

■第八回　秋田の高橋投手ゴロに死し齋藤三振を喫せし後渡邊左翼に二壘打して出で投手牽制球の逸球を得て三壘に至りしが長崎投手ゴロに死して止む▲京二中の仲四球に出で、山田のバントを秋田の投手長崎が取つて一壘に高投するに及び無死にして走者三壘と二壘に據り次いで投手の悪球を捕手後逸せしため仲生還忽ちセームとなり觀衆總立ちとなりて狂呼せしが山田又ヒットエンドランの齟齬より三壘と本壘との間に挾殺され藤田三振して尙敵を凌ぐ能はず試合は極度の緊張を持して愈よ最後の九回戰に入る（秋田零、京二中一點）

■第九回　秋田の鈴木は中堅に飛球を獲られて死し小山田を信太は投手ゴロに凡死して京二中代る▲京二中亦綾木は中堅飛球に斃れ津田は投手ゴロに死し二死となりし後西川四球を利せしも內藤投手ゴロに死して尚一對一の均衡を破る能はず補回試合に移る、大會開始以來初めての延長戰なり（秋田零、京二中零）

■第十回　秋田の丹と高橋は二壘ゴロに死し羽石は投手ゴロに斃れて止み▲京二中の打順大に良く必勝を期して攻擊に移りしが野上三振に屠られ仲二壘飛球に死し山田は遊擊後に安打して出でしも二壘に暴進して刺され尚勝敗の決を見るに至らず（秋田零、京二中零）

■第十一回　秋田の齋藤三振し渡邊の好打遊擊の頭上を拔きて見事なるヒットと思はれし刹那京軍の左翼手內藤鮮かに好捕し長崎三振して得る處無く▲京二中先頭の打者藤田中堅に安打して出で大場三振、綾木三壘ゴロに生きて藤田を三壘に送り津田投手にゴロを呈して藤田を三壘にフォースアウトせしめ二死となり西川四球を利して再び滿壘となりしが責任打者內藤の猛打せし飛球を秋田の左翼手丹好捕して好機又もや去る（秋田零、京二中零）

■第十二回　秋田の鈴木二壘ゴロに、小山田は一壘飛球に死し信太三振して尚ランを作る能はず▲京二中野上三壘直球に死し仲は中堅に飛球を揚げて忽ち二死となり山田遊擊ゴロの失に生きて二壘を盜みしも藤田投手ゴロに斃れて得點無し（秋田零、京二中零）

■第十三回　秋田劈頭の丹左翼に安打して出でしが羽石又左翼に飛球を呈して斃れ丹は二壘の盜壘を企てゝ成らず高橋三振して空しく止む▲京二中亦先頭の打者大場中堅に飛球を呈し野手の失に生きて二壘を盜み後續の綾木はファウルに死せしも津田の二壘直球を秋田の二壘手齋藤ワンバウンドにて取り一壘に惡投せしを一壘手信太のファンブルせし隙に大場疾驅して本壘に殺到し一點を奪うて遂に強敵秋田の止めを刺し、茲に京二中全勝の榮譽を擔うて大會の優勝旗並びに賞牌賞品を得午後五時十分目出度第一回全國優勝野球大會を終る（球審菊名、壘審井上、岡本、陪審町田）

秋田中學

2	渡邊
1	長崎
5	鈴木
6	小山田
3	信太
7	丹
8	羽石
9	高橋
4	齋藤

二壘打　渡邊

打數	四十三
安打	四
三振	十（藤田）
四球	一（藤田）
犧牲打	零
盜壘	一
殘壘	二
失策	七
得點	一

京都二中

8	仲田
2	山田
1	藤田
5	大場
6	綾木
4	津田
3	西川
7	內藤
9	野上

打數	四十七
安打	七
三振	十（長崎）
四球	四（長崎）
犧牲打	零
盜壘	五
殘壘	九
失策	二
得點	二A

概評

善戰九合、尚勝敗の決を見るに至らず遂に十三回に至るま

でエキストラインニングを行ひて漸く二一A對一の勝負を見るに至りしは流石に全國を代表する大會の最優戰たるに恥ぢず勝ちたる二中は勿論敗れたる秋田も亦良く戰ひたりと云ふ可し▲試合前に於ける多數の豫想は秋田に有利にして加ふるに秋田は前二日間休養して十分の英氣を蓄へたる後連日の苦闘に疲勞困憊せる京二中と陣頭に相見ゐたる事なれば所謂逸を以て勞を待つものとも云ふ可く頗る有利の地位に立ちしに拘らず遂に京軍をして名を成さしめたるは、第三日の試合に於て大會中第一の強敵と目せられし早稻田實業に勝ちて氣稍驕り自餘の弱敵何れも與し易しとなして最初より敵を侮りてかゝり功を急り却つて失敗を招けるものゝ如し▲是れに反し京都二中は慘澹たる苦心を重ねて敵の投球に對する打擊法を研究すると共に、從來十字投球の直球をのみ打ち馴れてカーブに對する打擊法の修練なき敵打者の弱點を巧に看破し藤田の怪腕を利用して悉くアンダースローのアウトカーブに封じ去り、且つ最初より勝敗を度外に置きて慌てず騷がず、始終愼重の態度を執りつゝ、敵を壓迫し試合の二三回目頃より既に優勢の地位に立ちて最後の勝利を豫想せしめたり▲總體の上より見る時は秋田は捕手を除く外守備に於て二中に優りしも打擊に於ては其れ以上に劣りし爲め此の敗戰を見るに至りしものなるが概して兩軍とも打擊の際焦慮り氣味あり殊に九回以後に於ては一層焦燥してバントを利用する事を忘れ見す〳〵好機を逸し去りたり▲京二中はヒットエンドランのサインの錯誤かそれとも走者の輕擧か二回までも一死にして三壘に走者を有しながら本壘に憤死せしめて每次好機を逸し九回にて終る可き勝負を延長するに至らしめたり▲又秋田の得し一點は當然京軍の捕手によりて一壘に投ず可きバントを茫然として投手に任せし爲め藤田稍狼狽して一壘に惡投し可惜一點を敵に與へしものにして又京二中が第八回に得し一點も秋田の捕手が敏捷を欠き優に捉へ得可き高球を逸して仲を生還せしむるに至りしものなり▲其の他秋田の一壘手信太及び左翼手丹、京軍の投手藤田、左翼手內藤等は皆よく活躍せしが殊に京軍の八番打者たる內藤の打擊大に振ひしは敵投手を困惑せしむる第一の因となりて大功を奏したり▲要するに此の日の勝負は順當の勝負にしてあれ迄試合を延長せしめしは寧ろ秋田の善戰せるものと云ふ可きか

大會委員の紅白試合

第五日目の和中對京二中戰が終ると直ぐ大會委員の紅白試合をやつた、紅軍は豫後備役の人々でお歳五十に近い平岡寅之助氏、十五年バットを握つた事のない福井博士などもあるが何がさて昔執つた杵柄は馬鹿にならない、白軍は總て高等學校專門學校の現役選手だつたが紅軍の名投手松田のために全く打擊を封ぜられ紅軍また打擊振はず何方も得點なしで八

回になつた時紅軍の福井博士安打して一點を得結局一對零で豫後備のお年寄り側が勝つた、其の賞品がボールの代りに西瓜、バットの代りに摺古木、割つておあがりといふ趣向、早速ぶち割つて敵も味方も舌鼓を打つた

參加選手成績表

▲成績採點の標準

打撃同率者の間に於ては左の事項を條件として其順次を決定したり

一、タイムリー・ヒット
二、ロング・ヒット
三、シングル・ヒット

而して其細目の中にありてはヒットの數、ゲームの數を參酌したり、卽ちゲーム數多く、取扱ひたる球の數多きものを上位に置きたるものとす、守備率の計算亦之に準ず（本表括弧内の文字は學校名の略にして數字は其シートを示す）

選手の打撃率

	打撃率	試合數
澤山（山）	0.500	1
片岡（久）	0.500	1
今里（久）	0.500	1
田村（鳥）	0.333	3
渡邊（秋）	0.333	3
松田（鳥）	0.333	3
小川錦（和）	0.333	4
石井（早）	0.333	2
中村（廣）	0.333	1
藤原（神）	0.333	1
箸藏（神）	0.333	1
加納（高）	0.333	1
堤（山）	0.333	1
大塲（京）	0.286	4
鈴木（秋）	0.286	3
丹（秋）	0.286	3
內藤（京）	0.250	4
小山田（秋）	0.250	3
白井（早）	0.250	3
上田（鳥）	0.250	2
木村（高）	0.250	1
今村（神）	0.250	1
倉本（廣）	0.250	1
城崎（久）	0.250	1
佐藤（久）	0.250	1
森崎（久）	0.250	1
藤田（京）	0.333	4
綾木（京）	0.333	4
仲（京）	0.300	4
野上（京）	0.300	4
宮川（早）	0.300	2
林田（廣）	0.300	1
增岡（廣）	0.300	1
小田（廣）	0.300	1
村（和）	0.286	2
西村（早）	0.286	2
中村（早）	0.286	2
西川（京）	0.286	4
矢部（和）	0.286	4
津田（京）	0.286	4
平田（早）	0.286	2
霜島（早）	0.286	2
岩田（鳥）	0.286	2
山田（京）	0.286	4
奥山（和）	0.286	4
齋藤（秋）	0.286	3
小川豐（和）	0.286	4
長崎（秋）	0.286	3
小笠原（和）	0.286	4
信太（秋）	0.286	4
中筋（和）	0.286	4
戸田（和）	0.286	4
（他は零に付省略）		

選手の打撃率

	打撃率	試合數
京極二	0.286	4
中商	0.286	1
久田	0.286	1
秋取	0.286	1
鳥島	0.250	1
廣	0.250	1
早賀	0.286	2
和歌山	0.286	4
山田	0.200	1
神二	0.200	1
中松	0.200	1
高	0.200	1
菊川弟（同9）	1.000	1
今里（久8）	1.000	1
內藤（同9）	1.000	1
村（神1）	1.000	1
好（同2）	1.000	1
箸藏（同4）	1.000	1
田中（同6）	1.000	1
兒島（同7）	1.000	1
橋本（同8）	1.000	1
縣川（高9）	1.000	1
岡（廣8）	1.000	1
小田（同4）	1.000	1
倉本（同5）	1.000	1
廣藤（同6）	1.000	1
信太（秋3）	0.250	3
鹿田（鳥1）	0.250	2
藤田（京1）	0.250	4
松田（鳥2）	0.250	2
永岡（和3）	0.250	4
臼井（早1）	0.250	2
平田（同3）	0.250	2
長崎（秋1）	0.250	2
西川（山1）	0.250	1
戸田（和1）	0.250	4
加納（高2）	0.250	1
岸（廣1）	0.250	1
城崎（久1）	0.200	1
村田（神5）	0.200	1
中村（廣3）	0.200	1
中村（高5）	0.200	1
仲（京8）	0.250	4
松木（鳥3）	0.250	2
澤山（山6）	0.250	1
置鹽（同3）	0.250	1
大西（高1）	0.250	1
野上（京9）	0.250	4
鈴木（秋5）	0.250	3
津田（京4）	0.200	4
齋藤（秋4）	0.200	3
綾木（京6）	0.200	4
小山田（秋6）	0.200	3
田村（鳥5）	0.200	2
高橋（高5）	0.200	1
片岡（久6）	0.500	1
田中（同2）	0.250	1
三川（早4）	0.250	1
西村（和6）	0.250	4
奥山（同8）	0.250	4
大塲（京5）	0.250	4
小川錦（和4）	0.250	4
植村（神5）	0.250	1
岸田（高4）	0.250	1
藤原（神9）	0.250	1
森崎（久3）	0.250	1
石井（早6）	0.250	1
中筋（和5）	0.250	4
岩田（鳥4）	0.250	2
佐藤（久4）	0.250	1
小笠原（和7）	0.250	4
秋山（久5）	0.250	1
鷹森（山4）	0.250	1
前納（同5）	0.250	4
岩瀨（高6）	0.250	1
小川豐（和9）	0.000	4
堤（山7）	0.000	1
林田（廣8）	0.000	1
（他の人々は一回も捕球の機會に接せざりしを以て省略す）		

Teamの打撃率

	打撃率	試合數
京都	0.286	4
久留米	0.286	1
秋田	0.286	1
鳥取	0.286	1
廣島	0.250	1

選手の守備率

	守備率	試合數
西川（京3）	1.000	4
山田（同2）	1.000	4
內藤（同7）	1.000	4
矢部（和2）	1.000	4
丹（秋8）	1.000	3
渡部（同2）	1.000	3
羽石（同7）	1.000	3
高橋（同4）	1.000	2
岡田（早2）	1.000	2
宮川（同5）	1.000	2
石崎（同7）	1.000	2
中澤（同8）	1.000	2
竹岡（鳥6）	1.000	2
中村（同8）	1.000	2
小谷（同9）	1.000	1
菊川（山2）	1.000	1
田中（同2）	1.000	1
菊川弟（同9）	1.000	1
今里（久8）	1.000	1
內藤（同9）	1.000	1
村（神1）	1.000	1
今（神1）	1.000	1
好（同2）	1.000	1
箸藏（同4）	1.000	1
田中（同6）	1.000	1
兒島（同7）	1.000	1
橋本（同8）	1.000	1
縣川（高9）	1.000	1
岡（廣8）	1.000	1
小田（同4）	1.000	1
倉本（同5）	1.000	1
廣藤（同6）	1.000	1
信太（秋3）	0.250	3
鹿田（鳥1）	0.250	2
藤田（京1）	0.250	4

Teamの守備率

	守備率	試合數
神廣二中	〇、九四三	一
島	〇、九四三	一
京二中	〇、九三八	四
秋田	〇、九二九	三
島取	〇、九一六	二
早賀	〇、九一四	二
和歌山	〇、八八八	四
山田	〇、八四一	一
松高	〇、八二〇	一
久留米商業	〇、七八	一

優勝選手慰勞宴

八月二十三日午後五時半、輝〻夕日の中に榮光ある優勝旗を獲た京都二中選手は大會委員、本社員等と共に特別電車で大阪に凱旋した、梅田停留所前には本社の社旗で飾つた七臺の自動車が待つて居る、一行之に分乘して先づ本社に來り樓上會議室に入り休憩、上野社長代理から祝辭を受け續いて一同記念寫眞を撮つた後再び自動車で大阪市を南に突ッ切り天王寺町の南陽館に至つて盛んなる慰勞宴に列した

各地野球大會

第一回京津野球大會

京津野球大會は毎年一回京都府、滋賀縣兩地の優勝者を選定すべき大會にして本社京都通信部之が主催者となり大正四年七月二十五日より五日間京都第三高等學校校庭に於て擧行せり、集るもの京都一中、同二中、同五中、同師範、同第一商業、同志社普通部、美術工藝、立命館中學、滋賀師範、八幡商業、坂本中學の十一校にして（京都大學教授法學博士末廣重雄氏第一日の劈頭始球式を行はる）左の結果を以て大成功裡に終了したり、試合は五日間に於て前後十回を行ひたるが其結果京都二中對同志社普通部の優勝決戰となり優勝旗は遂に京都二中の獲る所となれり

試合の結果

京都一商（十三）―京都二中（抽籤勝）
京都一中（九）―京都二中（八）
京都一商（一）―京都二中（五）
京都一工藝（二）―京都二中（零）
同志社（十一）―同志社（零）
同志社（十）―同志社（十一）
立命中學（零）―同志社（十）
京都師範（廿三）―京都五中（零）
八幡商業（十一）―京都師範（六）
京都五中（廿三）―京都五中（十一）
坂本中學（十二）―京都五中（十一）
滋賀師範（抽籤勝）―滋賀師範（二）

第一日（七月二十五日）

▲京都一商對京都美術

京商チームは先年の東征以來頓に其聲價を擧げ現選手亦千軍萬馬の間を馳驅せる老巧に撝て、加へて過般來早大加藤市岡兩將を聘して理論的に練技を勵精し居れる強チームなるに對し美術軍は本年始めてチームを組織し先輩に指導者なく練技のグラウンドを欠き意の如き練習を爲す能はざる境地にあり初陣としては攻守能く努めたりといふべく敵の猛打に會ひて守備に混亂を來し時々壘手無効の投球をなしてエラーを續出せしは遺憾なりしも是れ亦初陣としては詮方なき結果なるべきか結局十三對二にて美術方の敗となる

京都一商		美術學院	
山原田	村川間田井	岡中疋重木長笠長河	谷
6 7 1-5 1-2 5-1 3 8 4 9		3 4 5 2 6-1 7 8 9 1-6	
二壘打	岡山		

	打數	安打	三振	四球	失策	得點
京都一商	二十二	二	八（吉、尾）	一（尾家）	十六	二
美術學院	二十九	四	四（河、木）	七（河、木）	四	十三

▲坂本中學對京都五中

比叡の山腹に其の校舎を有せる坂本中學は其の運動場絶壁に臨み守備練習の如きは漸く飛球を投捕するに過ぎざる不便宜なる上前日正投手を負傷に失ひたるために全軍のシートを一變してこれが補欠を求め遊車出動するに至れり首腦者の欠失はこれが敗因を造りしも補欠投手を以てせる戰振りとしては能く其の任を盡したるものといふべし、廿三對十二を以て五中方勝つ

坂本中學		京都五中	
國	岡（忠）	重	林
1-5	藤上林宮島田村	近	川田池村本井
7 3 8 2 4 9 5-1	中村近井小二眞浦中	4 3-1 1-7 7-3 2 5 8 9 6	奥小喜多金西三松平
三壘打	井上▲二壘打 井上、中村（忠）		

	打數	安打	三振	四死球	失策	得點
坂本中學	四十五	九	七（小林）	八（小林）	十七	十三
京都五中	四十	六	十（中村）	十九（中村）	十三	二十二

▲京都一中對京都二中

京都球界重鎮の對戰なり、觀者は此呼物たる試合を見逃してはと續々グラウンドに詰かけたり、試合は一中の先攻に始まり第二回の表に於て一中方平井、奥の兩者共に右翼に強烈なるゴロを送りしも翼手の巧妙なる捕投に倒れて止み二中代つて攻め藤田中堅ゴロに出で一壘の失に二壘に進み捕手のパッスに三壘に及び壘手の失に本壘に殺倒して先づ一點を擧げ六回二中又仲左翼ヒットに出で内藤の犧牲飛球に進壘し捕手のパッスに入壘更に一點を加へ七回に入り一中軍の攻撃中故障を生じ遂に試合を延期する事として第一日を終る

△延期理由　此の試合は野球規則により日沒二時間前に擧行せしも萬一日沒までに九回のゲームを終了し得ざるやも知れずとの議起り二中側の申出により兩校協議の末「萬一日沒までに九回を終了し得ざるときは得點の如何に拘はらず第二日午後之を續行す」との特別規約を設け一中の先攻を以て試合を始めしが戰況は實に緊張を極め近來絶無の大マッチを見せつゝありしに圖らずも第七回目の表に

京都二中		京都一中	
藤	井	臼	井
塲	立	足	立
田	川	香	川
田	田	森	田
木	井	平	井
川	座	赤	座
田	橋	奥	橋
上	内	古	内
8 4 5 1 6 9 3 2 7		6 5 2 3 1 8 7 9 4	
仲内大藤津綾西山野		宮	

	打數	安打	三振	四球	失策	得點
京都二中	二十一	五	十（平井）	零（平井）	二	二
京都一中	二十三	二	八（藤田）	零（藤田）	六	零

▲同志社對立命館中學

第二日（二十六日）

同志軍敵を見縊り正投手片田を左翼に第二投手湯淺をプレートに立たしめて一段調子を下ぐ、立命館軍全力を擧げて攻防に努めしも同志社軍の堅實なる守備と連續して起る其痛打とは如何ともする能はず結局五回戰十一對零にて同志社軍の大勝に歸せしが自校にグラウンドを有せざる練習不足の立命館軍が強敵を向ふに廻して最後に至る迄能く奮戰撓まざりし鋭氣は又賞するに足る

同志社		立命館	
辻	永田淺川口勢田	北	村田堂田橋部崎井
清		野	
片		井	
湯		吉	
中		小	
大		建	
梁		岩	
能		藤	
上			
6 8 7 1 2 5 3 9 4		1 4 6 5 2 7 8 9	

	打數	安打	三振	四球	失策	得點
同志社	二十二	六	四（北）	六（北）	十一	
立命館	十六	一（湯）	八（湯）	三		零

▲八幡商業對京都師範

兩軍の技倆伯仲せるより觀衆多大の興趣を以て迎へ試合は京師方の先攻に始まる第一回京師軍一死の後加川投手を強ゴロに襲ふて出で二三壘を盜み本阿彌のフアウル線側の飛球を左翼の逸するや加川入壘して一點を擧げ八幡代つて攻め田中、澤島の兩者は平井の右翼越安打に易々として入壘し平井亦山本のバンドに生還三點を占め更に二回の裏に於て敵の過失と好機安打に四點を加へ殆んど勝敗の數を卜さしめんとせしが京都軍もさるもの三回の表に奮然として痛打猛擊を開始し一擧七點を奪ひしより調子つきて安打に次ぐに安打を以てし結局二十三對十一の七回ゲームにて京師の勝となれり

京都師範		八幡商業	
本	川原彌阿村西庭本西	田	原田澤平雪本上寺永
岩		中	
加		島	
高		井	
本		井	
家		山	
中		田	
廣		本	
山		本	
森			
6 5 1 2 3 7 8 9 4		1 3 2 6 8 5 7 9 4	

	打數	安打	三振	四死球	失策	得點
京都師範	四十三	十六	九（原田）	七（原田）		二十三
八幡商業	三十一	八	九（高原）	六（高原）		十一

▲京都一中對京都二中

前日中止延期となり午後三時より引續き擧行の筈なりしが前日負傷せる香川捕手は猶少しく眩暈を感じ到底激戰場裡に立つこと能はず其補欠も亦氣分優れずとの事に殘餘の選手は雄心の勃々たるものあれども他の補欠と違ひ最も重要なる捕手の位置として如何ともする能はず此際出戰して見苦しき記錄を留めんよりは潔く敵に勝を讓るに若かずとて定刻前一時間半、一中の岩森野球部長は態々グランドに來り主催者並に當時の審判者に對して棄權を申込みたり、是に於て大會委員は深く之を諒とし第二回目八商對京師戰の終了後二中選手をそれぞれ各位置に就かしめ球審判三高佐久間氏はゲームセットを宣告し規則に依り九對零にて京都二中の勝利となれり、時に午後四時

▲滋賀師範

抽籤の結果相手方なきため不戰勝者となる

第三日（二十七日）

一勝者試合一

▲京五中對滋賀師範

京都五中は第一日に坂本中學を敗りしもの、又滋賀師範は不戰勝者の僥倖を贏ち得しもの、其練習振に於ては或は滋賀師範に勝味あらざるやを思はしめしも五中先攻して第一回に西池中堅を抜くタイムリー二塁打を飛ばして劈頭敵の氣を奪ひ第一回にて既に得點四を數へ五回又一點六回の如きフールベースにて迫りバンドと敵の失に一擊六點を加へしに反し滋賀師範は五中投手のスローカーブに弄ばれて打球概ね飛球となり空しく敵に名を爲さしめ漸く四回に一點、五回に一點を得十一對二の七回ゲームを以て五中の大勝となる

五中		滋賀師範				
			打數	安打	三振	得點
4	重	村	二十六	四	三	二
3	近	山		三	死	二（小林）一（小林）
1	奥	中		打	振	死
2	小	堀		四	二	二
7	笠原	野		三	十二（板倉）	十一
9	多川	原		安	三	得點
5	喜田	野		打	四	
8	金田	井		數	死	
6	西池	倉		二十五	二	
	三村	板			十二（板倉）	
	平井	今			十一	
		中				
		桑				
		牧				
		荒				
		田				
		西				
		中				
		村				

▲京都二中對京都一商

一勝者戰中の呼物たる京二中對京一商試合は引續き滿場の歡呼に迎へられて開始され一商先攻す、惜しむらくは當日一商方はチームの主力なる和田投手を欠き右翼森田をして之を補ふの止むなきに至りし爲め二中軍は此の虚に乘じて猛打痛擊し中にも仲第一打者の如きは四回の劈頭に於て遠く中堅の後方に見事なる長打を放つて長驅本塁に突入せるが如き大會開始以來空前の花を咲かしめたり、之に反して京商方は藤田二中投手の熱球魔球のコントロールに封ぜられて打擊更に振はず第三回中村の三塁に據るの時山下のタイムリーヒットに一點を擧げしのみにて結局七回ゲーム一對八プラスAを以て僅に零敗を免かれたり

下井家田田山村上海

一商		二中				
			打數	安打	三振	得點
6	山	仲	二十二	三	八（藤田）	八
7	藤	内		安	零（藤田）	
5	尾	大		打		
2	有	藤		四		
9-1	森	津		三		
3	越	綾		振		
8	中	西		打		
4	井	山		數		
1-9	深	野		二十八		
	藤					
	塩					
	田					
	田					
	木					
	川					
	田					
	上					

▲同志社對京都師範

試合は同志社軍の先攻に始まり忽ち四球と安打と捕手の逸球に一擊五點を擧げ二回更に一點を加ふ、是に對して京師軍も同回の裏に於て猛打手本阿彌渾身の力を籠めて長棍一憂絶好の本塁打を飛ばし京師の爲に萬丈の氣を吐く、此氣勢を受けたる後續打者は何れもよく攻めよく打ちて忽ち五點を回復せしが第三回の裏より湯淺に代つてプレートに立ちし正投手片田の纖巧なる投球と堅實なる守備は京師軍に殆ど乘ずるの機會を許さず結局十對六を以て同志軍の勝に歸せしが一方京師軍に於ても本阿彌の元氣はチーム全體に活氣を與へ實力以上に奮鬪力戰し同志社軍に苦戰を味はしめしは亦遺れと稱するに足る

同志		京師				
			打數	安打	三振	得點
7	辻	川	三十七	四	十（高原）	十
8	清	本		三	四（高原）	
9-1	片	原		安		
1-6	湯	阿彌		打		
6	川	村		數		
2	中	西		三十七		
5	大	廣				
3	梁	山				
4	上	森				
	水					
	田					
	淺					
	越					
	川					
	口					
	田					

第四日（二十八日）

一二勝者試合一

參加十一校の多數を見たる大會も二十六日第四日は餘す處京都二中、同五中、同志社普通部の三となれり、何れも二戰二勝の雄者にして京二中は抽籤の結果戰はずして三勝者の權を得第四日は之に對抗して最終日の優勝戰に加はるべき京五中對同志社の決戰を行へり午後一時開始

▲京都五中對同志社

京都五中は第一日に坂本中學を屠り第二日に滋賀縣の重鎮滋賀師範を擊破して新進の氣鋭當るべからずと雖も同志は京津球界に名だゝる、强者にして單に技倆よりすれば五中到底其の敵にあらざるも元氣の向ふ處は前日の第三日に於て京都師範が同志軍を危きまでに苦戰せしめたる例もあり、勝算或は覺束なしとするも果して如何の程度までこの勁敵に肉迫するか、之れ尠からざる興味を以て迎へられし點なりしも惜しむべしスローカーブの左投手小林病み第一打者たる二塁手近重立たず不十分なる補欠を加へたるは其の戰鬪力を減削する事夥しきものあり、されど元氣更に衰へず終始よく戰ひ敵の猛襲を二回に四點、三回に一點に喰止めしも第五回に入るや俄仕立の投手奥の肩頓に弱り四本の安打を受けし上に三箇の四球を續け打者實に十一名を迎へ一擊六點を奪はれたり、五中はせめて一點を收めて無慘の零敗を免れんとせしも同志軍の待備堅くたまゝ安打して出でたる者もダブルプレーに遭うて空しく終る、得點の差十一、規約に依り五回にて仕合を終了し五中軍遂に零敗す（球審牛田、塁審高山）

同志		五中				
			打數	安打	三振	得點
6	辻	奥	二十二	五	二（奥）六（奥）	十一
8	清	平		三	四	
1	湯	西		安	球	
2	中	喜		打	打	
4	上	金		數	數	
5	大	松		十八		
3	梁	滿		三	六（湯）	
7	能	岩		四	零（湯）	
9	中	三		三		
	水	井		安		
	淺	池		打		
	川	川		數		
	田	田				
	口	本				
	勢	井				
	村	田				

第五日（二十九日）

▲京都二中對同志社

—最優勝試合—

一百の健兒が連日奮鬪し來れる大會は茲に最後の第五日目を迎へ大會劈頭の光榮ある選手權を決定すべき京都二中對同志社豐通部の優勝戰を行ふ、去る六月兩校が對抗試合をなしたる結果三對三の十三回戰を行ひて勝敗遂に決せず其儘引分となりし以來の顏合せなり、この勝敗如何甚大なる興味は好球家を驅つて三高校庭に集め京都の野球試合に於て未だ嘗て見ざる盛況を呈せり、試合は午後三時同志軍の先攻に始まる▲一回共に一壘を踏む者なし▲二回同志三者凡打し二中一死の後津田四球に出でしも後續のフアウル飛球に併殺さる▲三回同志の梁遊擊を誤らしめて出でしも能勢の二壘飛球に併殺され後續又凡打に止む、二中西川左翼に二壘打を飛ばす、兩軍に始めての安打なり、次いで山田の遊擊ゴロの失に走者忽ち二三壘に依りしが間もなく西川三壘に刺さる、されど野上の三壘ゴロを三壘手暴投したる爲め山田勇躍して還り二中先づ劈頭の一點を擧ぐ▲第四回同志一死の後上田四球に出でしも後續無爲、二中は二死の後津田一壘の失に生き綾木の安打に送られ捕手のパスボールに三壘を占め西川の遊擊を襲へる間に生還、二中は二點となる▲五回同志一死の後大口初めて安打せしもランを爲すに至らず空しく終る、二中も亦凡打凡死▲六回同志能勢安打せしも後援續かず、之に引續へ二中は大塲先づ四球に出で藤田安打し津田の一壘ゴロの失に大塲還り同志軍の失策に乘じて二中軍一擧三點を加ふ▲七回共に無爲▲八回同志清水安打したれども後者皆三振、二中藤田四球に出で津田の犧牲打と西川の安打に三壘に送られしも一擧本壘を衝いて刺さる▲九回同志最後の奮鬪なり、せめても一點を收めて零敗を免れんとし上田二壘ゴロの失に出でしも片田の投手ゴロにフオースアウトされ湯淺遊擊に飛球を呈し片田二壘を盜まんとして捕手の投球に刺され萬事休す、斯くて京都二中は五プラスA對零にて大勝し光榮ある優勝旗を獲たり、時に午後五時半（球審小林、壘審佐久間）

社		打數	安打	三振	四球	盜塁	補殺	刺殺	殘塁	失策	得點
同志	田田	三	一	一	二	二	二	二	四	三	八
	淺川	十	二	二	二	二	二	二	四	五	零
	辻上	七	四	二	二	二	二	二	四	三	八
	片湯	四	一	一	二	二	二	二	四	五	零
	中大	二	二	二	二	二	二	二	四	三	八
	梁能	十	二	二	二	二	二	二	四	五	零
	清水	八	二	二	二	二	二	二	四	三	八
同志	併殺	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
二中	藤塲	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	田田	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	木川	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	田上	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	仲内	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	大藤	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	津綾	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	西山	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
	野	二十九	四	三	四	二	十九	二十七	四	三	八
二中	二壘打	八（片田）四（片田）									
京	併殺	津田、綾木									

▲**概評** 同志軍の陣形を見るに此の大戰に際し五番打者たる首將川越遊擊手は脚氣の爲に出でず湯淺是れに代れり強打者としての湯淺は見るべきも京都第一の名遊擊の補欠としては其任にあらずされば戰はずして已に不安を感ぜしむるものありしが果して同志軍の破綻は彼れの手より始まり第三回の一點は彼の失策其因をなせり一壘の連失も亦遊擊以上の敗因を與へたり二中五點の內四點は全く同志軍の失策によるものにして其失策七の內五までは遊擊と一壘のエラーなり▲是れに對し二中は稍勢ひに乘じ平常は後半より其肩の弱り氣味なる投手藤田が少しも衰へず却つて七回以後得意のアンダースローに敵の打擊を封じ七八兩回に於て五人を三振せしめたり▲攻擊にありては敵の失策の半ばに二本のタイムリーヒットを飛ばす等技倆以上の幸運二中の上に落ち來れるが如し故に技倆の差としては殆んど數ふべきものなく、若し同志社にして名遊擊川越の出でたらんには恐らく湯淺の如き凡失を見ず假令敵に壓迫されたりとするも今少しくスコーアを減じ得たるなるべし▲要之、同志軍の敗は失策の連出によれりと云ふべく殊に第六回の一擧三點は氣の毒なる致命傷となりたり

九州野球大會

九州の代表者を選拔すべく本年は特に福岡拔天倶樂部主催本社福岡通信部後援の下に七月三十一日、八月一日の兩日間福岡東公園福岡商業學校庭に於て擧行せり、參加校は匆匆の際にも係らず修猷館、豐國、嘉穗、八女、柳川、傳習館、長崎東山の各中學及び福岡師範、久留米商業の八校を算し素傳二郎氏の始球にて決勝の火蓋は切られたり

試合の結果

第一日（七月三十一日）午前十一時試合開始

▲**八女中學對修猷館中學** 八女先攻し第一打者今里劈頭先づ本壘打を飛ばして敵膽を奪ひしも修猷又よく應戰し烈々たる炎天下に雙方鎬を削り猛烈なゲームを見せ結局八對五にて修猷館の勝利に歸したり

修猷館中學（三）豐國中學（零）

八女中學（五）修猷館中學（三）

豐國中學（四A）

豐國中學（八）

福岡師範（二）豐國中學（四A）

東山中學（二）

嘉穗中學（二）東山中學（二）

久留米商業（一）

傳習館中學（一）久留米商業（一）

久留米商業（十二）

久留米商業（九）

▲長崎東山對嘉穗中學　午後二時半より試合開始、東山第一回第四回に四點を奪ひ氣勢大に昂りしも嘉穗風せず最後まで善戰し結局十一對二を以て東山の勝に歸したり

▲柳川傳習對久留米商業　第一回に各一點の得點ありしのみにて以後九回に至るまで全然ピッチャー戰となり三振を以て順送りとなりぬたるも十回に至り久留米商業の城崎三塁に安打して藤吉入塁し一對二プラスAを以て久留米商業の勝に歸したり

第二日（八月一日）

▲豐國中學對福岡師範　福岡師範は最終に至り僅に二點を得しのみなるも豐國は第二、四、五、七、八回に得點あり遂に八對二を以て豐國中學の勝利に歸す

之にて一勝者は修猷館、東山、久留米商業、豐國の四校となり午前十一時より一勝者試合に移り抽籤の結果東山對久留米商業、修猷館對豐國と決定す

▲長崎東山對久留米商業　は始め東山の方優勢にて劈頭ホームランを飛ばし一擧二點を得たるも以來振はず七回に至り久留米方は逆計十二點を得差引十點の勝越となりしかば規約に依り久留米商業を勝者となしてゲームセットを宣し次で

▲豐國中學對修猷館　の試合を開く兩者力量相伯仲し七回に至るまで雙方得點なし八回に至り修猷一點を得て氣勢大に揚り九回又二點を得て滿場修猷方の勝利を信ぜざる者なかりしが九回の裏に至り豐國方大勢を挽回し三點を得次で二死の瀬戸際に至り田邊ヒットを飛ばしてランナーたりし田邊生還遂に四プラスA對三を以て豐國の勝利に歸したり

▲久留米商業對豐國中學　午後五時半開始、久留米商業八豐國一點を得たるが何分豐國は一日に三回も試合をなせること、て選手皆疲勞し到底試合を續行する能はず遂に棄權せるを以て久留米商業を優勝者とし本社寄贈の銀盃を授與し豐國には二勝者たる名譽を彰表する爲福日寄贈の銀盃を授與し七時閉會したり

東北野球大會

本社の全國優勝野球大會のため東北地方の代表チームを選拔すべく秋田縣立秋田中學主催となり大正四年七月二十七、二十八兩日間秋田縣大曲町に於て仙北新報社員立合の上臨時東北野球大會を開催せしが何分時日に餘裕なかりしため參加校意外に尠なく秋田中學、横手中學、秋田農業の三校にて試合の結果は左の如く秋田中學の大勝に歸したり

横手中學對秋田中學（勝）　十八對五

秋田農業對秋田中學（勝）　十三對零

第一回 兵庫縣野球大會

全國優勝野球大會に對し兵庫縣の代表者を選拔すべき大會にして本社神戸通信部主催となり毎年一回擧行する事とし第一回大會は八月三日より三日間の豫定を以て本年新に完成せる神戸市外關西學院新校庭に於て擧行せしが第一日以來烈風凄じく或は雨に妨げられて順延し、同七日最後の優勝戰を終了するに至れり、參加するもの神戸一中、同二中、伊丹中學、御影、姫路兩師範、神戸商業、關西學院中學部の七校なり、數に於てこそ誇るに足らざれ、其の顏觸れは何れも近畿斯界の一粒擇りにして內容頗る充實せるを見る、隨つて各試合一として緊張せるゲームならざるなく殊に最後の優勝戰の如きは稀に見るの壯觀を呈せり

第一日（八月三日）

八月三日午前九時半鹿島神戸市長の美事なる始球式を終り試合は直に開始されたり、この日夜來の烈風猶歇まずグラウンドの熱砂を吹いて尠からず選手をして苦しめたるも之が爲意氣却つて昂り漲々たる砂煙の裡に壯烈なる試合を行ふ、熱心なる觀覽者はまた同じく砂煙を浴びて第一回の試合未だ半ばに達せざるに早くも廣大なる兩側のスタンドを埋め盛なる而も秩序的なる應援團は校歌應援歌を高唱し誠に堂々たる模範的の大會を現出せり

▲神戸商業對關西學院　關西先攻、關西軍は深く期する處あり、殊更に第二投手熊澤を立たしめしかば神商軍は心中憤然として之に對せり、一回は雙方共に得ざりしも關西は二回に二點を取り三回には十三人の打者出で神商

試合の結果

關西學院（二十九）　神戸商業（八）

四學院（三）　關西學院（二）

神戸一中（十四A）　伊丹中學（六）

神戸一中（二）

御影師範（十一A）　姫路師範（三）

御影師範（零）

神戸二中（抽籤勝）　神戸二中（六）

神戸二中（三A）

瀧川投手の四箇の四球と二箇の死球と更に味方の四本の安打に一擧八點を加へ大勢已に決したり、神商は漸く三回に四球の押出に一點を得、四回又一點を加へ七回好打して三點を擧げしも關西軍の猛襲は回一回より烈しく味方の安打と敵の連失に每回殆んど得點せざるなく意氣敵を呑めり、斯くて神商軍は八回に奮戰三點を加へ例の試合上手の面影を偲ばしむるものありしが八回の中途關西軍が第一投手類廣を立つるや忽ち其の打擊を封ぜられ結局二十九對八にて關西學院の大勝に歸せり▲技倆の上よりして關西は已に多大の強味ある上自校のグラウンドといふ事に尠からず自信を與へたりと見ゆ而もこは一面神商の驚くべき不振を語るものにして唯スピードのみの熊澤の投球に聊か惱まされ氣

味なりしは歷史ある神商として正に奮起すべきなり、されど流石に何處となく落着きたる試合振りは神商の猶未だ全く衰へたるにあらざるを證するに足るものあり敗因は內野手の不注意に存せるもの、如し（球審岡本、壘審高井）

商神

2	柳
8	喜多
6	米永
3	平井
1-9	瀧川
5	西澤
4	井實
9-1	坪井
7	生田

打數	安打	三振	四死球	得點
三十八	七	十五（熊）	十（熊）	八

關西

3	松田
5	內海
2	渡邊
7	近藤
1-8	熊澤
9	菅井
6	竹中
8	臼井
4	中川

打數	安打	三振	四死球	得點
四十九	十九	零	十三（瀧）	二十九

▲御影師範對姫路師範

姫路先攻して四回に至るまでは三壘を踏みしものなかりしが四回において黑田の二壘打と敵の連失に二點を得、六回一死滿壘の好機を迎へしも後續三振と飛球に果て、僅に一點を加へしのみ、七回再び二死滿壘となりしも逆捕なく得點に出らず八、九回強襲して大に氣勢を見せしも遂に及ばず、之に反し御影軍は劈頭第一打者三壘打を飛ばして出で敵の狼狽せるに乘じ忽ち一擧四點を占め聊か機先を制したる觀あり、而して二回に二點、三回に二點、六回に一點、七回に一點を加へて結局十一プラスA對三にて御影師範の大勝となる▲姫路の投手仲井はアウトドロップを以て屢次敵を弄したれども其の癖のなき速球は又よく敵の好打する處となり前半において已に大勢を定めしめたり、若し後半の如く締り居たらんには今少しくスコーアを減ぜしなるべく攻擊においても更に味方の機を見る事なく徒らに打たんとするの戰略は惜しむべき滿壘の如き好機を空しく逸し去らしめたり、されど御影とても敢て優れたりといふに非ず唯敵に比し稍試合馴れたると好打よくタイムリーなりし結果にして雙方共に個人としては相當に技倆を認め得るもチームとして最も肝要なるチームウオークに欠陷あり、共に研究を要すべきもの、第一なるべし（球審小寺、壘審岡本）

御影

5	陸井
6	福田
7	中尾
3	鈴木
2	鴫川
9	石田
8	岩崎
4	樋口
1	上月

打數	安打	三振	四死球	得點
三十九	八	九（仲井）	六（仲井）	十一プラスA

姫路

9	名尾
6	牛尾
3	黑田
7	莊所
5	中尾
4	金井
8	國井
2	增田
1	仲井

打數	安打	三振	四死球	得點
三十四	四	六（上月）	五（上月）	三

▲神戸一中對伊丹中學

初日第三回目の試合にして當日第一の好ゲームとして迎へらる、一中は稍敵を侮り第二投手井上を出す、伊丹軍先攻忽ち四箇の連續せる四球に先づ一點を得、猶無死の時宇野絶好の二壘打を飛ばして二點を加へ伊丹は思ひ掛けざる劈頭の三點に意氣大に昂りしが一中もさる者亦忽ち四點を擧げ二回共に得ず、されど一中軍は形勢の非なるを見第一投手久保田を立たしめ堅實なる守りを以て備へ久保田よく敵の打擊を封じて四五六回の如きは美事に三人宛を凡打と三振に倒し味方は四回に二點を加へ六對三にて七回戰に入るや伊丹軍の廣瀨先づ左翼安打に藤井四球に三崎又安打に無死滿壘となり田中のバ

ント功を奏して廣瀨生還、筏の投手ゴロにダブルプレーを喫せしも家原のゴロを二壘ハンブルし更に本壘に投ずるや捕手又失し其の間に伊丹軍は忽ち二點を收め後續振はずして止みしも茲に六對六の同點となり實に興味ある試合を現出せり、此に於て一中軍奮起し鈴木二壘の失に出で一死となりしが梶二壘打、續く阪野三壘打を飛ばし久保田の安打に生還して一擧又三點を占め一中軍は依然として三點を先んじ八回戰となる、伊丹軍は元氣に委せて突破せんとせしも空しく三者斃れ一中軍又勢に乘じて猛襲し打擊大に振ひ又々一擧五點を加へて大勢定まる、伊丹軍は最後の九回に好打順を以て勇奮を期せしも一中軍の守備牢として拔く能はず結局十四A對六にて神戸一中の大勝となれり▲されど敵陣に來つて殆んど孤軍奮鬪の伊丹軍が斯くの如き善戰をなしたるは賞するに餘りあり、之實に同チームが平生不撓の練習に依らずんばあらず、投手宇野のスピードとコントロールは一中軍をして一時危殆に陷らしめしが七回以後頓に其の肩弱りしに乘じ待ち設けたる一中の猛打に遭ひ所謂土俵際においてこの大敗を招きしは惜しむべしと雖も其攻守共に優に本大會一流の雄者たるに恥ぢざるものあり（球審三木、壘審河合）

伊丹

7	三崎
2	田中
3	筏原
4	家野
1	宇野
9	羽太
5	山添
8	廣瀨
6	藤井

打數	安打	三振	四死球	得點
三十	四	九（井、久）	九（井、久）	六

神一中

2-8	鈴木
6	平川
3	梶
5	坂野
1-2	井上
8-1	久保田
4	別所
9	橋本
7	多木

打數	安打	三振	四死球	得點
三十六	八	十（宇）	九（宇）	十四

第二日（六日）

――勝者試合――

風雨のため順延したる第二日目は六日午前九時半より開始せり、白雲靜かに動いて暑からず而も微風砂塵を揚げず三伏の候には珍らしき靜穩なる野球日和なり

▲神戸二中對御影師範

四日三回の試合を了し九對零にて立別れたる兩軍は殆ど段違ひの感ありしもこの試合に於ては御影軍として十分なる技倆を發揮せり、二中先攻、先の日に引換へて一二回共に二壘を踏まず御影は却つて走者三壘に來るなど形勢聊か妙なりしも三回に於て二中一死の後敵の失策と田中の左翼中堅間を拔ける本壘打などに一擧五點を收めて意氣大に昂る、以後八回に至るまで雙方多く凡打に終り三壘を踏みたるものなし、八回に於て二中は漸く敵の失に一點を加へ御影は走者三壘に據りしも空しく好機を逸し最後の九回となる、二中先づ二壘打を飛ばして出で三壘に送られしも後續三振に果て御影大に打ち最後の奮鬪を見んとせしが惜しくもダブルプレーを喫し結局六對零にて神戸二中の勝となりたり▲この日の御影師範は中々よく引締り始終緊張したるゲームを見せたるが就中投手上月の奮戰最も目覺しく三振七を取りたるは味方の殊勳たり、二中は第二投手を以つてこの侮るべからざる敵をして遂に零敗に退かしめし其の鋭鋒旺なりといふべし（球審菊名、壘審井上）

中二神		打数	安打	三振	四球	得点
6	村	三十五	四	七(上月)	三(上月)	六
9	原					
7	島					
1	中					
2	本					
5	村					
8	藏					
4	本					
3	田					

彰陸御		打数	安打	三振	四球	得点
5	井	二十三	一	四(田中)	五(田中)	零
6	田					
7	尾					
3	木					
2	川					
9	田					
8	崎					
4	口					
1	月					

▲神戸一中對關西學院

當大會中第一の好試合なり、風死し午下の日烈々たれども觀覽者續々押掛け詰掛け夥しき人出を見たり、殊に兩軍の應援團が何れも隊伍厳然として繰込むや場内忽ち殺氣漲り渡り觀衆をして早くも血を湧かしむ、一中に取りては久しく敗れたる事なき關西のために今春三對一の敗辱を蒙りたれば即ち此試合は正に其復讐戰なり、されば一中は全力を擧げて來れるに對し關西は試驗的に第二投手熊澤を立たしめしが果して危機は彼の四球連發に起れり、試合は關西先攻、一二回は雙方凡打し三回戰に入るや關西の内海四球に出で竹中の犧牲球に送られ一中の打者のバントに備へんとして三塁手がウツカリと前進せる間に素早く三塁を盗み次で二死となりしも松田の二塁ゴロの失に生還關西先づ一點を擧ぐ、一中代りて多木四球に出で石本の安打に送られしが空しく二塁に刺され好機或は空しからんかと思はれしに關西の投手熊澤二箇の四球を續け一死滿塁となる、關西に取りては實に危機なり、茲に於て第一投手賴廣代りしも餘りに焦りたる結果却つて四球を與へ押出しのために惜しむべき一點を取られ雙方同點となる、此時賴廣走者を刺さんとして二塁に投球するや鈴木素早く生還、一中一點を先んじ意氣大に昂る、四、五回共に無爲、六回關西松田先づ安打したるに續く熊澤中堅越の見事なる三塁打を飛ばして松田悠々生還、渡邊のヒット、エンドラン功を奏して熊澤又生還、今度は關西一點を勝越したり、一中走者二塁に凡死するなど形勢甚だ振はず七回となる、滿場全く醉へるが如し、八回に入るや共に第一打者よりの好打順なりしも關西は三者凡打し一中は又空しく最後の九回又共に得ず必勝を期したる神戸一中は三對二僅に一點の差を以て敗れたり▲兩者の技倆殆ど差等なし、守備に又攻擊に何れも論理的の戰法を用ひ中學チームの試合としては稀に見る大試合にして殊に外野の守備堅實、愛次ファインプレーを演ぜり、唯共に走者二塁にありて投手の投球のために刺さるゝもの多かりしは因習的に二塁は危險視と信ぜるの結果なるべく走者として共に研究を要すべし、第六回に於ける關西軍の二箇の安打連續が主たる勝因たりしが如し

關		打数	安打	三振	四死球	失策	得点
3	西	二十八	三	四(久保田)	三(久保田)	五	三
1	田						
2	澤						
7	邊						
9	藤						
8	井						
5	廣						
6	海						
4	中						
	川						

神一中		打数	安打	三振	四球	失策	得点
8	木	三十	二	三(賴廣)	四(賴廣)	四	二
6	川						
3	野						
5	上						
2	田						
1	保						
4	所						
9	木						
7	本						

第三日（七日）—優勝試合—

最後の優勝試合なる神戸二中對關西學院戦は七日午後三時二十分より開始せり

▲關西學院對神戸二中

關西先攻▲一回雙方三者凡打▲二回關西二死の後賴廣三塁の失に生き菅井四球に出で竹中ファウル飛球を一塁に得られたれども賴廣素早く三塁を盗み好機至れりと思ふ間もあらず内海一塁に凡打して止む二中猶三者凡打一塁を踏まず▲三回關西一死の後松田三塁の失に出で熊澤右翼に安打すればバウンド横にそれ右翼手狼狽して二塁に投ぜしも二塁手又逸し球は遠く觀覽席に入り松田生還、熊澤は忽ち三塁に據り次で渡邊の犧牲球に還り後續振はざりしも關西は先づ二點を占む、二中菅倉三塁を襲ひ一塁への暴投に依つて二塁を占め岸本の犧牲球に送られ好機を迎へしも村田二塁に飛球を打上げ田中投手にゴロを呈して空しく終る▲四回關西二死後走者二塁に據りしも無爲▲五、六回共に空しく▲七回戰に入る二中藤原一塁を誤らしめて出で兒島の遊擊ゴロにフォースアウトされしも今村中堅に安打し次いで賴廣の暴球に走者忽ち三、二塁に據る、而も一死、絶好のチャンスなり、されど橋本三振し上村三塁にゴロを送つて好機空しく去る▲八回關西三、四、五の強打者悉く今村のために捻られ二中又依然として振はず最後の▲九回となる、關西一死走者三塁に來りしも後續飛球に倒れ二中代つて最後の攻擊に立つ、打順は第一打者よりなり、果して田中左翼に二塁打を飛ばし藤原の犧牲球に共に生きしに無謀にも田中一擧本塁を衝いて刺さる、されど兒島二塁間に緩ゴロを呈して生き今村再び中堅に絶好のタイムリーヒットを飛ばし藤原、兒島一擧に生還、忽ち同點となりしかば滿場熱狂す、橋本遊擊ゴロに死せしも一塁球を持ちたる儘如何にしけん今村の本塁に疾走するを知らず漸く驚いて本塁に投じたる間一髪、今村辷り込んで生還、一擧三點を得即ち一點の勝越しとなり三A對二のスコーアを以て神戸二中の勝利に歸し優勝旗は場の中央に於て本社神戸通信部長遠藤麟太郎氏の手より神戸二中選手に授與され盛況を極めし兵庫縣野球大會は之にて目出度終了せり

二中		打数	安打	盗塁	三振	四球	失策	得点
6	中	三十一	四	一	一(賴廣)	零	九	三プラスA
9	原							
7	島							
1	村							
2	本							
5	村							
8	倉							
4	本							
3	田							

關		打数	安打	盗塁	三振	四球	失策	得点
3	西	三十三	二	二	六(今村)	一(今村)	五	二
8	田							
2	澤							
7	邊							
1	藤							
9	廣							
6	井							
5	中							
4	海							
	川							

▲概評

關西最初より二點を先んじ二中頗る苦戰に陥りたるが九回目に於ける總攻擊見事に功を奏し忽ちにして勝敗地を替ふるに至れり、二中に取つては拾物の感あれど

關西の遺憾察するに餘りあり、攻撃に於ては二中安打四に對し關西二、此日投手の出來に幾分の差異ありしを認む、然れども此差異は關西方が守備に於て二中より失策の少かりしことによりて相殺し得べく、兩者の眞價未だ遽に判ずべからざるものあり

各校試合成績表

校名	試合數	守備率	打撃率
神戸二中	二	、九一〇	、一一八
關西學院	三	、九二〇	、二一九
神戸一中	二	、九〇〇	、一六九
御影師範	二	、八九〇	、一二七
神戸商業	一	、七五〇	、二二〇
伊丹中學	一	、八八〇	、一三三
姫路師範	一	、七五〇	、一五一

試合の結果

第一日（八月六日）

前日の降雨にて砂塵も立たず薄曇の好野球日和なり運動場の周圍は炎暑にも拘はらず萬餘の觀客人垣を造り空前の壯觀を呈したるが嚮て記念の撮影をなし本社廣島通信部長有田代議士の始球式を以て試合は開始されたり

▲廣島中學對修道中學　廣中先攻劈頭一點を占め第二回に至り田部四球倉本遊撃を衝き菅の巧なるバンドに田部生還小田又四球フールベースとなり修中應援隊盛に聲援せるも廣中軍廣滕の二塁ゴロにて倉本、菅響を斃べて生還、林のゴロにて小田、廣滕相前後して本塁に入り一擧に

廣島中學（十三）修道中學（一）
福山中學（九）明道中學（二）
廣島商業（十）廣島商業（二）
廣島商業（二）廣島商業（五）

本社廣島通信部主催の第一回山陽野球大會を八月六日より三日間廣島高等師範學校庭に於て擧行す、大會前より山陽地方の人氣湧くが如く三日間は觀覽者のために市中電車割引をなし或は日本赤十字社廣島支部より救護班を出すなど各方面の感興を刺戟し大成功を以て終了せり、集まるもの廣島縣立廣島中學、同商業、福山中學、明道中學、修道中學、岡山縣關西中學の六校にして正に山陽の粋を蒐む

第一回 山陽野球大會

して六點を占む修中振はず枕を並べて凡死す廣中は第三四、五回に各一點を占め計十點を得たるに反し修中は過失續出し攻撃振はず僅かに第五回に至り漸く一點を占め茲に十對一にて規約に依りゲームセットとなる

▲福山中學對明道中學　福中先攻敵投手四球を續出し大岡、飯持生還一死後寺田の二塁猛ゴロに吉安生還富張遊撃を殿しく突き斜森四球に出で渡邊のゴロに富張、斜森生還し一擧五點を得、明中二點を占めたるも福中第二回に一點、第三回に一點、第五回に一點、第七回に一點を得て合計九點となる、興味乘らざるゲームにして兩軍の攻撃振はず結局九對二にて明中軍敗られたり

▲岡山關西對廣島商業　關西先攻平凡にて代る商業佐伯、田川、柚花相踵いで四球に出で小島の輕妙なるバンドにて佐伯生還し田川虚に乘ぜんとして本塁に刺されしも石本の三塁ゴロミスに生き柚花、小島生還して一擧三點を得、關西二死後木阪四球に出で菅波安打して一點更にチャンスを得て一點を加へ氣勢昂り滿場拍手起る、第三回に商業は敵のエラーに乘じ打撃大に奮ひ三點を占め更に第三回に一點、第四回に三點、合計十點を得たるに反し關中投手のスローボールは四球多く殊に打撃振はず大勢如何とも爲す能はず終に十對二にて商業軍の勝利に歸したるが技倆に於て已に大なる差ありたるを感ぜしめたり

第二日（七日）

—勝者試合—

前日の試合にて廣島中學、同商業、福山中學の三校一勝者となりたるが抽籤の結果廣島中學不戦勝者となりたり第二日目は七日午後四十分より開會

▲廣島商業對福山中學　商業先攻第一回共に無爲第二回の裏にて升石一擧三塁を奪ふ桑田強ゴロを遊撃に送り斜森遊撃の頭上に安打し升石、桑田生還二點を得與大いに乘りしが第四回に商業虚を衝いて石本を生還せしめ二死後又一點を得て茲に同點となり滿場騒然たり第六回に商業一點を得第八回に入り商業は福中の過失と投手の惡球により滿塁となり此回更に二點を得既に大勢定まれり此回の裏に福中機會ありしも商業の守備堅くして拔くこと能はず遂に五對二にて廣島商業の勝に歸したり

福山中學		廣島商業
5	岡	4
6	大	8
2	飯	6
3	吉	2
1	升	1
4	森	3
9	斜	5
8	富	9
7	渡	7
打安	三振	打安
四死球		三振
得點	五	得點
二	十五	五
三十一		三十八

福山中學		廣島商業
5	持	4
6	安	8
2	石	6
3	田	2
1	森	1
4	張	3
9	遊	5
8	片	9
7	間	7

第三日（八日）　―最優勝試合―

▲廣島中學對廣島商業　優勝試合のこととて午前八時頃より觀衆詰めかけ兩校の應援團又數箇所に陣取り猛烈なる應援を浴せかけ壯觀を極めたり、試合は午後二時卅五分拍手聲裡に球審慶應舊選手澤原、壘審關西大學石村兩氏の審判にて開始せり▲廣島商業先攻主將佐伯安打し一死後袖花死球に出で小島ゴロ石本ヒットして滿壘となり世長又死球を受けて一點を得第二、第三兩回無爲第四回に廣中好打續きて一點を得て同點となり應援の聲雷の如し第五、第六回平凡第七回廣中機會を得しも商業喰ひ止め第八回に商業三壘まで踏みしが廣中喰止め八回に廣中二點を得運動場破れん許りの状況を呈したるが最後の回に於て商業奮戰せしも無爲三對一にて廣島中學は名譽の優勝を得たり

廣島中學

4	小田
6	廣藤
8	村田
3	中村
9	增岡
2	田部
5	倉本
7	菅
1	岸

打數	安打	三振	四死球	犠牲打	盜壘	過失	得點
二十五	七	九	一	一	二	三	三

廣島商業

4	佐伯
8	田川
6	袖花
2	小島
1	石本
3	世長
5	阪本
9	天野
7	菅

打數	安打	三振	四死球	犠牲打	盜壘	過失	得點
十八	五	零	十	二	二	二	一

▲試合終つて午後六時半より場の中央に優勝選手整列し優勝旗授與式を擧行し本社廣島通信部主任有田代議士本社寄贈の優勝旗を授與し次で本社記者岡野告天子選手に對し一場の祝辭を述べ山陽野球大會優勝選手萬歳を唱へ一同之に和し次で選手の發聲にて大阪朝日新聞社の萬歳を三唱し場の内外又一齊に之に和し目出度第一回大會は終了せり、夫より記念撮影を爲し廣島中學は優勝旗を先頭に市中を練歩き本社通信部前に來り萬歳を唱へたり

第一回四國野球大會

第一回四國野球大會は高松市體育會主催、本社高松通信部後援の下に八月六日より三日間高松市商業學校庭に於て擧行されたり、參加校は高松中學、香川商業、大川中學、三豐中學、丸龜中學、德島商業、德島師範、撫養中學の八校にして德島の三校は之より先き德島縣野球大會を開き其優勝校として特に送られたるものなるが試合の結果何れも第一次豫選に敗れたるは惜しむべし

試合の結果

- 高松中學（十二）對 德島商業（一）→ 高松中學
- 大川中學（十）對 三豐中學（六）→ 大川中學
- 丸龜中學（五）對 德島師範（三）→ 丸龜中學
- 香川商業（十二）對 撫養中學（一）→ 香川商業
- 高松中學（六）對 大川中學（二）→ 高松中學
- 丸龜中學（二）對 香川商業（八）→ 香川商業
- 高松中學（九）對 香川商業（零）

第一日（八月六日）

六日午前十時會長田中代議士の始球式あり直に試合に移る

▲高松中學對德島商業　高中先攻し高橋、木村共に四球に生き渡邊の好打に高橋本壘に入り投手の暴球に大西續いて生還、德島商業代りて攻む、岡島四球に生き投手の暴球にて本壘に入る、此の時本社寄贈の優勝旗來り金色燦然たり、二回高中渡邊の二壘打に高橋入り大西の三壘打に木村、渡邊續いて入り投手の失策に大西もまた生還し高中四點を得意氣大に昂る德商凡死、三回高中渡邊三壘打を打ち高橋入る德商凡死、四回には兩軍とも得る所なく第五回は高橋ヒットし大西の三壘打に一擧二點を得高中軍大西投手に代り高橋をプレートに立たしめ木村新に三壘を守る德商振はず六回兩軍無爲、七回高橋三壘に加納一壘に據る中村ヒットに出で一點を得、岸田又ヒットして更に一點を加ふ德商軍攻め蔭山能く打ちしも渡邊の爲に取られ後援無くして德商倒る高中は始終攻擊防禦共に振ひしが德商の遠征軍振はず十二對一にて高中軍の大勝利に歸したり

德島商業

2	岡島
8	小山
9	大内
6	蔭山
4	近藤
3	伊勢川
5	赤澤
7	藤倉
1	山本

打數	安打	三振	四死球	犠牲打	盜壘	失策	殘壘	得點
十八	零	十二（大西）	四（大西）	零	零	五	三	一

高松中學

5	高橋（仁）
7	木村
6	岩瀬
1	大西
2	加納
3	中村
4	岸田
9	懸川
8	高橋（直）

打數	安打	三振	四死球	犠牲打	盜壘	失策	殘壘	得點
二十八	五	十二（山本）	十一（山本）	一	七	二	十一	十二

▲丸龜中學對德島師範

兩軍善く戰ひ丸中の應援歌頗る活氣を副へたり結局五對三にて丸中の勝利（壘審細溪、球審鈴木）

德島師範	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
宅	1	0	0	0	0	0	0
川	8	2	0	0	0	0	0
本	7	1	0	0	0	0	0
野	5	1	0	0	0	0	0
野	3	0	0	0	0	0	0
本	2	0	0	0	0	0	0
山	4	0	0	0	0	0	0
木々	9	0	0	0	0	0	0
三	6	0	0	0	0	0	0
岸							
後							
橋							
朝							
佐							
藤							
中							
佐							
計	45	4	3	0	0	0	0

ダブルプレー 零
七（結城）
五（結城）
零

丸龜中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
岡	2	0	0	0	0	0	0
原	7	0	0	0	0	0	0
谷	5	1	0	0	0	0	0
城	1	0	0	0	0	0	0
屋	8	0	0	0	0	0	0
田	3	0	0	0	0	0	0
橋	4	0	0	0	0	0	0
藤	9	0	0	0	0	0	0
野	6	0	0	0	0	0	0
計	45	1	0	0	0	0	0

ダブルプレー 一
九（三宅）
零
二（三宅）
五プラスA

▲大川中學對三豐中學

大中先攻し雙方同點にて進みしが七回目に大中一舉五點を得て形勢定まり十對六にて大川中學の勝利に歸せり（壘審植松、球審角田）

三豐中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
宅	5	0	0	0	0	0	0
達	3	0	0	0	0	0	0
崎	6	2	0	0	0	0	0
田	2	0	0	0	0	0	0
山	4	1	0	0	0	0	0
瀨	7	0	0	0	0	0	0
村	9	0	0	0	0	0	0
尾	8	0	0	0	0	0	0
村							
計	45	3	6	0	0	0	0

一（小西）
零（小西）
十一（小西）

大川中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
木	4	0	0	0	0	0	0
田	6	0	0	0	0	0	0
橋	2	0	0	0	0	0	0
西	1	0	0	0	0	0	0
好	8	0	0	0	0	0	0
村	5	0	0	0	0	0	0
阪	9	0	0	0	0	0	0
澤	3	0	0	0	0	0	0
筒	7	0	0	0	0	0	0
井							
計	45	0	10	0	0	0	0

五（伊瀨）
零（伊瀨）
八（伊瀨）
零

▲撫養中學對香川商業

第二日（七日）

撫養中學先攻、商業最初より敵を壓し遂に十二對一にて香川商業の大勝利となる（壘審中山、球審角田）

香川商業	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
田	7	0	0	0	0	0	0
田	2	0	0	0	0	0	0
鄉	5	0	0	0	0	0	0
本	3	0	0	0	0	0	0
本	9	0	0	0	0	0	0
川	8	0	0	0	0	0	0
多	4	0	0	0	0	0	0
崎	6	0	0	0	0	0	0
居	1	0	0	0	0	0	0
鳥							
計	45	0	12	0	0	0	0

七（山崎）
零
三（山崎）
四（鳥居）
零
二（鳥居）

撫養中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
野	6	0	0	0	0	0	0
永	4	0	0	0	0	0	0
山	8	0	0	0	0	0	0
崎	1	0	0	0	0	0	0
家	3	0	0	0	0	0	0
來	9	0	0	0	0	0	0
谷	5	0	0	0	0	0	0
阪	2	0	0	0	0	0	0
計	45	0	1	0	0	0	0

▲高松中學對大川中學

大中の先攻にて始まり一、二、三回とも兩軍無爲高中四回の裏に一點五回に三點を加へ高中軍の應援振ふ六回は兩軍得る所なく七回に於て雙方二點宛を得結局六對二にて高中の勝利となれり（壘審樂地、一球審龜多）

高松中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
橋	5	0	0	0	0	0	0
村	7	0	0	0	0	0	0
邊	6	1	0	0	0	0	0
西	2	0	0	0	0	0	0
納	3	0	0	0	0	0	0
村	4	0	0	0	0	0	0
田	9	0	0	0	0	0	0
川	8	0	0	0	0	0	0
橋							
計	45	1	6	0	0	0	0

九（高橋大西）
零（小西）
六（小西）

大川中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
木	4	0	0	0	0	0	0
島	3	0	0	0	0	0	0
橋	2	0	0	0	0	0	0
西	1	0	0	0	0	0	0
好	8	0	0	0	0	0	0
村	5	0	0	0	0	0	0
田	6	0	0	0	0	0	0
澤	9	0	0	0	0	0	0
井	7	0	0	0	0	0	0
計	45	0	2	0	0	0	0

一（大西）
零
五（大西）

▲丸龜中學對香川商業

兩軍の應援盛なり、一、二回兩軍ともに無爲、三回に於て丸中二點を得たるに對し商業は五回に一點、六回に一點、七回に二點、八、九兩回に四點を得て結局八對二にて商業の大捷に歸せり（壘審細溪、球審鈴木）

香川商業	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
田	7	0	0	0	0	0	0
田	2	0	0	0	0	0	0
鄉	5	0	0	0	0	0	0
本	3	0	0	0	0	0	0
本	8	0	0	0	0	0	0
川	4	0	0	0	0	0	0
多	1	0	0	0	0	0	0
崎	6	0	0	0	0	0	0
脇	9	0	0	0	0	0	0
計	45	0	8	0	0	0	0

十三（結城）
一（結城）
五（結城）
零

丸龜中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
岡	2	0	0	0	0	0	0
原	7	0	0	0	0	0	0
谷	5	1	0	0	0	0	0
城	1	0	0	0	0	0	0
屋	8	0	0	0	0	0	0
田	3	0	0	0	0	0	0
橋	4	0	0	0	0	0	0
藤	9	0	0	0	0	0	0
野	6	0	0	0	0	0	0
計	45	1	2	0	0	0	0

五（本多）
零
三（本多）
六

▲高松中學對香川商業

第三日（八日）—最優勝試合—

八日午後二時開始第一回商業先攻し一點を得高中代りて一舉四點を得二回三回兩軍無爲四回高中一點を得兩軍の聲援凄じく五回に至り商業三點を得て漸く大勢を挽回せり高中代り二點を得六回高中一點を加へ商業三點を獲得し七回無爲に終り八回に至り商業二點を得高中一點を獲得し九回商業一點を加へ同點となる十回商業二點を得て士氣大いに振ひしが高中また二點を得て同點となり高中軍は走者三壘に據り而もノーアウトにして打者は四番なり、此の時商業は投手疲勞して試合を續行する能はずとの理由を以て棄權を申込みしかば審判（龜多）は九對零にて高中の勝利を宣言し本社主催の全國中等學校優勝野球大會には高中を出場せしむることに決定せり▲續いて優勝旗授與式を行ひ會長田中代議士は本社寄贈の優勝旗とメダルを高中の投手（大西）に授與し式を終り高中選手の萬歲を三唱す高中の應援團三百名は選手を先頭に優勝旗を翳し應援歌を歌ひつゝ商業校庭を出で意氣揚々として六番町より丸龜町に練歩き更に紺屋町に曲り本社高松通信部前にて朝日新聞萬歲を唱へそれより自校に歸り解散したり

高松中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
橋	5	0	0	0	0	0	0
村	7	0	0	0	0	0	0
邊	6	1	0	0	0	0	0
西	2	0	0	0	0	0	0
納	3	0	0	0	0	0	0
村	4	0	0	0	0	0	0
田	8	1	0	0	0	0	0
川	6	0	0	0	0	0	0
堅	9	0	0	0	0	0	0
計	45	4	10	0	0	0	0

二（大西）
零
一（大西）
十二（大西）

香川商業	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
田	7	0	0	0	0	0	0
田	2	0	0	0	0	0	0
鄉	5	0	0	0	0	0	0
本	3	0	0	0	0	0	0
本	9	0	0	0	0	0	0
川	8	0	0	0	0	0	0
田	4	0	0	0	0	0	0
崎	6	0	0	0	0	0	0
脇	1	0	0	0	0	0	0
計	45	0	9	0	0	0	0

四十四
五
零
二（本田）
一（本田）

高松中學	打	安	得點	犧牲打	四球	死球	三振
橋	5	0	0	0	0	0	0
村	7	0	0	0	0	0	0
邊	6	1	0	0	0	0	0
西	2	0	0	0	0	0	0
納	3	0	0	0	0	0	0
村	4	0	0	0	0	0	0
田	9	0	0	0	0	0	0
川	8	0	0	0	0	0	0
堅	6	0	0	0	0	0	0
計	45	1	11	0	0	0	0

四十四
十一

第三回 關西野球大會

例年大阪に於て開催し來れる關西學生聯合野球大會は八月七日より豐中グラウンドに於て其第三回大會を開けるが同

會にては特に本社の全國大會に對し大阪、奈良、和歌山の一府二縣の代表チームを選拔すべく試合組合はせを別ちてこの選選に加はり得るものと然らざるものとの二種とし前後六日間日々盛況を以て終了し和歌山中學其優勝者となれり

試合の結果

市立工業(十二A)
八尾中學(五)
市立工業(零)

市岡中學(四A)
耐久中學(二)
市岡中學(九)

明星商業(十)
高野山中學(零)
明星商業(一)

和歌山中學(十六)
大阪商業(零)
和歌山中學(十六)

第一日(八月七日)

▲大阪市立工業對八尾中學

八尾の先攻に始まり無爲なるに反し工業盛に打ち五箇の安打と八尾の連失に五點を占めしかば八尾も二回の表に逆襲を試みて二點を得投手岡村を遊擊に退かしめ大北を投手に立て大いに締り徐ろにランを得んとせしが市立工業は毎回敵を壓迫し六回にて得點十二を得たり即ち規約に依り五對十二プラスAにて工業の大勝となる(バッテリー、八尾——大北、松本、工業——井内、久胡)

學	打	安	振	失	策	得點
八尾中學	二十二	三	十一	三	二	二
崎田	二					
本村	二					
本永	一					
北集	一					
儀	一					
龍吉	一					
松岡	一					
松豐	一					
大加	一					
大	一					
市立工業	三十	三	十三	三	五	十二
田	九					
松	一					
內	一					
上	一					
田	一					
溝	一					
田	一					
胡	一					
宮	一					
原	一					
吉	一					
井	一					
村	一					
村	一					
横	一					
金	一					
久	一					
二	一					

▲市岡中學對耐久中學

耐久の先攻に始まり三者悉く三振せしに反し市岡敵の連失に二點を得第二回また一點を得たれば耐久大に陣を固めさしもの市岡軍も稍々封じられ氣味にて七回に入り耐久山崎中堅安打に出で五島の安打に生還せしかば市岡もまた敵の失と安打に一點を得て得點四を算す茲に於てか耐久再度の猛襲を試み一點を回復せしが市岡の陣堅くして遂に拔く能はず二對四プラスAにて市岡の勝利となれり、平素對外試合をせざる耐久中學が

強敵市岡を得點四にて喰止めたるは偉とすべし(バッテリー市岡——中島、山田、耐久——津賀、山崎)

學	打	安	振	失	策	得點
耐久中學	三十三	三	十四	三	五	二
阪	一					
木	一					
崎	一					
川	一					
野	一					
島	一					
村	一					
口	一					
田	一					
々	一					
田	一					
佐	一					
山	一					
津	一					
北	一					
五	一					
中	一					
森	一					
津	一					
市岡中學	三十一	三	六	四	四	四
永	一					
島	一					
野	一					
中	一					
井	一					
田	一					
重	一					
田	一					
本	一					
富	一					
中	一					
松	一					
田	一					
樹	一					
石	一					
德	一					
山	一					
岡	一					

▲明星商業對高野山中學

チームオヴーケ及打擊に練習不足の感ある高野山中學は敵頭徹尾明星方の猛襲を被り未だ五回ならざるに既に明星方の得點十を算す、乃ち規約により十對零にて明星方の大勝となれり(バッテリー、明星——中西、中島、高野山——和田、野田)

學	打	安	振	失	策	得點
高野山中學	十七	三	九	三	二	零
熊	一					
藤	一					
野	一					
田	一					
田	一					
道	一					
守	一					
天	一					
今	一					
近	一					
綾	一					
野	一					
和	一					
德	一					
津	一					
業	一					
明星商業	二十二	三	十六	三	十	十
村	一					
川	一					
島	一					
口	一					
西	一					
本	一					
野	一					
治	一					
野	一					
田	一					
寺	一					
中	一					
谷	一					
中	一					
岡	一					
宇	一					
家	一					
小	一					

午後三時半試合開始

▲和歌山中學對大阪商業

當大會有數の好試合として一般の期待頗る大なりしが夏期休暇以來著早大選手河野、大村及び加藤諸氏のコーチを受けて猛練習をなせし和中の技は水際立ち、大商よりも一日の長あるを思はしめたり、第一回勞頭より和中は猛襲を試み大商の混亂に乘じて一擧九點を奪ひ而も毎回殆と入らざるなく二回に一點三回に一點を加ふ、大商乃ち石坂をプレートに立て、和中の猛打を封ぜんとしたるも勢に乘れる和中は尙も盛んに打捲り更に四回に四點五回に一點を占めて既に得點十六を數へしかばあはれ大商の意氣全く沮喪し毎回多くは凡打に終り遂にノーヒット、ノーランのまゝ、十六對零にて和中の大勝となれり(バッテリー、和中——戸田、矢部、大商——中村、淺田)

學	打	安	振	失	策	得點
和歌山中學	三十	三	六	三	二	十六
山	一					
村	一					
岡	一					
部	一					
田	一					
筋	一					
原(錦)	一					
笠川(豐)	一					
奥	一					
西	一					
永	一					
矢	一					
戸	一					
中	一					
小	一					
小	一					
大阪商業	十九	零	三	三	十一	零
阪	一					
逸	一					
村	一					
田	一					
田	一					
瀨	一					
瀨	一					
上	一					
石	一					
渡	一					
中	一					
盛	一					
淺	一					
豐	一					
高	一					
佐	一					
井	一					

第三日(十日)

一勝者試合—第二日は他府縣試合なるを以て九日一勝者戰を續行す、されど和中對明商の試合を終りたるのみ、雨天のため十日へ持越したり

▲和歌山中學對明星商業

和中の先攻に始まり一回和中の無爲なるに反し明星方勞頭田村左翼に安打して

出で中島の安打に遅り先づ一點を占めて幸先非常によかりしが三回和中得意の猛襲を試みて敵の連失に一舉七點を占めしかば明星方投手を小野に代へて和中の猛打を防がんとせるも和中更に物ともせず盛に打捲りて四回に三點、五回に一點、六回に五點、計十六點を得規約により十六對一にて和中の大勝となりたり

學		打	安打	三振	四球	得點
商業	村	二	一			
明星	川	十	五			
	島					
	口					
	西					
	本					
	野					
	治					
	野					
5	田	3	1	1	2	1
4	寺	6	2	1	1	
2	中	6	1	1	1	
6	谷	8	2	1	1	
8	中	3	1	1	1	
3	岡	9	1	1	1	
9	宇	7	1	1	1	
7	家	1	1	1	1	
1	小	1	1	1	1	

學		打	安打	三振	四死球	得點
中山和歌	山	三十三	八	七(中、小)	八(中、小)	十六
8	村					
6	奥					
3	西					
2	永					
1	矢					
5	戸					
4	小					
7	小					
9	谷					

▲大阪市立工業對市岡中學

は工業方の棄權に依り九對零にて市岡の勝を宣告す

第四日（十一日）

—最優勝試合—

▲和歌山中學對市岡中學

我社主催の全國優勝野球大會に大阪、奈良、和歌山の一府二縣より代表チームを選拔すべき試合にして午後二時より菊名、小林交互審判の下に試合を行へり、和中先攻一回共に得ず二回の裏に於て和中は好機を得しも殘壘に終りしに反し市中得意のバンド攻めに先づ一點を得たるも市中却つて此の一點を得し以來稍固くなれる氣味あり、六回に至るや市中の投手中島が二死の後四球を連發し押出して見る〳〵二點を得られ攻守地を替へたり、和中の意氣大に昂り市中も亦挽回に勗め七回には好打順を以て一死の後三者安打に出でしも空しく刺され和中は七回に四球一箇を利したる外一壘をだに踏まず其儘九回となり市中は二死の後走者一、二壘に據り最後のチャンスを得たるも後續振はず結局二對一にて和歌山中學勝ち我社寄贈の優勝旗を獲たり

學		打	安打	三振	四球	失策	殘壘	盜壘	犧牲球	得點
市岡中	永	三十六	一	一(戸田)						一
9	島									
1	中									
7	野									
5	本									
2	田									
4	道									
6	井									
8	田									
3										

學		打	安打	三振	四球	失策	殘壘	盜壘	犧牲球	得點
中山和歌	山	三十	八	二(中島)	五(中島)	六	六	一	零	二
8	村									
6	奥									
3	西									
2	永									
1	矢									
5	戸									
7	中									
4	小									
9	小									

第十二回東海野球大會

第十二回東海五縣聯合野球大會は八月十日より三重縣富田中學校庭に於いて擧行の筈なりしが雨天のため十一日より開始したり

第一日（八月十一日）

この日午後零時半昨年の優勝校たる山田中學選手より本社寄贈の優勝旗返納式を行ひ午後一時主催校たる富田中學校長田村氏始球式を擧げたる後

▲山田中學對岐阜中學

の試合を開始す岐阜軍先攻無爲なるに反し山田軍劈頭の打者澤山死球に出で置壘

學		打	安打	三振	四死球	得點
山田中	山	二十三	二	二(大橋)	三(大橋)	四
岐阜中	置					
	川					
	川					
	納					
	中					
	森（弟）					
6	澤					
3	鹽					
1	西					
7	堤					
2	菊					
5	前					
8	田					
4	鷹					
9	菊川					

學		打	安打	三振	四死球	得點
中山田	島	二十	二	十(西川)	五(西川)	一
阜中	野					
岐	藤					
2	橋					
6	林					
5	田					
1	木					
4	木々					
3	田					
7	賀					
8	星					
9	伊					
	大					
	小					
	鍵					
	高					
	佐					
	細					

西川の犧牲球に送られて三壘に進み堤の中堅飛球に生還して光榮ある最初の一點を得たるを始めとし毎回好打を連發し三回に二點、六回に一點を加へ得點計四點を算す岐阜軍第七回の表に於て一死の後小林、鎌田四球を利し高木左翼安打に出で一死滿壘となりて應援軍を熱狂せしめしが續く佐々木の二壘ゴロに小林生還して漸く一點を回復せしのち高木は離壘して二壘に刺され細田三振して好機を逸す爾後山田軍の堅陣牢として拔く能はず結局四プラスA對一にて山田軍の勝利に歸せり▲岐阜の敗因は打擊力の欠陷と投手の肩の不良とにあるが如し（球審橋本、壘審伊藤）

▲愛知一中對豐橋中學

今春試合の結果は互に一勝一敗にて兩軍の技倆伯仲の間にあり多大の興味を以て迎へらる、試合は愛知先攻第二回豐橋の小野田左翼越の本壘打を飛ばし先一點を得、三回猛打を連發し敵の連失に乘じて一擧三點を奪ひしより一中は投手長谷川を花井に替へ陣形を改めて防戰に力め四、五、八回に各一點を得しも豐橋亦四回と七回に二點を加へて六點を算し最後の九回戰に入る、一中長谷川、三輪、松山等引續きて好打に出で忽ち三點を恢復し六對六となりしより滿場總立となりて喝采す、豐橋代り攻め安打又安打に生還し七點となれるより忽ちゲームセットとなり七プラスA對六にて久しく海道に覇を唱へし一中惜き敗戰を遂げたり▲豐橋の投手下山の大まかなるカーブに愛知軍打擊を封ぜられたると豐橋の打擊圖に當りたるとが勝敗の分岐點なりしを見る（球審横山、壘審長屋）

學		打	安打	三振	四死球	得點
豐橋中	野	二十八	八	十(花、長)	二(花、長)	七(プラスA)
2	泉					
4	山					
1	栗					
5	野田					
6	田					
3	川					
7	場					
9	井					
8	田					

學		打	安打	三振	四死球	得點
愛知一中	山	三十	三	五(下山)	一(下山)	六
6	藤					
4	井					
2-1	川					
3	川					
1	谷（太）					
8	藤（慶）					
7	伊					
9	藤					
5	福					
	田					
	輪					
	松					
	伊					
	花					
	小					
	長					
	伊					
	福					
	三					

第二日（十二日）

▲斐太中學對富田中學

十二日午前八時二十五分開始、第一回斐太軍先攻せしも先頭の三打者悉く敵投手の球勢に弄殺されて得點なく富田代り攻むるや一死の後井田右翼に安打して出で中上四球を利し共に盜壘を重ねて生選先づ二點を奪ひしを手始めに敵投手の類殺する四死球と壘手の連失とに毎回殆ど得點せざるなく第三回の了りに於て已に六點を算ふるに至りしより斐太軍は投手石田を退け吉岡ブレートに立ちて防戰せしも及ばず富田は更に第四回に一點を第六回に五點を加へしに反し斐太は第七回に四球の押出しにて漸く二點を加へたるのみ兩軍の差尚十點を算せるを以て試合規約に依りゲームセットを宣し七回ゲーム十二プラスA對二のスコーアにて富田軍大勝せり▲健選の地にありて對校試合の刺戰を受けざる斐太中學としては頗當の成績なるべし（壘審花井、球審長屋）

學		打	安	三	四死球	振	打	敗
富田中	田	5	1	0	0	0	3	0
	岡	8	1	0	0	0	3	0
	田	2	0	0	0	0	2	0
	田	9	1	0	0	0	3	0
	阮	1	0	0	0	0	1	0
	中	3	0	0	0	0	3	0
	山	7	1	0	0	0	3	0
	原	4	0	0	0	0	2	0
	瀬	6	0	0	0	0	2	0
得點		四	三	安打	四死球	三振	打	敗
		二			十（毛利）		十三	
		二			八（毛利）			

學		打	安	三	四死球	振	打	敗
斐太中	藤	5	1	0	0	0	3	0
	田	6	0	0	0	0	3	0
	上	9	1	0	0	0	3	0
	利	3	0	0	0	0	3	0
	藤	7	1	0	0	0	3	0
	田	8	0	0	0	0	3	0
	井	4	0	0	0	0	2	0
	野	2	0	0	0	0	2	0
得點		四	三	安打	四死球	三振	打	敗
		六（吉、石）			九（吉、石）		二十一	
		十二						

▲愛知一中對岐阜中學

雙方とも前日の試合に敗戰せし一敗同志の戰にて何れが勝つも優勝戰には關係なき試合なれど兩軍互角の技倆を有し大會中有數の試合なり試合は十二日午後零時四十分岐阜中學の先攻にて始まり野頭先づ二點を獲得して敵膽を奪ひしが愛知一中代り攻め忽ち亦三點を得て一點を先んじ次に二回に三點第四回に一點を加へて七點を奪ひ岐阜中學は三回に二點五回に一點を入れて五點となり爾後第八回まで其儘に押進んで最後の第九回戰に入りし時岐阜中學の打撃大に振ひ先頭の星野は四球無死滿壘となり兩軍の彌次熱狂して滿場騷然たり折柄小林左翼に飛球を呈して死せしも續いて鎌田の安打及び高木の犧牲球に三者相踵いで生還し形勢一變して岐阜中學一點の勝越となる、愛知一中亦奮戰勇を鼓して起ち伊藤（太）伊藤（慶）四球に出で福田三輪のゴロに生還して二點を加へ九プラスA對八にて愛知一中の勝利に歸す▲岐阜の敗因は試合馴れぬ佐々木を陣頭に立て一回、二回に五箇の四球を與へ忽ち六點を奪取せられたる事に存す、愛知の捕手小川が敏捷なるモーションと正鵠なる速球とを以て二壘を監視し絶にて凱旋を許さゞりしは盟し大會中の異彩なり（球審森田、壘審村田）

學		打	安	三	四死球	振	打	敗
岐阜中	島	2	0	0	0	0	2	0
	野	6	1	0	0	0	3	0
	藤	5	0	0	0	0	3	0
	橋	8	1	0	0	0	3	0
	林	4	0	0	0	0	2	0
	田	3	0	0	0	0	2	0
	木	7	1	0	0	0	3	0
	木	1	0	0	0	0	1	0
	田	9	1	0	0	0	3	0
得點		四	三	安打	四死球	三振	打	敗
		八	七（花井）	五（花井）			三十一	

學		打	安	三	四死球	振	打	敗
愛知一中	松	6	1	0	0	0	3	0
	山	4	0	0	0	0	2	0
	伊藤（宗）	1	0	0	0	0	1	0
	花	2	0	0	0	0	2	0
	井	3	0	0	0	0	3	0
	小	8	1	0	0	0	3	0
	川	7	1	0	0	0	3	0
	長	1	0	0	0	0	1	0
	谷	5	0	0	0	0	2	0
	伊藤（太）							
	伊藤（慶）							
	福							
	田							
	三							
	輪							
得點		四	三	安打	四死球	三振	打	敗
		九プラスA	十（大橋）	四	五		三十一	

▲斐太中學對豐橋中學

實力に於て既に數等の優劣ある上斐太中學は午前中に於ける富田中學との試合に疲勞せるに反し豐橋中學は前日強敵愛知一中を撃破せる餘勢を藉つて殺到し來れるものなれば試合は最初より段違ひの感を免がれず午後四時十五分豐中の先攻にて始まり第七回の終りまでに豐中は二十九點を得しに反し斐太中は遂に一點をも得る能はず七回ゲーム二十九對零のスコーアにて豐中の大勝に歸したり▲「無人の境を行く」てふ形容詞は豐橋の走者のために作られたるかの觀あり、斐太軍守備に締りなきこと夥し（球審吉澤、壘審米富）

第三日（十三日）

—一勝者及最優勝試合—

十三日の最終日は午前中一勝者戰を行ひ午後優勝戰を擧行したり

▲山田中學對富田中學

共に一勝同志なるが山田は最初より必勝を期し正投手西川を三壘に退け第二投手澤山を陣頭に立てたるより富田奮激し盛なる應援隊を以て肉迫せしも富田軍最大の欠陥たる投手の不足は如何ともすべからず劈頭六箇の四球と一本の安打を與へて忽ち五點を山田のために得られたるを始めとし三回に二點、五回に三點を奪はれ第六回に入るや山田四度好機を捉へ二箇の四球と一本の安打に無死滿壘となりしより富田軍益々狼狽して投手毛利を伊藤に代へて悪戰苦鬪せしが勝に乘じたる山田は好打又好打、又もや五點を與へ計十五點を敗へたるに反し山田の守備極めて堅實にして富田は二回に二點、五回に一點を得たるにのみ遂に七回ゲーム十五プラスA對三を以て山田中學の大勝に歸したり▲富田の投手毛利の投球甚だ不正確なるのみならず、山田方の打撃に應ずる丈けのスピードもコントロールもなかりし事が此敗因を爲せるなり愛知一中と共に投手難の嘆なき能はず（球審蔵田、壘審村井）

學		打	安	三	四死球	振	打	敗
山田中	川	2	0	0	0	0	2	0
	納	6	1	0	0	0	3	0
	川	5	0	0	0	0	2	0
	山	7	1	0	0	0	3	0
	中	1	0	0	0	0	1	0
	菊川（弟）	8	1	0	0	0	3	0
	森	9	1	0	0	0	3	0
	鹽	4	0	0	0	0	2	0
	藤	3	0	0	0	0	2	0
得點		四	三	安打	四死球	三振	打	敗
		五（毛利）	六		十二（毛利）		二十七	
		十五プラスA						

學		打	安	三	四死球	振	打	敗
富田中	藤	5	1	0	0	0	3	0
	田	8	0	0	0	0	3	0
	上	2	0	0	0	0	2	0
	田	4	0	0	0	0	2	0
	利	7	1	0	0	0	3	0
	藤	1	0	0	0	0	1	0
	野	3	0	0	0	0	3	0
	田	6	0	0	0	0	2	0
	井	9	1	0	0	0	3	0
得點		四	三	安打	四死球	三振	打	敗
		五（澤山）	六（澤山）				十九	
		三						

▲山田中學對豐橋中學

今次大會の選手權を決定すべき優勝戰なるより觀衆頓に增加してグラウンドの周圍を埋め試合は緊張したる好ゲームなりき、即ち第一回豐橋先攻して得點なく山田代り攻め置鹽安打に出で盜壘と三壘の失に生還して先づ一點を得、第二回置鹽左翼安打に出で西川の安打と澤山、堤のバンドに送られて生還二點となりて意氣漸く昂る豐橋第五回に小野田三壘の失に生き馬場、村井ゴロを飛ばして出で一死滿壘となりしも後續の打撃振はず捕手の失により漸く一點を入れしのみ、第七回二箇の四球と一本の安打により再び滿壘の好機に望みしも後續凡打と三振に倒れて得る處なく山田代り攻むるや三度好機を捉へ菊川、置鹽、西川皆安打して滿壘となり堤のゴロと前納の安打に二點を加へて忽ち五點となる、第八回兩軍無爲、第九回豐橋決死の勇を鼓して立ち一死の後村井安

打に出で久田はゴロに牧野は四球に出で、一死滿壘となりし時山田の投手西川四球二箇を連發し續いて豐橋の小栗左翼に安打して忽ち三點を入れしも續く小野田の投手ゴロに今泉、小野田併殺せられて大事去り遂に五プラスA對四にて山田の勝利に歸し山田中學は茲に再び優勝して本社寄贈の優勝旗と賞牌を得東海五縣を代表し本社主催の全國野球大會に參加するの權利を得たり(球審橋本、壘審伊藤)

豐橋中學

守備	氏名
2	牧野
4	今泉
1	下山
5	小栗
6	小野田
3	早川
7	馬場
9	村井
8	久田

打數	安打	三振	四死球	犠牲	盗壘	殘壘	過失	得點
二十六	三	七(西川)	七(西川)	零	二	六	六	四

山田中學

守備	氏名
2	菊川
3	置鹽
1	西川
6	澤山
7	堤
5	前納
8	田中
9	菊川(弟)
4	鷹森

打數	安打	三振	四死球	犠牲	盗壘	殘壘	過失	得點
二十九	七	七(下山)	一(下山)	二	二	十	四	五プラスA

▲概評　投手の腕に優劣ありし爲めなるか將又持ち前の打擊力に差異ありしによるか兎に角結果に於て豐橋の安打四本に對し山田は七本を飛ばし、其の差は軈て雙方得點の差となりて現はれたるの觀あり、それに豐橋は第一回に一點を敵に先んぜられ二回以後少しく焦慮り氣味となり、第四回に今泉と下山が暴進して併殺を喫したるが如き又第七回に於ける小野田、馬場等の連失の如き特に此の感を深からしめたり、而かも滿壘の好機に際會する事三回、無死にして二壘と三壘に走者を有する事一回實に前後四回まで絕好のチャンスに遭遇しながら後續打者の打擊によりて生還したるものは僅に一人あるのみ、今少しく理論的に攻擊法を研究し居たらんには恐らくは負を轉じて勝とする望なかりしにあらず、山田の强味は投手の强味なるが此日は各壘手、野手何れも實力以上の活躍を試み殊に一壘手置鹽の奮闘振りは實に目ざましいものありき、先づ雙方の技倆互角と見るを至當とすべきか

各校試合成績表

校名	試合數	守備率	打擊率
山田中學	三	、九一三	、一七八
豐橋中學	三	、八七一	、一八三
愛知一中	二	、九一六	、一二八
岐阜中學	二	、八八六	、二〇〇
富田中學	二	、八五一	、一五〇
斐太中學	二	、六二六	、一〇七

山陰兩野球大會

從來鳥取、島根兩縣合同にて山陰野球大會を擧行し來りしが近年兩縣の確執甚だしく遂に本年は兩縣各別に大會を行ひ各優勝チームを大阪に送り本社立合ひの下に決戰試合をなし何れかの勝者を山陰代表者として本社の全國大會に參加せしむる事となり、別々に豫選を行ひたり

▲島根縣野球大會

本社主催全國野球大會に參加すべき選手權の獲得豫選試合(**松江中學對杵築中學**)を八日午後三時より杵築中學校グラウンドに於て開催したり審判は千家、渡邊兩大學生にて杵中先攻し松中一點を得第三回目にかいて杵中一擧二點を盛り返し次で三點を得たるより大勢略定まり結局杵中九對松中三にて杵中の勝利に歸したり

杵築中學

守備	氏名
5	遠藤
6	山根(愼)
1	千家
2	奈良井
3	福田
4	秦
8	兒玉
9	猿木
7	山根(齊)

打數	安打	盗壘	犠牲打	得點
三十九	四	十	一	九

松江中學

守備	氏名
1	森脇
7	森山
5	平井
3	藤岡
2	井川
4	篠原
9	小笠原
6	鈴木
8	西川

打數	安打	盗壘	犠牲打	得點
三十三	三	七	零	三

▲鳥取縣野球大會

第一日

▲倉中對鳥取師範

三日午前九時より開始、蔦谷、横田氏の交審の下に倉中先攻一回兩軍無爲二回鳥師四點を得、倉中三回に二點を得、然るに四回にて鳥師の猛打連發倉中四分五裂、一擧十三點を奪ふ、後半に及び倉中は投手を代へたるも纔に六回に岩本の三度目の安打に二點を得しのみにて爾來敵のなすにまかせ得點の機を得ず二十二對四にて倉中は憐むべき最後を遂げたり

鳥取師範

守備	氏名
6	内藤
4	白井
5	猪平
7	奥村
9	茂田
3	山室
8	松本
2	佐々木
1	長谷部

安打	盗壘	得點
六	八	二十二

倉中學

守備	氏名
5	河本
4	上田
8	久保
3-2	岩本
7	藤本
1-5	谷口
6	三島
2	佐藤
9	伊尾

安打	盗壘	得點
十	八	四

▲米子中學對鳥取中學

の試合は五高の勝部氏

米子中學

守備	氏名
8	野坂
4	村邊
7	村山
1	渡邊
3	森吉
9	藤井
2	植田
9	畑貝
5	今岡

打數	安打	三振	四球	盗壘	犠牲球	得點
三十九	四	十四(渡邊)	零(渡邊)	一	零	五

鳥取中學

守備	氏名
7	上田
2	松田
4	岩田
1	鹿田
6	田村
5	竹岡
8	中澤
9	小谷
3	松木

打數	安打	三振	四球	盗壘	犠牲球	得點
三十七	三	六(渡邊)	六(渡邊)	十二	一	十二

攻鬪頭氏の審判にて始まる、米中先攻、一回米中一點を得たるに對し鳥中一學六點を得二回、鳥中又一點を加へ三回、米中四點を恢復す四回、米中無爲鳥中三點を得、十對五にて形勢既に定まる五回、米中二死後滿壘となりしも右翼の好捕に無爲、鳥中一死後上田四球と連失とにより生還、其の後六七八九回米中振はず、鳥中は八回、鹿生絶好の左翼三壘打を飛して投手の暴球に生還、十二對五にて鳥中の勝利となる

第二日

—一勝者試合—

▲鳥取中學對鳥取師範

四日午後二時三十分より米子中學にて遠藤、船越兩氏審判の下に決戰を行ふ、鳥師先攻し一、二、三回鳥師凡打して無爲に終りしに反し鳥中は一回に上田四球に出でし後松田、鹿田、田村竹岡等安打を連發して四點を得三回に田村、竹岡、上田等内外壘に安打して再び四點を得たる時鳥師の捕手負傷し試合を續行する能はず遂に審判は放棄試合を宣告し鳥取中學は本大會の最優勝者となれり

▲山陰選手權試合

本社の全國大會に參加すべき山陰代表選手權決定の杵築中學對鳥取中學の野球試合は豐中グラウンドに於て十五日午後二時半より菊名(球)岡本(塁)兩氏審判の下に行はれしが日曜日の上に日く付の試合とて觀覽者夥しく見ひたり、試合は鳥取の先攻に始まり第一回二死の後四球と安打に滿壘となりしも松田中堅に飛球を呈して退けば杵築代り攻め勢頭三壘の失に藤原進み山根の投手ゴロに二壘にフォースアウトされしも山根二、三壘を盜壘して千家の二壘ゴロに先づ一點を擧げて幸先を喜ぶ、第二回鳥取の三者千家に屠られしが杵築方も亦入らず第三回に至りて安打と四球に鳥取無死滿壘となりしに千家悠々二者を屠りしも松田に四球を與へて上田を還らしめ茲に同點となりそれより雙方共に入らず第六回の裏に至り杵築方の山根三壘に快打して直に二壘を盜み又三壘を盜む時捕手の投球を三壘手逸して山根生還し又一點を先んず、第七回鳥取方一死の後中堅に安打せし岩田是又盜壘を重ねて田村の絶好の左翼安打に還りて再び同點となりそのまま九回に入りしが鳥取方最後の猛襲を試み敵の失策と安打に忽ち三點を占め得點五を算したれば杵築方頽勢を挽回せんと大いに勵めしも入らず遂に五對二にて山陰の優勝權は鳥取中學の手に歸したり

學	杵築中學		鳥取中學	
	藤原	玉木(齊)	家根	井田
5	遠藤	零	上田	田岡
6	山根	八(鹿田)	竹岡	田村
1	千家	一(鹿田)	岩田	田澤
2	奈良	二	鹿生	谷木
3	福井		田中	松田
4	桑原		松田	小田
8	見田		中田	松田
9	猪谷		小田	松田
7	根山		松田	松田
得點	四球	三振	安打	打數
二	一	八	零	三十一
五	六(千家)	十二(千家)	七	三十五

大正四年十月十五日印刷
大正四年十月二十日發行

發行所　大阪市北區中之島三丁目三番地　朝日新聞合資會社

大阪市北區中之島三丁目三番地
朝日新聞合資會社
編輯兼發行者　山口信雄

大阪市北區堂島裏三丁目十五番地
印刷者　谷口默次

大阪市北區堂島裏三丁目十五番地
印刷所　谷口印刷所